

「設置の趣旨等を記載した書類」 目次

I 設置の趣旨及び必要性	1
1. 高野山大学の沿革	1
2. 文学部教育学科設置の趣旨	1
3. 教育研究上の理念及び目的	9
4. 教育学科を文学部に設置する理由	12
II 学部、学科等の特色	13
1. 概要	13
2. 教育学科の教育目標	14
3. カリキュラムの特徴	14
III 学部、学科等の名称および学位の名称	17
IV 教育課程編成の考え方及び特色	17
1. 教育課程編成の考え方	17
2. 課程編成の特色	25
3. カリキュラム編成方針と科目区分の科目構成	28
V 教員組織の編成の考え方及び特色	38
1. 教員組織構成	38
2. 年齢構成	39
3. 今後の教員配置計画	40
VI 教育方法、履修指導および卒業要件	40
1. 教育方法	40
2. 卒業要件	41
3. 学位論文作成に関連する研究活動	41
4. 履修科目の年間登録上限、他大学での履修	41
5. 履修指導	42
6. 履修モデル	42
VII 施設、設備等の整備計画	42
1. 校地・運動場の整備計画	42
2. 校舎等施設の整備計画	43
3. 図書等の資料及び図書館の整備計画	44
VIII 入学者選抜の概要	45
1. 高野山大学教育学科アドミッション・ポリシー	45
2. 選抜方法	45
3. 入試制度	46
4. 選抜体制	47

IX	取得可能な資格	47
X	実習関係全体の具体的計画	48
	1. 教育実習の考え方	48
	2. 初等教育領域における実習	48
	3. 幼児教育領域における実習	51
	4. 保育実習関係	53
	5. 教育実習先の確保について	56
	6. 教育実習先との連携体制	55
	7. 体験学習について	57
X I	企業実習や海外語学研修など学外実習の 具体的計画	60
X II	2校地以上での教育活動について	61
X III	管理運営	62
X IV	自己点検・評価	64
X V	情報の公表	65
X VI	教育内容等の改善を図るための組織的 な取組	69
X VII	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	71

I 設置の趣旨及び必要性

1. 高野山大学の沿革

高野山大学は、初め高野山古義大学林と称し、明治19年（1886）に開校され、その後、大正15年大学令により単科大学へと昇格した。爾来130年、多くの人材を社会に輩出してきたが、高野山における教育の歴史は弘仁7年（816）の弘法大師空海による高野山開創にまでさかのぼり、1200年の歴史を誇るものである。

高野山は弘法大師への信仰に支えられ、天下の総菩提所として無数の死者を受け入れてきたことにより世界遺産に指定された。人々は、四国遍路や納骨信仰を通して大師という科学的理解を超越した人間の全体性に触れ、また大師の説いた、人間を超える存在である大日如来への畏怖の念を持つことにより、宗教的素養を育てることが出来る。

高野山大学では学則の第1条に、「教育基本法及び学校教育法に基づき、広く教養を培い、密教、仏教、人文及び社会に亘る専門の学芸を総合的且つ有機的に教授研究するとともに、弘法大師空海の綜藝種智の教育理念に則り、人格を陶冶し、学問・文化の伝承と発展に寄与し社会に貢献する人材を育成する」と定めている。ここに言う「綜藝種智の教育理念」とは、弘法大師空海が『綜藝種智院式并序』において、さまざまな学問・技芸を兼ね備え、多様な現象に対応可能な叡智を備えた人間を育成する総合的な教育の必要性を説き、「学ぶ意欲のあるすべての者に教育を受ける機会を与える」と宣言したことを指している。

こうして空海は、天長5年（828年）、わが国最初の大衆教育の場である綜藝種智院を京都九条の東寺近くに開設し、無料で多くの人々に学ぶ機会を提供したのである。広く解釈すれば、高野山大学はこの綜藝種智院を始まりとしており、1200年前から民衆への教育を重視してきたといえることができる。

現在本学は文学部の一学部より構成され、昭和14年（1939）に開設した密教学科と、平成26年（2014）に設置した人間学科の2学科を有している。今回、人間学科の教育・研究内容を活かしつつ、これを発展的に改組して、弘法大師空海の教育に対する高い理念を実現するべく、令和3年（2021）より大阪府河内長野市に文学部教育学科（以下教育学科と略称する）を設置する。この教育学科の構成は、入学定員50名、収容定員200名とする。

2. 文学部教育学科設置の趣旨

（1）高野山真言宗の期待

弘法大師空海の開いた真言宗においては、立宗当初から人間の育成に重点が置かれてきた。その延長線上に本学の開設もある。新たに教育学科を設置する目的は、空海を受け継ぎその教育理念を実現するためには、人間の育成に関わる教育者や、地域の活性化に貢献できる人材の養成が最重要であるという認識にたつものであり、本学の設立母体である高野山真言宗における人間形成とその教育にかける関心と情熱を背景とするものである。

高野山真言宗では60を超える寺院が、幼稚園もしくは保育園を有しており、これは真言宗が幼児の教育と保育に並々ならぬ関心を持ち、努力を払ってきたことの現れである。こうした寺院からは、従来から高野山大学での教員養成に対する要望が寄せられていたが、大学経営の事情から設置を見送ってきた。

今回、学校法人千代田学園との連携により教育学科の設置に踏み出すことを決意することができたが、建学の精神に基づく人材育成がこれにより充実し、本来の願いをかなえることが可能となったものである。

寺院は歴史的に見ても伝統的に地域の教育の中核の役割を担ってきており、初等教育や幼児教育の教員を育成することは、従来の真言宗をはじめとする寺院の役割と親和性がある。あるいは、宗教が人々の心に寄り添いその安寧に貢献してきたことから、地域の活性化や心のケアを担う人材の輩出は、間違いなく高野山大学の大きな任務の一つである。

(2) 地域の期待

周辺地域の教育委員会への構想説明に際しても、訪問した全ての教育長が本学の構想に賛意を示し、教育現場で活躍しうる教員養成の必要性と本学の新しいプログラム内容に期待を寄せている。南河内地域および和歌山紀北地域等の教育委員会の「教育学科設置要望」は以下の通りである。

設置要望書提出の教育委員会

大阪府

河内長野市教育委員会

堺市教育委員会

松原市教育委員会

藤井寺市教育委員会

富田林市教育委員会

大阪狭山市教育委員会

和泉市教育委員会

河南町教育委員会

太子町

千早赤阪村

和歌山県

橋本市

かつらぎ町

奈良県

五條市

(資料1 高野山大学教育学科設置についての要望書)

なお、河内長野市教育委員会とは令和2年3月2日に連携協定を締結した。平成30年度は教育長不在のため協議ができなかったが、令和1年になって松本芳孝教育長が着任され、前向きな検討が進み、協定調印が可能となった(資料2「河内長野市教育委員会と高野山大学との連携協力に関する協定書」)。

また、現職の校長、教頭など教育現場管理職の方々へのアンケート調査においても、高野山大学文学部教育学科で学んだ学生が「社会にとって必要」であり、「卒業生を教育現場に採用したい」との回答が90%を超えている(詳細は「学生確保の見通し」p.20参照)。

このように、構想している教育内容は、高野山学園のニーズだけでなく地域のニーズにも応えられるものであり、教育学科を設置する意義が十分にあると考えている。

(3) 教育学科の立地条件

新しく設置する教育学科は、大阪府河内長野市の大阪千代田短期大学の校地・校舎を利用する。大阪千代田短期大学は、高野山真言宗の末寺の住職によって弘法大師の教育理念を具現すべく、昭和40年(1965)河内長野市に千代田短期大学として開学、翌年に大阪千代田短期大学と名称変更され、平成6年(1994)に現在の緑豊かな素晴らしいロケーションに恵まれた小山田町の高台に新学舎が竣工された。周囲には、果樹園、農地、市営の運動場や、公的施設もあり、教育・体験プログラムに打ち込める理想的な環境である。校舎も比較的新しく、採光性の良い学習に適した施設であり、大学のキャンパスとして利用することに問題ない。同キャンパスの敷地面積は21,718m²、校舎面積8,025m²であり、大学設置基準上の収容定員800人以上の基準を満たしており、短期大学の現収容人数260人、本学教育学科予定収容人数200人を収容することが十分に可能である。

本学と千代田学園とは弘法大師の教育理念を共有する大学として、平成29年1月に連携協定を締結しており、すでに多様な活動が協同で行われている。今回の校地・校舎利用もこうした連携の一環として検討されてきたものである。

河内長野市は、従来から高野山への参詣道である高野街道の宿場町として栄え、歴史的に高野山との関係の深い地域である。本学とも生涯学習その他で連携を進めてきている。

また、近隣の南河内地域は河内長野市と同じく、高野街道が通り、宿場や沿線として栄えた地域である。現在は南海電気鉄道高野線が貫いており、地域の住民や自治体は歴史的・地域的に見ても高野山に親しみをもっている。したがって、本学の河内長野市における教育学科設置は、周辺住民からも好意的に受けとめられており、たとえばキャンパス予定地の河内長野市小山田町地区とは連携協定を交わすまでに至っている。

本学と河内長野市の相互協力体制は、地域の小学校や幼稚園、保育園、社会福祉施設等との連携を円滑化し、より地域に密接した体制で幼児教育、初等教育や保育、心理関連の人材育成の土台となるものである。

また、本学は従来から和歌山県に存在する大学の一つとして、和歌山県下において高大連携や生涯学習などの地域連携の取組を行なっており、教育学科設置後もより一層、和歌山県紀北地域の自治体や住民、学校や保育園、施設との連携体制を整え、地域に根ざした幼児教育、初等教育教員や保育、心理ケアの知識を有する人材育成に努めていく予定である。

(4) 教育学科の教育理念および養成する人材像

高野山大学では、学則第1条に「弘法大師の綜芸種智の教育理念に則り、人格を陶冶し、学問・文化の伝承と発展に寄与し社会に貢献する人材を育成することを目的」とした「人材育成目標」を示しており、文学部では、それに基づき「いのち」のあらゆる営みを尊び、人間とその環境の共存共生をはかり、諸民族諸地域の文化を理解し、新しい文化を創造して、社会に貢献する人間性豊かな人材を育成する」（高野山大学履修規程 第2条（1））との教育理念を掲げている。

前述してきた設置趣旨や上述の高野山大学の教育理念を踏まえて、本学教育学科の教育理念と養成する人材像を以下のように定める。

・教育学科の教育理念

本学の教育理念のキーワードは「いのち、文化、創造」である。弘法大師空海は、密教をわが国に伝えた宗教者であるだけでなく、書や文に秀でた文化人であり、教育者であり、民衆教育の創始者であった。綜芸種智院の思想は、様々な学問や技術を、学びたいと思う人すべてに無料で提供するというものであり、空海がいかに教育を大切にしていたかが理解できる。学習内容は、九流・六芸）・十蔵）・五明が例として挙げられているが、仏教だけでなく広く世間の学問や技芸を含んだものである。「九流」には陰陽家や儒家、墨家などに加えて農家があり、農業技術や農の思想が含まれる。「六芸」は、礼節（礼儀）、音楽、弓術、馬術、文学（書道）、数学（算術）であり、「五明」は、工巧明（工芸・工学技術、天文暦学）、医方明（医学と薬学）、声明（言語と文法学、文学）、因明（論理学）、内明（仏教学）である。農業や工芸から馬術や弓術なども含まれる。

なぜこのような様々な学びを含む教育課程を目指したのか。空海は、「九流六芸は代を救うの舟梁、十蔵五明は人を利するのこれ宝なり」と述べている。綜芸種智院での学びは、人間的成長と人々や社会のための学びだというのである。

人間の教育に携わる教師は、こうした空海の思いに応じて「社会に貢献する人間性豊かな人材」として成長しなければならない。よって、教育学科が養成しようとする人材像を以下のように定める。

◎教育学科が養成する人材像

「人間や自然、多様な文化の価値を大切にし、地域社会や文化の発展に貢献しうる人間性豊かな人材」

本学教育学科は、教員養成を旨とする学科であり、幼児教育や初等教育の教員を養成することを目的としている。教育現場で活躍しうる教員を目指す、今日の学校現場では、不登校児童や校内での暴力行為、日本語指導が必要な外国人児童などが急激に増加している。たとえば、平成 29 年度のデータでは、小学校で 35,032 人、中学校 108,999 人、高等学校 49,643 人、合計で 193,674 人もの児童生徒が不登校だという。しかも、小・中学校では、年々増加の傾向にある（「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文科省、平成 29 年度）」）。

教員には、教科や教職の知識・技術だけでなく教職者としての使命感や倫理意識、子どもたちに寄り添い耳を傾ける心、保護者の気持ちを理解し対応できる姿勢、異なった価値観を互いに理解しあう心やコミュニケーションの力など、道徳性や人間性をも併せ持つことが求められる。したがって、上記の人材像を実現するための教育目標を、以下のように設定する。

◎教育学科の教育目標

「教育学科は、建学の精神に基づいて、道徳性と豊かな人間性を兼ね備え、国際的視野を持った実践力のある教員養成を目的とするとともに、地域貢献のできる人材を養成する。」

真言密教の教えは、世界に存在するものすべてに価値を見出すものであり、多様な文化や価値観を理解するために必要な視点を示している。道徳性や豊かな人間性、国際的視野（広く多角的にとらえられる視野）を培うための基礎となる教えであり、教育目標の達成に間違いなく寄与する。

また、教育再生実行会議は、「学び続ける社会、全員参加型社会、地方創成を実現する教育の在り方について」（第 6 次提言、H27..3.4）において、1. 「学び続け、挑戦できる社会」、2. 「全員参加型社会」、3. 「教育がエンジンとなって地方創成」の 3 点の提言を行い、「教育の力で地域を動かす」という方向性を強く打ち出した。

同年度末には、中教審答申「新しい時代の教育や地方創成の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（H27.12.21）が出されて、「学校と地域の連携・協働の必要性」の認識のもと、今後の連携・協働の姿を以下の 3 点に纏めている。

1. 地域とともにある学校への転換
2. 子ども大人も学びあい育ちあう教育体制の構築
3. 学校を核とした地域づくりの推進

このように、学校と地域の連携の必要性はますます大きくなっており、教員は校内での教育活動だけでなく、地域の人々とも連携・協働していくことが求められる。したがって教員養成においても、これに関連する資質・能力の育成を視野にいれておかねばならない。本学教育学科の教育目標に、地域連携を入れているのは、こうした社会的背景にも基づくものである。

上述したように、真言密教の教えは、多様な文化や価値観を理解する視点を示しており、地域の様々な人々と連携・協働するためにも有益であると考える。

教育学科の教育目標を達成するために、ディプロマ・ポリシーを以下のように定め、その実現のためにカリキュラム・カリキュラム・ポリシーを設定している。

【教育学科 学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）】

文学部教育学科のカリキュラムにおいて卒業要件を満たす単位を取得し、初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につけると共に、次の資質・能力を備えた学生に学士（教育学）の学位を授与する。

1. 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力

（1）授業構成力、教材開発力を身につけ、学習活動を適切に運営できる力を有する。

（2）子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する。

（3）子どもたちの悩みを受けとめ、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する。

2. 地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力

（1）地域社会および生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。

（2）地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する。

ディプロマ・ポリシーでは、学位授与の前提として、卒業要件を満たす単位取得とともに、「初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につける」ことを求めており、加えて、本教育学科が求める人材像「人間や自然、多様な文化の価値を大切にし、地域社会や文化の発展に貢献しうる人間性豊かな人材」の実現の要件となる資質・能力を規定し、それらを身に付けることを求めたものである。

一つは、「教育現場で活躍しうる実践力・人間力」であり、二つめには「地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力」である。

この実践力や人間力の内実として、前者では（1）授業構成力、教材開発力、学習活動の運営力、（2）子供たちに寄り添い、仲間と協働して困難を克服する力、（3）カウンセリング・マインドや心理ケアの知識・能力、後者の地域貢献にかんする人間力では、（1）地域社会・文化を大切にし、ケアの心で支援できる知識・能力、（2）協力して地域活性化に貢献できる知識・能力、をあげている。

これによって、教育学科のもとめる教員像の基本的な姿も明確になると考える。

【教育学科 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）】

本学の教育理念と教育目的に基づき、大きく「専門科目」群、「基礎科目」群とでカリキュラムを編成し、「専門科目」の中に、「理論的科目」群と「体験的科目」群を置く。「理論的科目」群には、「教職関連科目」や「心理関係科目」に加えて、「体験サポート科目」群を特別に配置する。「体験サポート科目」群は、「体験的科目」の学びと、「理論的科目」の学びを繋ぎ、体験と理論的な学び、経験と知識との結合を図るために配する。

1. 「理論的科目」では、教職や心理関係についての専門的知識・技能を育み、実践力のある教師や社会人としての資質・能力の育成を目指す。
2. 「体験的科目」は、本学の最も特徴的な科目群であり、教員に必要な資質・能力を育成するために設定した科目群である。1年次から、学校や地域において多様な体験を積み重ね、地域での様々な年齢層・職種の人々とのふれあいを通して、相手の話に耳を傾け、分かりやすく伝えられるコミュニケーション力や、相手の気持ちに寄り添うことのできる能力、困難にぶつかってもやり遂げられる力、仲間と協力してものごとを完成させる実践力などを育むことを目的とする。
3. 「体験サポート科目」によって、実践と理論をつなぎ、大学での学びを確かに内実化することを目指す。
4. 「基礎科目」は、建学の精神に則った本学の特徴的な科目や、教養科目、僧侶科目などを配し、「いのち」や、社会、文化について理解し、人間を含む世界への豊かで多様な視点を育むことを目指す。

ディプロマ・ポリシーで掲げた知識や資質・能力の獲得を実現するために、カリキュラム・ポリシーにおいて、課程編成の基本的な方針を示し、それによって教育学科の課程を編成している。課程全体を「専門科目」と「基礎科目」の二つの群で構成し、「専門科目」群に、上記の資質・能力を育成するための工夫をした。

「基礎科目」は、建学の精神に基づく人間的成長と社会認識を育む学びである。ポリシーでは、「社会、文化について理解し、人間を含む世界への豊かで多様な視点を育む」としている。

「専門科目」群は、教職に関する基礎的専門的知識・技能を習得するとともに、教員に必要な資質・能力を育成するための科目群である。詳しくは、「教育課程編成の特色」の項で説明する。

（５）教育学科の重点的な機能と研究対象とする中心的な学問分野

中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（H27.12.21）では、今日の社会に対して「知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展など」大きな社会変化が起きており、「新たな知識や技術の活用

により、一層社会の進歩や変化のスピードは速まる可能性がある。」と述べて、わが国の将来の発展と繁栄の維持のためには、「様々な分野で活躍できる質の高い人材育成が不可欠である。こうした人材育成の中核を担うのが学校教育であり、その充実こそが我が国の将来を左右する」と、教員養成の重要性を指摘している。

答申では、このような社会的背景のもと、「これからの時代の教員に求められる資質・能力」として、従来から必要とされてきた使命感や責任感、教育的愛情、教育・教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力等に加えて、以下のような資質・能力の必要性をあげている。

- ・ 学び続ける姿勢
- ・ 情報の収集・選択・活用能力や知識を有機的に結び付け構造化する力
- ・ アクティブラーニングの視点からの授業改善、道徳教育、外国語教育、ICT活用、特別支援教育等の課題に対応できる力
- ・ 「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材との効果的な連携・分担、組織的・協働的に課題解決に取り組む力

教員という職業がいかに専門的であり、かつ人間的な力が求められているのかが分かる答申である。教育学科は、こうした教員養成を行う目的大学であり、「高度専門職業人」の養成のための基礎的基盤的な学習を提供し、実践力のある教員養成に重点を置く。

また、様々な地域団体での体験を積み上げて、教員として必要な資質・能力の形成に寄与するように課程編成を行っているが、それによって培われる人間力は、地域の安心や活性化の原動力となれる教員を育てることにつながると考えている。

社会貢献は、本学教育学科の教育理念の柱である。すでに河内長野市教育委員会とは地域の教育に関わる事項で連携協定を結んでいることに加えて、地域体験活動のために協力をお願いした各団体ともそれぞれ連携協定を交わしている。地域の活性化等に貢献できる条件は整っており、今後さらに進展することが期待できる。

連携している大阪千代田短期大学も、河内長野市を中心とする地域と連携・協力していることから、本学と共同運営する「地域教育・福祉総合センター（仮称）」の設置を構想している。同センターは、研究部門、地域貢献部門、事業部門の3部門で構成し、地域の様々な機関、団体等と連携して地域貢献を進めていくように構想している。（構想図は「XVII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制、3. 適切な指導体制について」p.73 に掲載）

したがって、中教審答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年）で示された7種類の高等教育機能の内、本学教育学科は、「高度専門職業人養成」を重点に置き、同時に「社会貢献機能（地域貢献）」をも大学の機能とする。

これらの重点的機能を研究的に支える研究分野は、教育学、教科教育学、英語学、心理学、社会福祉の分野である。

教育学分野では、教育方法論、教育課程論、教育社会学、生涯学習論などの研究分野で教育・研究を行う。

教科教育学の分野では、社会、理科、国語、家庭、体育、音楽、初等英語の各分野で教育・研究をすすめる。各科の教育内容や方法、教材開発などの研究を深め、幼児教育や初等教育の教育にも反映する。

英語学分野では、英語コミュニケーションや、異文化理解などの研究に加えて、英語教育についての研究も行う。

心理学の分野では、主として臨床心理学分野で教育・研究を進め、心理ケアに関する実践的な対応も行う。

社会福祉の分野では、社会福祉学に関する教育・研究を進め、学校教育や、保育分野、地域支援などに活かす。

3 教育研究上の理念及び目的

本学文学部の教育理念、人材育成目標、教育研究上の三ポリシーは以下の通りである。

文学部 教育理念

弘法大師の精神に則り、「いのち」のあらゆる営みを尊び、人間とその環境の共存共生をはかり、諸民族諸地域の文化を理解し、新しい文化を創造して、社会に貢献する人間性豊かな人材を育成する。

(高野山大学履修規程 第2条(1))

文学部 教育目的

- ① 生命尊重の精神に基づき、人間の存在と叡知を敬い、文化の諸相を理解する能力を養う。
- ② 地域社会および生活文化を重視し、その新しい発展に寄与する創造性を養う。
- ③ 専門的知識と実践的技能の修得を通して、社会に貢献する人間性を培う。

(高野山大学履修規程第2条(2))

文学部 アドミッション・ポリシー (入学者受入れ方針)

本学の教育理念である「『いのち』の営みを尊び、人間と環境・文化を理解し、人間性豊かで創造性にあふれた人材を育成する」に共感し、密教・仏教の古典に学び、みずから考え行動しようとする、学習意欲の高い学生を受け入れる。

文学部 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

本学の教育理念に基づき、密教・仏教の古典に学び、それを実践にいかしていくための広範な知識・技能を基礎的なものから体系的に教授し、最終的に必修科目としての卒業論文作成において丁寧な個別指導を実施し、それまでの学習成果の総合的な発揮を促す。

文学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学の教育理念に照らし、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

1. 体系的に学んだ専門的な知識と方法論に基づいて、総合的に問題を解決し新たな価値の創造につなげていく能力が、一定の水準に達したと認められる学生。
2. 生命尊重の精神に基づいて人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力を有する学生。

本学文学部は弘法大師の教えを基礎に、人間存在や文化の価値を大切にし、地域社会や文化の発展に貢献しうる人材の育成を基本としており、それに基づいて三つのポリシーを設定している。こうした考えは教育学科が目指す教員養成とまったく一致するものである。したがって、文学部人間学科を改組して教育学科とすることに矛盾はない。

教育学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、あらためて示す。

【教育学科 学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）】

文学部教育学科のカリキュラムにおいて卒業要件を満たす単位を取得し、初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につけると共に、次の資質・能力を備えた学生に学士（教育学）の学位を授与する。

1. 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力

（1）授業構成力、教材開発力を身につけ、学習活動を適切に運営できる力を有する。

（2）子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する。

（3）子どもたちの悩みを受けとめ、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する。

2. 地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力

(1) 地域社会および生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。

(2) 地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する。

「1. 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力」は、文学部ディプロマ・ポリシーで示す「専門的な知識・方法論に基づく、問題解決や価値創造の能力」に対応しており、「2. 地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力」は、「人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力」とも対応するものである。なお、こうした「教育現場で活躍しうる実践力・人間力」や「地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力」を育むには、教室における知識・理論の学びだけでは十分でない。教育現場における体験的な学びや、地域の多様な職業・年齢の人々との交流の機会などを十分に保証することで初めて、目的とする資質・能力の形成が可能となる。

したがって、教育現場以外での体験学習は、地域の活性化に寄与しうる資質・能力を形成するだけでなく、教職者として成長するための教職の学びを補完し強化する役割をも担っている。教育課程はそうした考えのもとに編成している。

【教育学科 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）】

本学の教育理念と教育目的に基づき、大きく「専門科目」群、「基礎科目」群とでカリキュラムを編成し、「専門科目」の中に、「理論的科目」群と「体験的科目」群を置く。「理論的科目」群には、「教職関連科目」や「心理関係科目」に加えて、「体験サポート科目」群を特別に配置する。「体験サポート科目」群は、「体験的科目」の学びと、「理論的科目」の学びを繋ぎ、体験と理論的な学び、経験と知識との結合を図るために配する。

1. 「理論的科目」では、教職や心理関係についての専門的知識・技能を育み、実践力のある教師や社会人としての資質・能力の育成を目指す。
2. 「体験的科目」は、本学の最も特徴的な科目群であり、教員に必要な資質・能力を育成するために設定した科目群である。1年次から、学校や地域において多様な体験を積み重ね、地域での様々な年齢層・職種の人々とのふれあいを通して、相手の話に耳を傾け、分かりやすく伝えられるコミュニケーション力や、相手の気持ちに寄り添うことのできる能力、困難にぶつかってもやり遂げられる力、仲間と協力してものごとを完成させる実践力などを育むことを目的とする。

3. 「体験サポート科目」によって、実践と理論をつなぎ、大学での学びを確かに内実化することを目指す。
4. 「基礎科目」は、建学の精神に則った本学の特徴的な科目や、教養科目、僧侶科目などを配し、「いのち」や、社会、文化について理解し、人間を含む世界への豊かで多様な視点を育むことを目指す。

なお、このような目標を実現するにふさわしい学生を受け入れるために、以下のようにアドミッション・ポリシーを設定している。

【教育学科 入学者受入れ方針 (アドミッション・ポリシー)】

教育学科では、以下のような学生を求める。

1. 本学の建学の精神および教育目的を理解し、人間的成長と学ぶ幸せを願う人
2. 教育について関心と意欲を持ち、大学での履修にふさわしい基礎的な学力を有する人
3. いのちを尊び、子どもたちやすべての人々に寄り添い、「利他」の精神を育もうとする人
4. 学校や地域での活動に積極的に関わる気持ちを持つ人
5. 探究心・好奇心を高め、社会に貢献する意欲を有する人

4. 教育学科を文学部に設置する理由

すでに見たように、高野山大学では、学則第1条に「弘法大師の綜藝種智の教育理念に則り、人格を陶冶し、学問・文化の伝承と発展に寄与し社会に貢献する人材を育成することを目的」とした「人材育成目標」を示している。また文学部では、それに基づき「いのち」のあらゆる営みを尊び、人間とその環境の共存共生をはかり、諸民族諸地域の文化を理解し、新しい文化を創造して、社会に貢献する人間性豊かな人材を育成する。」との教育理念を掲げている（高野山大学履修規程 第2条(1)）。

文学部ディプロマ・ポリシーにおいても、「生命尊重の精神に基づいて人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力を有する学生」に学位を授与するとしており、学問や文化の伝承や発展に寄与しうる人材の育成を重要な目標としている。

このように本学文学部は弘法大師の教えを基礎に、人間存在や文化の価値を大切にし、地域社会や文化の発展に貢献しうる人材の育成を基本としており、こうした考えは、教育学科の教育目標とまったく一致する。

文学部の真言密教の教えは、世界に存在するものすべてに価値を見出すものであり、多様な文化や価値観を理解するために必要な視点を示している。これは、様々な子どもや保護者と向き合わなければならない教員の姿勢に通じるものであり、今後、日本人以外の子どもが多くなると予想される学校教育の場でも必要な視点である。

また、空海は宗教者であると同時に、文化人であり、教育者であり、わが国で初めての民衆教育の創始者でもあった。こうした「社会や人のために生きる」という姿勢が密教の学びの根底であり、教育の役割や教職の使命の深化を育むうえで、基本的な考え方を植え付けることができる。別の学部ではなく、文学部内に教育学科を設置することが重要であると考えている。

文学部密教学科に教職課程を有していることも、文学部に教育学科を設置する理由である。

密教学科では、中学校・高等学校教諭免許（国語）の取得が可能であり、教育学科の小学校国語科や幼稚園領域（言葉）について教育研究上の連携がとりやすく、内容を深めることが可能となる。小学校での「教科担任制」の実施が目前となっていることから、国語科について教育研究を進めることが可能となる。

また、本教育学科は、文学部人間学科を改組して設置するものであり、現在の間人学科教員の一部が教育学科の専任教員として移籍して教育研究活動に従事する。教育学科の教育課程も文学部の教員の協力支援をうけて編成している。したがって、理念的にも、人的・教育課程的にも、文学部に教育学科を設置することに無理はなく、文学部が母体となる学科として適切に運営できると考えている。

文学部に学士（教育学）の学位を持つ教育学科を設置する例はいくつかあり実際、近年においては、金沢学院大学、東北学院大学などが文学部に教育学科を設置している。

II 学部、学科等の特色

1. 概要

高野山大学は文学部の一学部より構成され、密教学科と人間学科の2学科からなる小さな大学である。密教学科は、昭和24年（1949）開設の長い歴史を有し、密教を本格的に学ぶことができる日本で唯一の学科であり、これまで多くの有為な人材を輩出してきた。一方人間学科は、平成27年（2015）設置の新しい学科であるが、学生募集に苦勞しており、今回これを改組して、弘法大師空海の教育に対する高い理念を実現するべく、令和3年（2021）より大阪府河内長野市に教育学科を設置するものである。

設置予定の教育学科は、初等教育および幼児教育の教員養成を主たる目的とする学科であり、教育現場で活躍しうる教員を輩出するとともに、地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力を身につけることを目指している。

文学部密教学科は、「真言密教の智慧を学び、現代社会に生かしていく」ことを主目的とし、真言僧侶の育成を軸としながら、真言密教の教えを備えた社会人の育成を目指している。

文学部人間学科は、「地域デザインコース」と「心理ケアコース」の2コースを設置し、「人を支え、地域を支える人」の育成をめざしてきた。今回、教育学科に改組することで人間学科は募集停止するが、人間学科が養成しようとしてきた人材像は、密教学科と教育学科に発展的に引き継がれる。

「地域デザインコース」で目指してきた社会学的な学びは、地域で活動する僧侶にとっても重要な学びであり、密教学科に取り入れることで密教学科の学びをより豊かにできる。

「心理ケアコース」では、高野山で培われてきた精神修養の伝統と臨床心理学に手法を学び、生と死を深く見つめる心を育む「スピリチュアルケア師」資格の取得が可能であった。密教学科では、すでに「スピリチュアルケア師」と「臨床宗教師」の両資格を取得可能としており、「心理ケアコース」の内容を引き継ぐことで、より充実した教育研究活動が可能になる。

心理ケアの学びは、教育学科においても人材養成の重要な要素であり、人間学科における心理ケアの学びの一部を教育学科でも展開する。

したがって、人間学科を教育学科に改組することで、従来の文学部の教育理念が大きく変わることはない。

2. 教育学科の教育目標

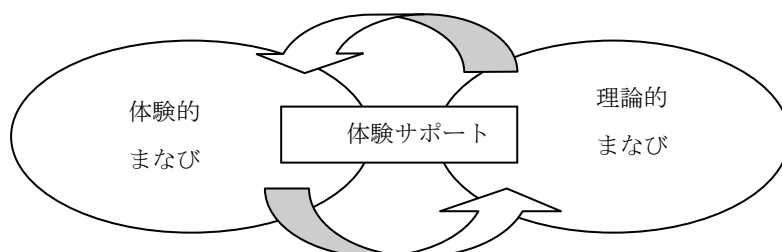
本学は『いのち・創造・文化』を教育理念とし、「いのちを活かす人材」を育成するという教育目標を根本においている。本学履修規定（第2条）では、これを以下の3点に纏めている。

- ①生命尊重の精神に基づき、人間の存在と叡智を敬い、文化の諸相を理解する能力を養う。
- ②地域社会および生活文化を重視し、その新しい発展に寄与する創造性を養う。
- ③専門的知識と実践的技能の修得を通して、社会に貢献する人間性を培う。

こうした教育理念と目標に基づき教育学科では、いのちを活かす人材として、道徳性と豊かな人間性を備え、ディプロマ・ポリシーで謳う「教育現場で真に活躍できる教員の育成」や「地域の安心安全や活性化に貢献しうる人材の育成」を目標とする。

3. カリキュラムの特徴

こうした教育目標の実現のために、理論的な学びと体験的な学びを二つの大きな柱として設定し、それらを繋ぐ体験サポート科目群によって理論と実践の結合をはかり、学びの内実化をはかっている。そのため、体験学習を徹底的に導入したカリキュラムを編成した。



詳しくは、「教育課程編成の考え方及び特色」で述べるが、概略以下の通りである。

(1) 学校・保育の現場や、地域での徹底的な体験学習

まず、学校・保育現場や地域における徹底的な体験学習を大きな柱として設定した。体験学習として、小学校及び幼稚園・保育園等での「学校・保育現場体験」と、地域での里山保全や農園、木工、馬術場などにおける「地域体験」とで構成しており、1年次から全員が必修科目として受講する。

① 教育・保育の現場での豊富な体験

1年次の段階から教育・保育現場での実際的な体験を積む。その体験が3年次からの本格的な実習教育に集約され、実りの多い実習となるように設計している。学校・保育現場の体験については、河内長野市教育委員会とプログラム内容について協議し、効果的な活動内容となるように設計している。

また、教職支援センターを河内長野キャンパスの教育学科施設内に設けて、初等教育・幼児教育の現場での長い経験を有する者がセンター員として就任し、教育・保育実習を迎える前の学生の指導にあたる。教育委員会と連携して学校・保育現場体験プログラムを企画実施する。この教職支援センターでは、実習の支援以外に、教職に関する学生のケアや進路相談、卒業生と連携しての教育プログラムの実施や卒業生の支援も行う計画である。

② 学外との交流も含んだ内容の深い体験プログラムの実施

週2日は、地域での体験プログラムを多様に設定して、その中から4単位（4講座）以上を体験するように時間割を編成している。体験プログラムとしては、農業体験、森林体験、馬術場体験、地域おこし、文化活動などを行う。

これらの体験プログラムでは、大学の教職員だけでなく、その分野で優れた技術や経験、知識を持つ地域の人材を「高野山大学特任マイスター（以下マイスターと略称する）」として認定し、TA（ティーチング・アシスタント）としてプログラムに関わっていただく。マイスターと大学の教職員が協力して、地域の教育力を最大限に活用する形でプログラムを運営するわけである。学生にとっては単に大学の教授陣から知識を学ぶだけでなく、マイスターから座学だけでは得ることのできない経験知や体験知を修得していく。マイスターと一緒に体験を積み重ねていくことで世代を超えた地域との連携を深め、同時に「コミュニケーション力」を身に付けていく効果も期待できる。

なおこれらのプログラムについては、「地域支援センター」を設置し、地域団体と連携して企画運営していく予定である。

(2) 教職科目等の理論的学び

教職を目指す学生が学ぶべき教職科目や心理関係科目を配し、教職の意義や各科の教授法等について学ぶが、加えて学級経営や学校理解の科目を揃えて、「チーム学校」の一員として学校現場で貢献しうる人材育成のためのカリキュラム編成を行っている。

(3) 体験的学びと理論的学びの結合

徹底的に体験学習を行うことは重要だが、それが教職科目等の理論的科目の学びと結びつくことが大切である。そのため、「体験サポート科目」群を設置して、特に地域体験に関わる学びや考え方、見方が可能になるような科目を配した。

(4) 時間割や学期制の工夫：「クォーター制による運用」

時間割：こうしたカリキュラムを実現するために時間割編成や学期制に工夫をしている。体験学習では、学校や地域団体の要望に沿って朝から体験学習先に出かけなければならないことが多い。したがって、週2日を体験学習に割り、残り3日を大学での理論的な学習とする時間割を採用した。

学期制：前期、後期をそれぞれさらに2タームに分け、年間4ターム（クォーター制）での運用を工夫し、3年次にはその中の1タームを必修科目を設定しないタームとして、長期留学や長期のフィールドワーク、教育実習などに支障がないように配慮している。

(5) フィールドワークの支援体制：「高野山大学特任マイスター制度」

こうした活動を支援するための「高野山大学特任マイスター制度」（後述 p. 22）を新設し、地域の有能な人材にTA（ティーチング・アシスタント）として関わってもらうことで、活動を円滑にすすめる工夫をしている。教育実習も内容のある実習ができるように工夫しており、特色のある教育内容となったと考えている。これらの内容は「課程編成の考え方及び特色」で詳述する。

また、「学校・保育現場体験学習」のために「教職支援センター」、「地域体験学習」のために、「地域支援センター」を設置する予定であり、そのコーディネートの下に全専任教員が学校・保育現場体験や地域体験に関わることで合意している。

(6) 学生に対する丁寧な指導：アドバイザー制度の活用

入学定員50人という少人数の学科であることを利点として活用し、少人数教育を徹底すると共にアドバイザー制度を導入して、入学時から卒業に至るまで、各教員が担当学生の就学指導、生活指導、キャリア支援を行う。学生個々の状況を的確に把握しきめの細かい教育を行う。

また学生の希望を把握し指導を的確に行なっていくため、学生との面談やポートフォリオなどを通じた学生の学習履歴や、生活指導、将来への希望などを通じて、学生の適性及び状況を把握する。1年次からキャリア指導・就職指導を通して将来への希望や適性を十分に把握して、学生個々に応じて幼児教育及び児童教育の学びへの適切な指導を行うことができる体制を構築する。

Ⅲ 学部、学科等の名称および学位の名称

文学部教育学科 学士（教育学）

Faculty of Literature、 Department of Education、 Bachelor of Education

学部の名称は「文学部（英訳：Faculty of Literature）」とし、学科名称は「教育学科（英訳：Department of Education）」とする。あわせて、学位名称については、そのカリキュラムの特徴と人材養成の目標に基づいて「学士（教育学）（英訳：Bachelor of Education）」とする。

Ⅳ 教育課程編成の考え方及び特色

1 教育課程編成の考え方

中央教育審議会に向けた文部科学大臣の諮問「新しい時代の初等中等教育の在り方について」（平成31年4月）において、Society 5.0時代の教育や学校、教育の在り方として、子供たちには、①読解力や情報活用能力、②教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、③対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要だと指摘されている。同時に、この時代の教師には、“ICT活用指導力を含む子供たちの学びの変化に応じた資質・能力”が求められていて、社会人の活用や、“地域住民とも連携・協力しながらチームとして学校運営を推進していく”ことが重視されている。

また新しい学習指導要領では、英語や道徳の教科を新たに設置し情報についての学びや、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのアクティブラーニングを充実することが求められている。教員養成系大学には、こうした時代の要請に応えうる教員を養成するために、どのような教育課程を設計したらよいか問われることになる。

カリキュラムを編成するため、まず、教員に必要な資質や能力について、中央教育審議会等々でどのように議論されてきたかをみておきたい。

（1）中教審や教育再生実行会議等で求められる教員の資質・能力

文部科学省の「教員の資質能力向上方策の見直し及び教員免許更新制の効果検証に係る調査集計結果」（平成22年）では、教員養成系大学の教育課程について「内容・カリキュラムが学校現場に則していない」のではないかとの問いに、学校教員の49.2%、学校長の51.9%、教育委員会の56.3%、学生の42.0%が、「則していない」と回答している。同調査では「大学教員の学校現場の経験」に関しても、学校教員51.4%、学校長64.0%、教育委員会60.8%が、現場経験が「不十分」と指摘している。

教育再生実行会議による第7次提言「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」(H27.5.14)では、「これからの教育に必要な資質・能力」として、主体的に課題を発見し、解決に導く力、志、リーダーシップ、創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感、感性、思いやり、コミュニケーション能力、多様性を受容する力等が列挙されている。

中央教育審議会でも、教員の資質・能力に関して何度も答申がなされてきた。「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」(H9.7.28)では、「今後特に求められる資質能力」として、地球的視野に立って行動するための資質能力(地球、国家、人間等に関する適切な理解、豊かな人間性、国際社会で必要とされる基本的資質能力)や、変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力(課題探求能力、人間関係に関わるもの、社会の変化に適応するための知識及び技術)、教員の職務から必然的に求められる資質能力(幼児・児童・生徒や教育の在り方に関する適切な理解、教職に対する愛着、誇り、一体感、教科指導、生徒指導のための知識、技能及び態度)などがあげられている。

平成17年には、「新しい時代の義務教育を創造する」(H17.10.26)において「総合的な人間力」として、豊かな人間性や社会性、対人関係能力、コミュニケーション能力、同僚性などがあげられ、平成24年「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(H24.8.28)では、これらに加えて、「地域や社会の多様な組織等と連携・共同できる力」があげられている。

平成27年になると「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(H27.12.21)において、自律的に学ぶ姿勢、学び続ける力、情報の収集、選択、活用能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力などが必要だと答申されている。

経済同友会も教育問題に対して提言しているが、もっとも最近の「自ら学ぶ力を育てる初等・中等教育の実現に向けて」(2019.4.3)では、教員の専門性について「ファシリテーション・スキル」をあげていることが興味深い。ファシリテーターには、場を構成したり、議論を活性化させ合意を進めることが求められるが、実際、教員にも、児童・生徒たちに知識を伝えるだけでなく、クラスを運営したり、チームとして教職員全体で教育活動を活性化することが求められる。そうした意味でもファシリテーション・スキルは重要である。ファシリテーション・スキルには、場のデザインや対人関係スキル、構造化スキル、合意形成スキルなどが含まれるが、これは、上記平成27年中教審答申で指摘された「知識を有機的に結びつけ構造化する力」とも関わる重要な能力である。

以上のように、教員として必要な資質・能力について様々な答申で何度も指摘されてきた。指摘されてきた資質・能力は、リーダーシップや思いやり、忍耐力、対人関係能力、コミュニケーション力、同僚性、学び続ける力、ファシリテーション・スキルなどであり、加えて、地域や社会の多様な組織等と連携できる力などの必要性があげられてきたわけである。

(2) 現場教員が感じている必要な資質・能力

われわれも、こうした資質・能力について教育現場の教員はどう感じているのかを調査して、現場で切実に感じている資質・能力と、中教審等で要請される資質・能力との両者を踏まえたカリキュラム設計を行いたいと考え、小学校現場の教員に対して、教員の資質・能力に関するアンケートを行った。

アンケートは、河内長野市教育委員会の協力のもとに市内小学校教員計 183 名から回答を得た。アンケート内容は、教育現場で必要な教員の資質・能力について、選択肢を示し、三つまで選択してもらった。同時に、教育現場での悩みについても選択肢から三つまで選択してもらい、必要性和重ねて分析の資料とした（詳しくは、資料 3 「小学校教員に必要な資質・能力に関するアンケート結果」参照）。

アンケート結果は下記（表—1）の通りである。

(表—1) 小学校教員に必要な資質・能力に関するアンケート調査結果

(小学校現職教員 183 名、2018.5 実施)

1. 教員に必要な資質・能力	(人)	(%)
① 児童の言葉をよく聴き、児童に寄り添う	143	78.1
② 教科をしっかりと教える力	103	56.3
③ 相手に分かりやすく伝える	81	44.3
④ 学び続ける姿勢	69	37.7
⑤ 仲間と協力してものごとを進める	67	36.6
⑥ 苦しくてもへこたれず最後までやり遂げる	38	20.8
⑦ 情報活用能力	9	4.9
⑧ ものづくりや飼育栽培活動の指導力	4	2.2

2. 教育活動上の悩み	(人)	(%)
① 授業づくり	117	63.9
② 児童理解	105	57.4
③ 保護者対応	96	52.5
④ 学級づくり	63	34.4
⑤ 特別支援教育	49	26.8
⑥ 他教員との協力	34	18.6
⑦ 学習評価	22	12.0
⑧ 地域との協働	16	8.7

(表一1) から分かるように、「児童の言葉をよく聴き、児童に寄り添う」ことが重要だという答えが圧倒的に多い(78.1%)。教育活動上の悩みについての質問でも、「授業づくり」(63.9%)に次いで「児童理解」は57.4%と高い。

また56.3%の教師が「教科をしっかりと教える力」を重要だと指摘し、悩みにおいては、「授業づくり」が63.9%で第1位になっている。授業についての悩みが高い背景には、教材研究や授業の準備を行う余裕がない教育現場の実情が反映されていると考えて良いだろう。

以下、相手に分かりやすく伝える(44.3%)、学び続ける姿勢(37.7%)、仲間と協力してものごとを進める(36.6%)、苦しくてもへこたれず最後までやり遂げる(20.8%)と続く。教科を分かりやすく教える力は当然必要なものだが、それ以上に、人間力とでもいうべき能力が求められていることがわかる。上述の各種答申結果ともオーバーラップする内容だと言ってよいだろう。

当然ながら、このような能力は、大学での講義を受講したからといって簡単に身につくものではない。問題は、こうした資質能力の向上を、教育課程においてどのようにしたら実現できるのかである。

(3) 非認知的能力を育む体験的学び

中室牧子氏は、誠実さや忍耐強さ、社交性、好奇心の強さなどの非認知的能力の重要性に触れながら、それらは「人から学び、獲得するものである」という米国ヘックマン教授の研究を紹介している(中室牧子『学力の経済学』、2016、p.87)。またポール・タフも、こうした能力は多様な経験や環境の産物でもあると述べている(ポール・タフ、『私たちは子どもに何ができるのか』、2017、p.27)。

非認知的能力の重要性は、近年特に注目されており、学習指導要領の改訂においても、「学びに向かう力」として位置づけられて、今後の教育の中心的課題の一つとなっている。

上述の教員に必要な資質能力も非認知的能力であり、人との交流を通して育まれるものであり、幼児から老人にいたる多様な人々や、教育関連にとどまらない多彩な体験によって、より効果的に育まれるものである。

したがって本学のカリキュラムでは、体験的活動をできるだけ沢山導入して、多様な人々と多様に関わることを重要な柱とすることにした。農業体験、森林体験、里山保全活動、地域活性化活動、馬術場体験、ものづくり、文化活動などを、地域の各団体と連携しプログラム化した。連携する団体は以下の通りである。

- | | | |
|---|----------|--------------------|
| 1 | 町づくり | 小山田小学校区まちづくり会 |
| 2 | 森林・木工・環境 | 大阪府森林組合南河内支店(木根館) |
| 3 | 里山 | NPO 法人森林ボランティアトモロス |

4	栽培	大阪府立花の文化園
5	栽培	公益財団法人河内長野市公園緑化協会
6	栽培・農業	和泉体験農園
7	栽培・農業	(農) 富田林市南地区協同組合 (農業公園サバーファーム)
8	農業	NPO 法人里山ひだまりファーム
9	果樹園	山口果樹園
10	動物	株式会社 乗馬クラブクレイン
11	芸術	公益財団法人河内長野市文化振興財団 (河内長野市立文化会館ラブリーホール)
12	工芸	レザークラフト工房 テハマナ

(資料4-1「地域体験実習先一覧」、4-2「地域体験案」)

体験学習として、たとえば森林組合との連携による体験活動では、森林の間伐から木材加工、木材の競り体験、木工品の製作までを一連のプログラムとして準備した。森と人間との関係性を学び、持続的な環境やエネルギー問題などへの関心を喚起する内容を含みながら、伐採や木工製品製作での技能修得にいたる学習をプログラム化したものである。木材の競り市で、自分たちの企画した製品を作るための木材を競り落とす体験では、ホームセンターで加工済みの木材を購入することとは全く異なる体験を味わうだろう。必要な木材の量と予算との検討が必要となり、計画的に考えなければ目的を達成できないし、大きな木材が驚くほど安い価格で競り落とせることも体験することになる。日本の木材産業の実情にも触れることになるだろう。そうして手に入れた木材で製品を設計し製作する活動を通して、デザイン力や木工技術を修得し、共同でものごとをなし遂げる体験を積むことになる。

あるいは、乗馬クラブとの連携プログラムでは、馬の世話、厩舎の清掃などの作業から乗馬が可能になるまで30時間のプログラムになっている。馬のような大型動物との触れ合いは、ホースセラピーなどで語られるように、高い教育効果を持つことが良く知られており、子どもたちの生命観に大きな影響を与えて、生命の大切さを強く実感すると報告されている(たとえば若狭蔵之助『生活のある学校』中公新書、1977)。しかも馬のような大型哺乳動物では、動物の気持ちに寄り添って初めて適切な飼育が可能になり、そうしなければ危険を伴うことにもなる。その一方で、馬の気持ちに寄り添って関わることができれば、まるで心の交流のような素晴らしい体験ができる(中川美穂子「小学校における動物飼育活用の教育的効果とあり方と支援システムについて」お茶の水女子大、子ども発達教育研究センター紀要4、53-65、2007)。

学校現場において、直接こうした体験をすることが困難であっても、教師になる者が持っておく体験としては貴重なものとなるだろう。

このような体験学習によって、まったく異なった人々や仕事との触れ合い、そこでのコミュニケーション力の育成や、ものごとを共同して作り上げる経験、困難に打ち勝つ体験などを積み重ねていくことになろう。教育現場に必要な資質能力の「相手に寄り添うことができる力」や「困難にぶつかってもやり遂げられる力」、「仲間と協力してものごとを完成させる力」などがこうして育まれていくはずである。

また、上述した文部科学大臣の諮問「新しい時代の初等中等教育の在り方について」（平成31年4月）において指摘された、「地域住民とも連携・協力しながらチームとして学校運営を推進していく」ことができる教員の養成にも合致する。

当然ながら、これらの学びは傍観者であっては成り立たず、活動に主体的に関わらざるをえない。その際には、体験に関連する理論的な学びを総動員して工夫し、理解を深めなければならない。事前の準備や、活動途中での振り返り、活動後の展開も一体となってこうした体験的活動が運営される予定になっている。まさに「主体的・対話的で深い学び」が生まれ、「主体的に考える力」も大きく培うことができる。同時に、教育現場に必要な実践的な力や、体験的活動に関する知識・技術をも身につけることができる。

（4）体験的学びをふんだんに取り入れたカリキュラム編成

こうした体験的学習を行うため、他の教員養成系大学にない大胆なカリキュラムを工夫した。

① 原則として、週2日間を地域や学校現場の体験学習にあてる。

述べてきたようなカリキュラムを実現しようとするれば、体験活動の時間をたっぷりとする必要がある。そのため、週2日間を体験学習のために空けてしまうという大胆な時間割を採用した。卒業に必要な科目の履修は十分可能であり目的の学びを実現できることになった。

② 「マイスター制度」を活用して、充実した学生サポートを行う。

「マイスター制度」は、高野山大学の新しい制度である（資料5「高野山大学特任マイスター制度について」）。

体験活動を軸にした学習スタイルでは、多くのサポーターが必要となる。大学の専任教職員だけでなく、地域の方々にTA（ティーチング・アシスタント）として支援してもらう仕組である。地域には、多様な経験や知識、技能をもっている有能な人材がたくさんおられる。こうした方々をマイスターとして認定し教育活動に関わっていただくことで、プログラムの円滑な運用が可能になり、学生の人間力育成にも大きな影響を与えてくれることになると期待できる。

また退職して時間が十分にあるが、これまでの経験等を活用する場面に出会うことが少ない人にとっても、学生たちに教えることは大きな喜びにつながるであろう。大学と地域との新しい連携の一つとなることを期待している。

（ア）マイスターの意義・関わる科目

本学教育学科が、カリキュラム上の特徴とした地域団体における体験学習は、農業や林業、果樹栽培、馬術クラブ、花の文化園、地域自治会、里山 NPO など、様々な団体において学生たちが体験活動を行うものであり、すべての学生がいずれかの体験活動を必ず行うために必修科目として設定している。こうした体験活動の積み重ねが、学生たちの人間力を培い、教育現場で真に必要な資質・能力を形成するという教育目的に基づいたものである。

こうした活動を円滑に進めるために、科目の担当教員に加えて、高野山大学特任マイスター制度を設けて、TA として活動を支える仕組みを工夫した。したがってマイスターは、学校現場体験学習と地域体験学習について TA としてかかわるものである。

(イ) マイスターになる者

マイスターには、地域団体や住民で、様々な分野のプロとして活躍された方に就任いただくが、例えば、農業体験では、農業従事者のベテランの方、馬術クラブでは、馬術クラブで長年指導に当たってきたベテランの方などを予定している。既に多くのマイスターが具体的に決定しており、加えて各団体に複数名のマイスターを用意する。

いずれの方々もその道のプロであり、マイスターの意義を理解した上でサポートいただくことになっている。各団体との個別の説明と合同説明会（H30 年、R1 年、計 2 回）を実施済である。

なお、マイスター認定は、以下のいずれかによる。認定審査は、書類審査および面接を実施して行う。

- a. 募集に応募して大学の審査を受ける
- b. 河内長野市教育委員会の推薦による
- c. 連携機関からの推薦による
- d. その他

(ウ) マイスターの役割

マイスターは学習プログラムの企画、改善等から教職員との協働に関わり、教育学科の活動支援を行う。これにより教員負担の軽減が図られる。支援活動には一定額の手当を支給する。

(エ) 成績評価との関連

実習担当教員はマイスターと密に連携するが、マイスターは成績評価および単位認定に直接関与しない。体験学習が終了した段階で、実習担当教員は学生と個別面談を行う。その際、実習先からの実習評価、提出物、指導記録をもとに、学生が報告、教員は指導を行う。また学生は、実習報告書を提出すると同時に、実習報告会において報告を行う。これらの過程を経て、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。教員はマイスターと共有した情報を一要素として総合的判断の中で勘案するが、直接的に成績評価および単位認定の判断を左右するものではない。

③

③ 充実した教育実習を行う。

教育実習は、多くの場合4週間ほど学校現場で学ぶ。学生にとっては貴重な経験になっているが、現場での体験と大学での理論的学びとの結合は意外と薄い。したがって、実習体験には大きな感激を示しても、大学での学びとのギャップを感じる学生も少なくない。もちろん教育現場での体験の重さは圧倒的であることも原因のひとつであるが、実習への参加の仕方にも原因があると考えられる。

実習参加の場合、事前・事後学習が行われるが、本学ではそれに加えて、必ず大学で学んだ理論的内容に関する課題を持って実習参加する方式をとる。こうした問題意識を持って参加することで、大学での学びと現実との関係性に強い関心を持ち、大学での理論的学びの理解についても一層深まることになるだろう。実習途中でも、振り返りの期間を入れてより内容の濃い教育実習とする予定になっている。具体的には、後述「実習の具体的計画」 p.40 を参照願いたい。

④ 留学やフィールドワークに支障が出ない時間割の工夫

前後期をそれぞれ2分割して、年間4タームで授業運営を行う時間割を採用するが、1タームは必修科目を置かない設定とする。そうすることで休暇期間と合わせて3カ月程度のフリータームを設定できるので、たとえば休学せずに3カ月の海外留学に行くことが可能になる。あるいは長期のイベントや研修に参加できる。教育実習はこの期間に実施するので、余裕のある実習が可能となる。途中に「振り返り」を入れた実習はこうして充実した形で実施できる。

もっともこの変則クォーター制は、実施しながら検討を続ける必要があるので、課程上では前後期のセメスター制で管理し、時間割での運用で改善しながら着実な検討をしたいと考えている。

⑤ 専門的・実践的な科目の早期学習、教養的科目は3、4年次に学習

専門的な科目と教養科目の配置については、教養科目の学びを基礎として専門に進むというのが通常である。しかし、大学設置基準の大綱化以降、一般教養科目の縮小化傾向が進み、早期から専門教育を学ぶ傾向が大となった。

本教育学科では、教科教育に関連する科目（教科の内容論や指導論等）を早期に学び、教育実習につなげていくと共に、教職科目や教養科目の一部を3から4年次に配当するようにしている。こうした科目は問題意識が低い状態で学習しても効果が乏しく、かつて学生から「パンキョウ」と揶揄されて上述の大綱化につながる一因ともなった。むしろ教育現場の実態を知り、教科指導法のような実践的な学習の後で学ぶことで、それらの意味を深く吟味することにつながる可能性が高い。また、教養的学びが、専門的学びの意味や意義を問い直し、高いレベルの学習に引き上げる効果を期待したいと考えている。

2. 課程編成の特色

(1) 教育学科の教育目標

文学部の教育理念およびディプロマ・ポリシー、教育学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、教育学科の教育目標を以下のように設定する。() 内に、対応する文学部および教育学科のディプロマ・ポリシーを示す。

- ① 広い学問教養と新しい時代の教育知識を持つ (文学部DP1)
- ② 課題探求力を培い、予測困難な時代に対応できる力を養う (文学部DP1)
- ③ 教職理解を高め、教育への意欲と愛情の養成、教育実践力の育成 (教育学科DP1)
- ④ 教職の学びに加えて、多様な体験学習による人間力の育成 (教育学科DP1, 2)
 - (ア) 様々な人々とのふれあいを通して、コミュニケーション力を身に着ける。
 - (イ) 多様な体験から、相手の立場を理解し、思いを受け止めることができる。
 - (ウ) 仲間と共同してものごとを完成させることができる
 - (エ) 困難に遭遇しても、くじけずにやり遂げられる力を身につける
 - (オ) 学び続ける力を育む
- ⑤ WEB を利用した英語力の育成と、海外での教育事情視察による国際的視野の獲得 (教育学科DP1 (1))
- ⑥ 環境や地域貢献などに関する知識と広い視野、地域の各種団体との連携活動による実践的知識・技能や集団での行動力の獲得 (教育学科DP2)
- ⑦ 心理ケアへの理解を深め、ケアに関わる知識や能力の育成 (教育学科DP1 (3)、2 (1))

教育学科のカリキュラム・ポリシーに基づいて、科目区分を以下のように設定した。

表－1 文学部教育学科 科目区分表

専門科目	課題探求科目	
	体験的科目	学校・保育体験科目
		地域体験科目
	理論的科目	体験サポート科目
		教職専門・小・幼・保関係科目
		心理関係科目
基礎科目	建学の精神科目、基礎ゼミ科目 外国語コミュニケーション科目 キャリアデザイン科目	

	教養科目（僧侶科目含む）
--	--------------

以上を踏まえたカリキュラム構成原理を資料6「カリキュラム構成概念図」に示す。カリキュラム構成のための基本的な考え方、枠組みをこのように検討した上で、具体的なカリキュラムを構築した。

課程は「基礎科目群」と「専門科目群」群で構成し、「専門科目群」に「体験的科目」と「理論的科目」「課題探求科目」を置き、「体験的科目群」は「学校・保育体験」や「地域体験」学習の科目群からなる。「体験的科目」群は主として、体験的な内容を積み重ねていく学びである。また「理論的科目群」に「体験サポート科目」と「教職関連科目」「心理関連科目」を置いている。

体験的な学びは、体験だけではその学びを理論化したり自らの認識に高めたりすることが不十分になりやすいため、これらを支える理論的な学びが必要であり、それと組み合わせることで有効な学びとなる。

「教職科目群」における学びは教職に対する理解を深め教職意識や使命観を醸成するが、同時に学校現場の体験をサポートする学びとなる。学校体験と教職科目の学びとがお互いにフィードバックし合って、学生たちの学びの質を高めていくように意図している。

「地域体験学習」でも同様に、体験をサポートする学習が大切である。それが「体験サポート科目」である。そこでは、農業や林業、環境問題や文化、地域活動などの体験学習の基礎となる学びを設定し、「地域体験学習」とフィードバックし合って学生たちの認識を深めていくように設計している。

「体験サポート科目」群の内、「地域体験基礎」および「地域体験特論」では、実際の体験活動に即して学習の意義や目的などを学ぶ。非認知的能力と学びとの関連や意義など、今日の教育課題と絡めて、体験学習を行う意味を考える授業として設定している。

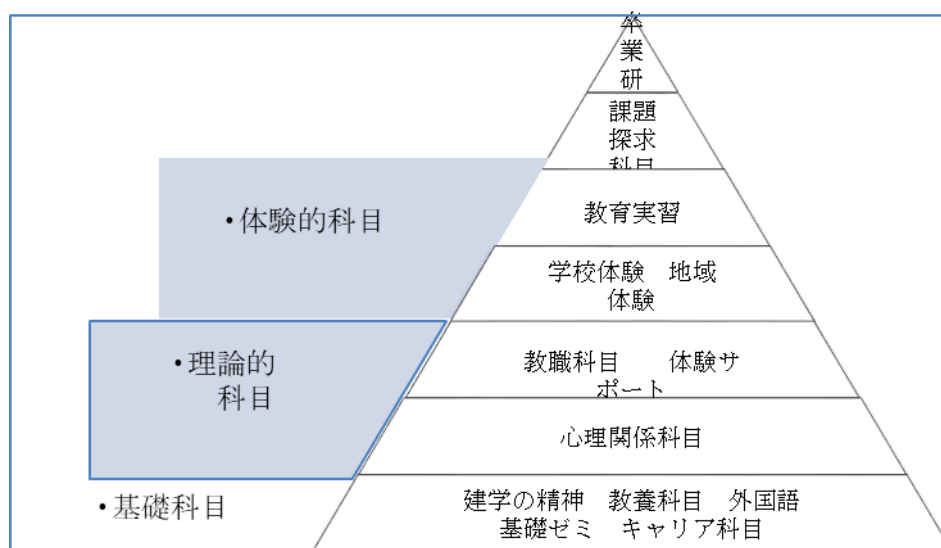
また、「科学技術と社会」や「自然と人間」「植物栽培の基本」などは、農業や林業、馬術体験、ものづくり等の基礎となる考え方を学ぶ講義として設定した。「科学技術と社会」と「自然と人間」では、体験を大きく自然や科学技術の面からとらえる観点を学び、「植物栽培の基本」はより具体的な栽培の基礎となる学びを用意したものである。個々の体験と1対1で対応するように科目設定をせずに大きなくりの科目を置き、基本的な観点や概念の学びにしてあるのは、体験活動に追加や変化がありうるので、その際に、対応する科目の追加や削除などが生じないためでもある。

「日本文化」「文学」「創作研究」「茶道」「書学入門（書道）」は、文化的体験活動のために用意

した科目である。文化ホールでの体験活動には多様な内容が含まれており、たとえば書道展やオペラ、演劇、あるいは市民文化祭の支援などが含まれるため、それらに関連する可能性の高い科目設定をしている。教養科目に設定してもよいが、「体験サポート科目」として設定することで、学生たちが体験する内容により引き付けて学ぶことができると判断して設定した。いずれも、体験する内容を基礎付け、体験を振り返ったり深く捉え直したりすることを期待している。

なおこうした体験活動の積み重ねが教育実習や卒業研究に結実していくように編成している（下図）。

教育課程の体系



「基礎科目」では、建学の精神に則った本学の特徴的な科目や、教養科目、語学関連科目、僧侶科目などを配し、「いのち」や、社会、文化について理解し、人間を含む世界への豊かで多様な視点を育むことを目指している。語学関連科目では、特に英語のコミュニケーション能力の育成を図り、「高野山国際ガイド体験」や留学によって実践力の向上を目指すように設定している。

以下の表に、科目区分と教育目標との関係や、人材育成目標（DP）との関係を整理した。

（表一） 学科の教育目標を実現するための科目区分の対応

		科目区分	教育目標
専門科目		課題探求科目	課題探求力を培い、予測困難な時代に対応できる力を養う
	体験的科目	学校・保育体験	教育現場で活躍しうる教育実践力、人間力の育成
		地域体験	コミュニケーション力や相手に寄り添う力、協同す

			る力、くじけない心を育む
	理論的科目	体験サポート科目	体験と理論の結合、体験の支えとなる学び
		教職関連科目	教職の基礎的素養・専門家としての理論の学び
		心理関係科目	心理ケアに関する専門的知識の獲得
	基礎科目 教養科目 語学科目 キャリア科目ほか		広い学問的教養と新しい時代の教育知識、社会教養の獲得 英語のコミュニケーション力の育成 建学の精神に基づく人間的成長と社会認識の育成

(表一 3) 養成する人材像との対応

科目区分		DP (獲得を目指す資質・能力)	
専門科目	課題探求科目	総合的に問題を解決し新たな価値創造につなげる能力 (文学部 DP)	
	体験的科目	学校・保育体験科目	教育現場で活躍しうる教育実践力、人間力の育成 (教育学科 DP)
		地域体験科目	地域の安心・安全や活性化に貢献しうる人間力 (教育学科 DP)
	理論的科目	体験サポート科目	体験と理論の結合、体験のサポート (教育学科 DP)
		教職科目	授業構成力、教材開発力、学級経営力 (教育学科 DP)
		心理関係科目	子どもたちに寄り添い、適切なカウンセリングや心理ケアに関する知識・能力 (教育学科 DP)
基礎科目 教養科目 語学科目 キャリア科目ほか		生命尊重の精神に基づき、人間、文化の価値の理解 (文学部 DP) (教育学科 DP)	

3. カリキュラム編成方針と科目区分の科目構成

カリキュラム編成は、以下の通りである。

- ① 1年次からの教育現場体験と、地域体験学習、英語学習をカリキュラムの中心に配して、大学での理論学習と地域での体験学習の適切な結合、および語学力の習得を目指している。

- ② 教育現場での実践力養成を目的として、「体験的科目」内に「学校・保育現場体験」科目を配し、1年次から教育現場の授業クラス観察、放課後支援、教育インターンシップなどを取り入れ、大学での学びと教育現場での体験的学びを結合するカリキュラム編成としている。

(資料7「学校・保育現場体験プログラム概要」)

学校現場体験科目の内容については、高野山大学と河内長野市教育委員会とで合同チームを作り、検討を重ねてきた。単に学校体験をするだけでなく、体験の目的と体験によって育つ力を明確にし、教師力の育成に寄与するような適切な体験プログラムとしていくために、教育学科認可後も検討協議を持続することで合意している。

「教育実習科目」としては、3～4年の各年次に教育実習を配し、常に現場での体験を行えるよう設定している。

- ③ 地域諸団体・個人との連携による体験学習をしっかりと行うため、「体験実習科目」の中に、「地域体験」科目を配し、体験を支える学びとして「体験サポート科目」群を配して、体験を重ねることで習得できる人間力と、体験の意味や意義を自分のものにするための理論的学びの両者を適切に学べるように工夫している。
- ④ オンライン学習システムを利用して、いつでもどこでも学習できる教材を活用した英語学習と、世界遺産高野山を活かした高野山国際ガイド体験や海外留学体験などで、英語力と国際的なセンスを養成する。

「English Communication I」、「海外留学体験」、「高野山国際ガイド体験」、「English Communication II・III」の科目において、WEBを利用して英語4技能を学習できる教材を使用する。オンライン上で、配信された英語の時事ニュースや過去5年間のトピック700本以上が活用できるニュース・ライブラリを読んで聞くことができる。これらの教材を用いて、予習と復習や授業内でのディスカッション、学生同士の意見交換、コメント、“Good”ポイントなど、e-learningによって授業の活性化を図れるものとなっている。

なお、e-learning教材として「高野山国際ガイド体験」には、宗教や文化に関するジャンルのトピックを、また「English Communication II・III」ではコミュニケーションに関するトピックを増やして準備している。

- ⑤ 教職理解を高め、教育への意欲と愛情を育成し、専門的職業人としての実践的な力量形成をはかるため、(ア)学級経営能力、(イ)授業力、(ウ)人間関係力、(エ)グローバルな視野・語学力を重視したカリキュラムを配している。

(ア) 学級経営の能力は、教師力の要となる重要な力であり、一人ひとり個性の違う子どもを、いかにしてチームとしての良いクラスにするかが問われる。一方、クラスで生ずる様々な問題を、担任だけに負わせるのではなく、教員集団全体で解決できる学校の在り

方も重要である。本学科では、教職専門科目の中に、「教師力養成特講Ⅰ、Ⅱ」を配した。（詳しくは（５）「本学の特徴的科目：教師力養成特講」p.26参照）

（イ）授業力の養成には、各科目がアクティブラーニングを取り入れた授業を行い、授業構成力、教材開発力、教材構成力などを積極的に学習する。また、「授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）」、「授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）」において、教材開発の力を育成するように工夫した。（詳しくは（５）「本学の特徴的科目」p.26参照）

（ウ）人間関係力は、子どもの理解のみならず、保護者への対応、教師仲間と協力して教育を行う同僚性を育む。これらは、「地域体験」科目においても実践的に鍛えられる。

（エ）グローバル化が進む現代社会では、国際的な視野で物事をとらえ、教育活動についても国際的センスを持つ教師であることが望ましい。そのために、語学力を鍛えるだけでなく、海外留学の際に教育現場や教育委員会などを訪問して、体験レポートを提出してもらう予定である。

⑥ 学生の自己実現のための支援については、1年次からキャリア教育を行うと共に、「地域体験」科目群における体験学習においてもインターンシップ的学習が組み込まれており、キャリア教育の一環としても活用できるように配慮している。教職はもちろん教職以外のどのような分野においても活躍できる人間力を育成できるので、適切な意識づけや準備をさせることで自己実現をはかることができると期待している。

また教員や保育士等への就職支援のために、教員採用試験等の対策講座をエクストラカリキュラムとして開講することに加えて、教職支援センターや地域支援センター、学生サポート課等での日常的な支援を行う。

科目区分の科目構成とその理由について、科目区分に沿って、以下に述べる。

（１） 基礎ゼミおよび課題探求科目

科目構成：「基礎ゼミⅠ～Ⅳ」「教職実践演習（幼・小）」「保育実践演習」

「専門基礎演習Ⅰ、Ⅱ」「専門演習Ⅰ、Ⅱ」「卒業研究」

教育学科の教育課程では、全学年にゼミを配置している。ゼミに相当する科目は、大学教育への導入を兼ねた1年次の「基礎ゼミⅠ、Ⅱ」、2年次の「基礎ゼミⅢ、Ⅳ」、3年次の「専門基礎演習Ⅰ、Ⅱ」、4年次の「専門演習Ⅰ、Ⅱ」である。このゼミ指導を通じて学生自らが主体的に取り組むテーマを模索することを支援し、最終的に卒業研究につながる。

ゼミチューターとともに卒業研究に向けて文献調査、発表、討論、実習の振り返りなどの活動を通じて涵養される能力は、教育学科の教育目標に対応するものである。ゼミを通じて教育・保育を

総合的に探究し、人間文化についての広い教養を培うとともに、予測困難な時代において様々な状況に対応できる能力を育むことを目指す。また、調べ、発表し、議論するというゼミにおける活動を通して、他者とともに考える社会性、柔軟な思考力を育成する。

またゼミ科目は、1年次から教育者としての意識を形成し、担当教員、学生同士の連携を密にし、コミュニケーションの構築に努めるためでもある。ゼミ内において互いに議論し合うことによって、自身の知識、理解、態度が未熟であることに気づくなどの自己反省的視点を獲得する契機となるピアグループ的な機能を有するゼミとすること、及び担当教員が4年間を通じて一貫した指導を行うことによって、学生と共に教員も学ぶという親密な双方向の成長を目指すことを設置の基本的方針としている。このような教員と学生、及び学生間の相互交流を通じて、学生の全人的な陶冶を行うことを目的としていることも教育学科の教育課程の特色である。

(2) 専門科目： 体験的科目

体験的科目は、教育実習科目と体験実習科目からなる。

・科目構成：教育実習科目

「教育実習（小）」「教育実習（幼1～3）」「保育実習Ⅰ（保育所）、（福祉施設）」、「保育実習Ⅱ、Ⅲ」、「保育実習の研究Ⅰ～Ⅲ」 「保育実習指導Ⅰ（保育所）、（福祉施設）」 「保育実習指導Ⅱ、Ⅲ」

教育実習科目は、小学校や幼稚園、保育所などでの実習であり、教員免許取得に必須である。教育現場で教壇に立ち授業を行い、教室でクラス運営にかかわる。本学教育学科では、すでに1年次から「学校・保育現場体験」によって教育現場に触れているが、本格的に教員として子供たち関わるのはこの実習である。

なお、実習参加には事前事後指導が重要である。参加前には、しっかりと事前指導を受けなければならない。加えて、本学教育学科では教職関連科目で学習した内容から、1つ以上の教育課題を持って、実習に参加しなければならない。また実習途中で大学に戻って指導教員とともに振り返りを行う。

・科目構成；体験実習科目

「学校・保育現場体験Ⅰ、Ⅱ」 「学校・保育現場ボランティア」

「地域体験Ⅰ～Ⅳ」 「地域体験ボランティア」 「海外留学体験」

教育学科の特色として体験的学習を柱の一つとしている。体験的学習は、学校現場における体験学習と地域における体験学習の2本柱で構成している。

学校現場における体験として「学校・保育現場体験Ⅰ、Ⅱ」、「学校・保育現場ボランティア」の科目を設置している。これらは、教育現場を実際に訪問し、授業観察、放課後支援などを行い、

保育・教育の実践力を養うものである。「学校・保育現場ボランティア」では、公民館などで行われる生涯学習の運営、児童学習支援に積極的に参加し、学生が地域の教育の一端を担う。

「地域体験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」や「地域体験ボランティア」は、地域の活動やイベントへ積極的に参加し、地域住民との触れ合いの中でコミュニケーション力や地域の課題等を体験し、森林整備、里山作り、近隣の乗馬クラブにおける馬の世話、観光農園等での栽培など地域諸団体における多様な活動を用意している。なお、ものづくりと創作活動のために、当面は河内長野市「木根館」内の木工設備を利用するが、時期を見て学内に木工等の設備を備えた工房を設置する予定である。

「海外留学体験」は、海外留学、海外研修を通してグローバル社会や異文化の理解、コミュニケーション力を身に付け、広い視野で世界と日本を見る感覚を養う。特に、留学先の教育現場や教育機関を訪問・取材しレポート提出を義務づけて、教育に関しても比較教育的に考察する知識や能力を身につけることを期待している。

（3）基礎科目

基礎科目は、建学の精神科目、基礎ゼミ科目群、外国語科目、キャリア科目、教養科目群からなり、建学の精神に基づく人間的成長と社会認識を育て、学び続ける力を育むため、すべての学びの基礎的素養とする科目を配している。

- ・科目構成： 建学の精神科目 「空海思想入門」

建学の精神に関わる科目として1年次に「空海思想入門」を置いている。本学の建学の精神である弘法大師空海思想や考え方を学び、「“いのち”の営みを尊び、人間と環境・文化を理解し、人間性豊かで創造性にあふれた人材を育成する」という本学の教育理念に基づいた教職理解、人間力の育成を目指す。

- ・科目構成： 教養科目

「ほとけの世界」「死生観」「体育の理論と実技」「身体技法（ダンス）」
「日本国憲法」「平和教育」「生涯学習論」「人権と社会」「情報と教育」
「AIと世界」「世界遺産と観光」

広い学問的教養と社会認識の育成、学び続ける力を育むため、心と体について捉えなおす科目として「ほとけの世界」「死生観」「体育の理論と実技」「身体技法（ダンス）」を設置しているが、これらは道徳科目の基礎となる学びとして位置づけている。

現代社会の基礎について理解する科目として、「日本国憲法」「平和教育」「生涯学習論」「人権と社会」「情報と教育」「AIと世界」を配置している。文化や歴史については、「世界遺産と観光」を置き、周辺に存在する高野山や堺古墳群などの世界遺産、河内長野の日本遺産などを含め、世界遺産の意義や歴史的背景などを学ぶことができる。

・科目構成： 外国語コミュニケーション科目

「English Communication I～III」「高野山国際ガイド体験」「中国語」

語学は、特に英語によるコミュニケーション力が必須の能力として必要となったが、小学校英語の指導力の育成も必要であるため、卒業必修として設置している。またこれらの知識・能力を「高野山国際ガイド体験」で実践的に強化するようにした。他に、希望者は3カ月までの海外留学において語学研修と教育現場視察も行うことができるようにして、国際的な視野をもった教師や人材を育成することを目的としている。

科目構成： キャリア科目 「キャリアデザイン I～III」

キャリアについての意識を高め、目的意識を持って学習するため、「キャリア科目」を設置すると同時に、教職支援センターにて日常的にキャリア支援を行う。

また、僧侶科目として「常用教典」「声明」「法式」「布教」を配しているが、これらは寺院後継者など、将来僧侶の道に進みたいと希望する者が学ぶべき科目として設置している。

(4) 専門科目：教職専門科目

・科目構成：教職専門科目

「教職入門」、「教育原理」、「教育と社会」、「教育心理学」、「教育課程論」、「保育教育課程論」、「特別支援教育」、「道德教育の理論と方法」、「総合的な学習の時間の指導法」、「特別活動の指導法」、「教育方法論」、「幼児理解方法論」、「教育相談」、「キャリア教育（進路指導を含む）」、「生徒指導論」、「教職とICT」

「教職専門科目」において、教職への理解や基本的な考え方・指導技術などについて学ぶ。

(5) 本学の特徴的科目：[教師力養成特講]と[授業実践研究]

上記に加えて、「教師力養成特講Ⅰ（HR マネジメント）」、「教師力養成特講Ⅱ（学校理解）」と、「授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）」「授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）」を本学の特徴的な科目として設置する。

「教師力養成特講Ⅰ（HR マネジメント）」は学級経営に焦点をあてた講義で、河内長野市教育委員会と連携し、教育現場や教育委員会にて指導の経験豊富な教員に担当いただく。学級は学校での基礎集団であり、その運営に基礎的な知識や理解が必要である。しかも教育現場の実情に即した講義でなければ意味がない。今日では、学級担任をなくして運営する学校も出てきているが、まだ多くは担任制度が存在する。卒業と同時に担任となる時、この科目の学びは大いに役立つに違いない。

「教師力養成特講Ⅱ（学校理解）」は、教師集団全体として子どもたちに向き合えるような学校の在り方を主題とした講義で、「みんなの学校（大阪市立大空小学校）」初代校長として著名な木村泰子氏に担当いただく。不登校や特別支援を必要とする子どもであっても、学校の在り方が変わることで問題解決につながることを具体的に示し、学生たちと検討する講義となる予定であり、本学の特徴的な科目の一つとなると考えている。

今日、不登校の現状は深刻な状況を示しており、平成 29 年度のデータでは、小学校で 35032 人、中学校 108999 人、高等学校 49643 人、合計で 193674 人も児童生徒が不登校だという。しかも、小・中学校では、年々増加の傾向にある（「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文科省、平成 29 年度）。こうした不登校の現実を理解し援助しながら問題解決をはかる必要がある。上記の科目は、クラスの在り方、学校全体の在り方を検討して、こうした課題にも対応できる力を育成しようとするものである。

「授業実践研究」は、よい授業を実施するための教材開発について特に学ぶために設置したものである。「授業実践研究Ⅰ（初等教材開発）」では、英国の教材開発の例などを紹介しながら、小学校の教材をどのように開発すれば良いのかを研究的に学ぶ。「授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）」では、特に理科実験について探求的に学んでいく。教科書や指導書に掲載されている実験はもちろん、自ら実験を工夫できる力を育てたいと考えている。理数教育が重視される今日でも、理科実験が不得意である小学校教員が多数いるのが現状であるので、特別に設置したものである。

（6）専門科目：小学校教諭、幼稚園教諭、保育士関係科目

・科目構成：小学校教諭科目

「国語科」、「社会科」等 9 教科の内容論と指導法、「初等英語科指導法」、「初等英語科内容論」、「音楽Ⅰ、Ⅱ（表現技法）」「授業実践研究Ⅰ、Ⅱ」

小学校教諭免許（1種）を取得するために必要な科目で、教科教育の理論と方法を学ぶ。各教科の指導案や模擬授業なども指導法の授業で学ぶことができる。

「授業実践研究」の2科目については、本学の独自科目として上で説明した。

ICT関係の学びについても重視されてきたことから、教職専門科目内に「教職とICT」、教養科目に「情報と教育」「AIと世界」という科目を設置しているため、それらの科目を併せて受講することで、ICT技術や利用の在り方などについて学ぶことができる。

音楽実技、特にピアノ演奏については、初等及び幼児教育の現場において必要とされる。したがって「音楽Ⅰ、Ⅱ（表現技法）」を置いて、技術向上をはかるようにした。

・科目構成：幼稚園教諭関係科目

「幼児と健康」「幼児と人間関係」「幼児と環境」「幼児と言葉」「幼児と表現」「保育内容の指導法（健康）」「保育内容の指導法（人間関係）」「保育内容の指導法（環境）」「保育内容の指導法（造形表現）」「保育内容の指導法（音楽表現）」

幼稚園教諭免許（1種）を取得するために必要な科目である。

・科目構成：保育士関係科目

「保育原理」「子ども家庭福祉」「社会福祉論」「子ども家庭支援論」「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」「社会的養護Ⅰ、Ⅱ」「保育者論」「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「子どもの保健」「子どもの食と栄養」「保育内容総論」「乳児保育Ⅰ、Ⅱ」「子どもの健康と安全」「障害児保育」「子育て支援」「表現技術（ピアノ）」「表現技術（造形）」

保育士資格取得に必要な科目である。

（7）専門科目：体験サポート科目

- ・科目構成：「地域体験基礎」「地域体験特論」「科学技術と社会」「自然と人間」
「植物栽培の基本」
「日本文化」「文学」「創作研究」「茶道」「書学入門（書道）」

地域にて多様な体験学習を行うが、理論と体験を適切に結びつけて体験の理論的背景やその意義などを学ぶために設置した。これによって、体験をより豊かな意味あるものとし、内実化することを願っている。

「地域体験基礎」および「地域体験特論」では、実際の体験活動に即して学習の意義や目的などを学ぶ。非認知的能力と学びとの関連や意義など、今日の教育課題と絡めて、体験学習を行う意味を考える授業として設定している。

また、「科学技術と社会」や「自然と人間」「植物栽培の基本」などは、農業や林業、馬術体験、ものづくり等の基礎となる考え方を学ぶ講義として設定した。「科学技術と社会」と「自然と人間」では、体験を大きく自然や科学技術の面からとらえる観点を学び、「植物栽培の基本」はより具体的な栽培の基礎となる学びを用意したものである。個々の体験と1対1で対応するように科目設定をせずに大きなくりの科目を置き、基本的な観点や概念の学びにしてあるのは、体験活動に追加や変化がありうるので、その際に、対応する科目の追加や削除などが生じないためでもある。

「日本文化」「文学」「創作研究」「茶道」「書学入門（書道）」は、文化的体験活動のために用意した科目である。文化ホールでの体験活動には多様な内容が含まれており、たとえば書道展やオペラ、演劇、あるいは市民文化祭の支援などが含まれるため、それらに関連する可能性の高い科目設定をしている。教養科目に設定してもよいが、体験サポート科目として設定することで、学生たちが体験する内容に引き付けて学ぶことができると考えて設定した。いずれも、体験する内容を基礎付け、体験を振り返ったり深く捉え直したりすることを期待している。

（8）専門科目：心理関係科目

- ・科目構成：「発達心理学」「カウンセリング論」「学校臨床心理学」「心理身体論Ⅰ、Ⅱ」

今日では、心理ケアや心理学の学びは、教育現場や地域社会においてきわめて重要となっている。本学は「人間学科」において社会人向けにスピリチュアルケア師や心理ケアの学びを続けてきたが、それを発展的に「密教学科」に受け継ぎ、難波キャンパスにおいて夜間開校する。したがって、教育学科でも、意欲的な学生はこれを受講することが可能である。

「心理身体論Ⅰ、Ⅱ」は、心理的な問題を動作法的に解決する手法であり、その技術を学ぶことで生徒指導に生かすことができる。「発達心理学」は、幼児・児童の心理的な発達を学び、「カウンセリング論」「学校臨床心理学」は、教職科目の「生徒移動論」「教育相談」と通ずる科目であり、合わせて学ぶことで、より深い理解を得ることができる。

（9）必修科目・選択科目の構成とその理由

本教育学科では、小学校教員免許（1種）、幼稚園教員免許（1種）、保育士資格を取得することを主たる目的とするとともに、建学の精神に基づく「社会に貢献する人間性豊かな人材を養成する」ことを目的としている。したがって、教員養成に関わる科目が根幹の科目群であるとともに、豊かな人間性を培うための科目が主要な科目となる。

教員養成のための科目群は、教職の基礎的基盤的な学習のための「教職専門科目」と各種免許に対応する科目群（「小学校教諭関係科目」「幼稚園教諭関係科目」「保育士関係科目」）、各免許種に対応する実習のための「教育実習科目」群からなる。

したがって、例えば小学校教諭免許を取得しようとする者は、「教職専門科目」および「小学校教諭関係科目」から適切に履修し、実習する必要がある。

しかしながら、教員を目指して入学しても、何らかの事情で免許取得をあきらめざるを得ない場合もありうることから、教員免許取得を卒業要件とするものではない。

教職専門科目の「教育原理」「教職入門」「教育と社会」「教育心理学」「特別支援教育」「教育方法論」「教育相談」の7科目については、卒業必修として設定しているが、その他は選択科目としている。この7科目は、教職に関する基礎的な知識や考え方、心構えなどについても学ぶ科目群であることや、社会認識や教育観、人間観などを育むものである。教員にならなくとも、これらの学びは重要であることから卒業必修としている。

「地域体験Ⅰ～Ⅳ」、「学校・保育現場体験Ⅰ、Ⅱ」は卒業必修科目としている。これらの科目は教育学科の特徴的科目であり、教師力や人間力を育むための重要な科目である。「Ⅳ1教育課程編成の考え方」で述べたように、教員の資質・能力の育成に体験的学びが寄与すること、あるいは、これらの体験で培われる人間力は、たとえ教員にならなくとも将来の大きな財産になるものである。上述したように、「社会に貢献する人間性豊かな人材を養成する」ことを目的としていることから必修としているものである。

地域体験を適切に学習するために、体験の理論的背景やその意義などを学ぶために〔体験サポート科目〕群を設置しているが、それらの中で「地域体験基礎」は、実際の体験活動に即して学習の意義や目的などを学ぶため、体験にあたって必ず学んでおくべき科目として必修にしている。

基礎ゼミや専門演習などは、課題を発見・解決したり、研究的手法を身につける科目であり、大学教育として重要な科目群であるので、もちろん必修科目とする。

基礎科目の中で、建学の精神科目である「空海の思想」、職業観を育成する「キャリアデザインⅠ、Ⅱ」、教養科目の「ほとけの世界」「日本国憲法」「生涯学習論」「平和教育」「人権と社会」などは、人間や社会、世界観を育成する基礎となる学びである。英語力育成のための「English CommunicationⅠ、Ⅱ」「情報と教育」は、現代社会で必須となってきた英語力や情報知識に関する科目として重要である。したがって、これらの科目を必修科目とした。

(10) 履修コース

キャリア、人材育成の方向を明確にし、より効果的な教育効果を得るため、「児童教育コース」と「幼児教育コース」の2つの履修コースを置く。各コースの定員は設けない。

コース選択は、入学時のオリエンテーションで学生の進路希望調査を行い、1年次中はそれに基づいた履修指導を行う。2年次進級時にアドバイザー教員が学生一人一人の適性を見極めながら将来の職業と関連させて指導助言を行ったうえで、学生本人の希望をもとにコース決定を行う。

なお、履修指導の際はコース毎の履修推奨科目を示した履修規程を用いる。（資料/履修規程別表Ⅰ）

① 「児童教育コース」

小学校教諭免許の取得をめざすコース

クラス運営に必要な学級経営能力の育成をめざし、子どもに寄り添い、コミュニケーションをとってクラスを運営する教育者を養成する。教職科目、教科教育科目に加えて、「教育心理学」「教育相談」「総合的な学習の時間の指導法」「教育方法論」「特別活動の指導法」「教職とICT」「教師力養成特講Ⅰ（HR マネジメント）」「教師力養成特講Ⅱ（学校理解）」を設置している。これらの内容についてすでに述べた。

②「幼児教育コース」

幼稚園教諭免許・保育士資格の取得をめざすコース

幼児の情操教育に必要な不可欠なピアノの基礎技術の習得を目指し、弾き歌いのできる保育者を養成する（「表現領域指導法」「保育内容（表現）」「音楽実技演習Ⅰ、Ⅱ」）。音楽教育の基礎の上にもう一つの得意分野（体育、造形、言語、環境など）を持った人材を養成する（各領域指導法「健康、人間関係、環境、言葉、表現」）。また「創作研究」は、幼児英語に関連して英語絵本にも触れる講義である。

V 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 教員組織構成

教育学科を構成する教員として、教養（語学含む）関係3名、教職関係3名、教科教育関係8名（内、実務家教員4名）、心理関係2名、社会福祉関係1名合計17人の専任教員（特任を含む）で構成するが、兼担として、本学文学部密教学科の専任教員が関わり、加えて特別な業績や経歴を有した兼任教員を配して教育の充実に努める。

教科内容や指導法に関する科目担当の専任教員は、実務家教員を配置するようにして、授業力や教師力の育成に有為な教員構成を目指している。実務家教員としての経歴や能力は申し分なく、それぞれの分野でのリーダー的教員である。

一方で、教育学科の大きな特色である学校体験学習や地域体験学習を実施するためには、多くのサポート部隊が必要である。そのため高野山大学で認定した「高野山大学特任マイスター」による支援体制をつくっている。「高野山大学特任マイスター」（前掲 p.22 資料5「高野山大学特任マイスター制度について」）は、地域で活躍してきた優秀な人材を高野山大学が認定し、この方々の知識や技能、経験を学生支援に活かしていただく制度である。たとえば、学校現場でのサポートには退職教員のマイスターが、地域体験のサポートには、ベテラン農家の方や森林ボランティアとして活躍してきたマイスターなどが、活動の内容に即して支援する。もちろん正規の教員ではないので、活動ごとに教員側の責任者は必置であるが、TA的な形でマイスターの支援を入れることで、学生にとっては充実した体験学習を受けることができる。マイスターの方々にとっても、退職後の活躍の場が与えられることから、生きがいにつながる制度となり、積極的な支援が期待できる。

またこの制度によって、専任教員の負担を減らし、教育研究活動等への不具合が出ることをおさえることができる。

教育学科の専任教員配置については以下の通りである。

ア) 教科および指導法に関する科目

国語、社会、理科、生活、体育、家庭、音楽、英語の担当者（8名）

イ) 教育の基礎的理解に関する科目

教職入門、教育と社会、教育方法論、教育課程論、保育教育課程論の担当者（3名）

ウ) 道徳、総合的な学習の時間、生徒指導、教育相談に関する科目

総合的な学習、教育相談、の担当者（2名 1名はアと兼担）

エ) 教育実習に関する科目

専任教員全員が担当、教職支援センターがサポート、

オ) 心理学に関する科目

臨床心理士・公認心理士資格を所持する専任教員（2名 1名はウと兼担）

カ) 語学に関する科目（2名、1名はアと兼担）

初等英語、English Communication、高野山国際ガイド体験

2. 年齢構成

本学科の所属教員の年齢構成は、70歳以上3名、60～69歳7名、50歳～59歳1名、40歳～49歳4名、30歳～39歳2名となっており、60歳以上の割合が高い（60%）。したがって、できるだけ早期に中間年齢層の教員の充実をはかり、年齢構成のバランスをはかりたい。現在の年齢構成、職位や今後の採用計画による年齢・職位の推移を次節の「今後の教員配置計画」で、推移表としてまとめた。

もともと、教員採用人事では、これまでの履歴、業績に加えて、本格的体験教育を中核にした新しい教員養成カリキュラムに賛同し、その実現に意欲を示した人を中心に採用している。したがって赴任予定の60歳以上の教員は、いずれも意欲旺盛で労をいとわない誠実で優秀な先生方であり、現在のところ、学生指導にも大きな力を発揮できる満足のいく教員配置である。

また本学科所属教員の博士等の学位取得者数については、下記の表のとおりである。

学位取得者数（2020年現在）

博士	修士	学士
4	11	2

3. 今後の教員配置計画

以下について、計画的に人事を行う。

- ① 完成年度に准教授 4 名の教授昇格
- ② 完成年度に講師 1 名の准教授昇格
- ③ 完成年度に 70 歳を超える教員 5 名の退職に伴う補充（若手教員）
- ④ 公募にて若手教員を採用

その後も、退職に伴う補充と昇格人事を計画的に行い、適切な教員配置を維持したい。

これにより、完成年度後の教員構成は以下の通りとなり、60 歳以上の割合は 37.5%になる見込みである。

■教育学科 教員構成推移表(10年間)			2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
教育学科	A	特任教授	72	73	74	75	雇用満了					
	B	特任教授	73	74	75	76	雇用満了					
	C	准教授		68	69	特任教授	雇用満了					
	D	特任教授	69	70	71	72	73	74	75	雇用満了		
	E	特任教授	67	68	69	70	71	72	73	74	75	雇用満了
	F	特任准教授	64	65	66	67	特任教授	69	70	71	72	雇用満了
	G	准教授	63	64	65	66	教授昇格	68	69	70	定年	
	H	特任教授	62	63	64	65	66	67	68	雇用満了		
	I	准教授	58	59	60	61	教授昇格	63	64	65	66	67
	J	准教授		50	51	52	教授昇格	54	55	56	57	58
	K	准教授	46	47	48	49	50	51	52	教授昇格	54	55
	L	准教授	45	46	47	48	49	50	51	52	教授昇格	54
	M	准教授	36	37	38	39	40	教授昇格	42	43	44	45
	N	講師	34	35	36	37	准教授昇格	39	40	41	42	43
	O	特任教授	75	76	77	78	雇用満了					
	P	特任教授	69	70	71	72	雇用満了					
	Q	講師	46	47	48	49	准教授昇格	51	52	53	54	55
	新規雇用	講師					30代	30代	30代	30代	30代	30代
	新規雇用	准教授					40代	40代	40代	40代	40代	40代
	新規雇用	准教授					40代	40代	40代	40代	40代	40代
新規雇用	特任教授								60代	60代	60代	
新規雇用	特任教授								60代	60代	60代	
新規雇用	准教授									40代	40代	
新規雇用	講師										30代	
新規雇用	特任教授										60代	
新規雇用	准教授					40代	40代	40代	40代	40代	40代	
		30代	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2
		40代	3	3	3	3	5	4	4	4	6	6
		50代	1	2	1	1	3	4	4	4	4	4
		60代	6	5	6	4	4	4	3	3	3	4
		70代	3	5	5	7	2	2	3	3	2	0
		計	15	17	17	17	16	16	16	16	16	16
		60代以上割合	60.0%	58.8%	64.7%	64.7%	37.5%	37.5%	37.5%	37.5%	31.3%	25.0%
		教授	7	7	7	8	7	8	7	8	8	8
		准教授	6	8	8	7	8	6	7	6	6	5
		講師	2	2	2	2	1	2	2	2	2	3
		計	15	17	17	17	16	16	16	16	16	16

VI 教育方法、履修指導および卒業要件

1. 教育方法

本教育学科は学外での体験型の学びと、学内の講義による学びを組み合わせたカリキュラムを特徴とするが、講義においても、少人数を基本とし学生主体のアクティブラーニング形式で行う予定である。したがって、すべての授業において学生の主体的・能動的な学びを軸に、学生同士の議論を促し、問題の発見・解決を行うように授業設計をすることを求めている。そうした中で、中教審答申のいう「認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」（2012年8月中央教育審議会答申）ことを目指している。

学外における体験学習は、「学校現場体験」と「地域体験」の2本柱で構成しており、初年次から学校現場の体験を積み重ねながら、3年次の教育実習につながるように設計している。

また、各学年の必修科目において、ゼミ形式の科目と講義形式の科目と実習体験形式の科目間で内容上の連携を図り、基礎的事項が無理なく学生に定着するよう配慮する。具体的には講義で学んだ内容をもとに、実習科目で体験し、ゼミでディスカッションを実施するなどして、学習内容を精選するとともにその内容をより深く学べるように設計している。各学年にゼミを配置して、学生が課題に対して調査・分析・プレゼンテーション・討論などを行い、研究的な力の育成と、教育実践力のある人材の育成を目指している。

実習や体験を通して個人とグループにおける議論を通じて、考えの異なる者のあいだで共通の認識を組み立てていく力を養成する。こうしたことを通して、ファシリテーション・スキルについても意識的に育成したいと考えている。

2. 卒業要件

修業年限4年間在学し、必修科目94単位、選択科目30単位（選択必修20単位を含む）以上を修得し、124単位以上を習得すること。（履修科目の登録の上限：50単位（年間））

3. 学位論文作成に関連する研究活動

専門演習科目を中心として卒業研究指導を行い、4年次に卒業研究の提出を義務付ける。

4. 履修科目の年間登録上限、他大学での履修

学習すべき授業科目を精選することで学生自身による授業科目外の学修を促進し、授業科目の学修内容をより深いものとするため、年間登録単位数の上限を設定する。上限とする単位は、小学校教育職員免許取得に必要な教育実習、または幼稚園教員免許・保育士資格に必要な実習参加要件としている科目を3年次までに取得する必要があることから、50単位と設定している。

ただし、基礎ゼミ科目、専門演習科目、教育実習科目、体験実習科目、卒業研究科目は含まないものとする。

大阪千代田短期大学をはじめとする本学と協定を結んでいる他大学との単位互換制度等の活用を促し、南大阪地域大学コンソーシアム、和歌山コンソーシアム等の活用も検討している。

5. 履修指導

入学時のオリエンテーションでは、「大学要覧」、「講義概要・授業計画」（シラバス）、「時間割」を配布し、本学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、授業科目の構成、単位取得、成績及び単位の認定、履修登録、卒業要件の確認、資格取得に係る履修科目等を解説・指導する。そのうえで、学生の進路希望調査を実施し、それに基づいた履修指導を行う。

「大学要覧」には学則、履修規程、履修規程細則他、試験実施規定、資格取得方法等、学修に必要な規程類を記載する。「講義概要・授業計画」（シラバス）には、履修モデル、カリキュラムマップの他、各科目の①授業の到達目標及びテーマ、②授業の概要、③授業計画、④テキスト・参考書・参考資料、⑤評価方法を記載する。

2年次進級時にアドバイザー教員が学生一人一人の既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行い、適性を見極めながら将来の職業と関連させて個別の指導助言を行う。そのうえで学生本人の希望をもとにコース決定を行う。

コース決定以降は毎年度はじめに履修指導オリエンテーションを実施し、既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行う。

履修指導の時期は4月に入学生・在校生(各学年別)履修オリエンテーション、進路希望調査、学生個別履修指導(アドバイザー教員、教務課員)を行い、9月に後期履修変更、個別履修指導を行う。これらの履修指導に加えて、ゼミナール科目である「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」(1年次)「基礎ゼミⅢ・Ⅳ」(2年次)、「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(3年次)、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」(4年次)において、ゼミ担当教員による個別の履修指導も実施する。

6. 履修モデル

児童教育コース、幼児教育コースの履修モデル、両コースにまたがる複数免許取得希望の履修モデルを参考資料として添付する。

(資料8-1「児童教育コース」、8-2「幼児教育コース」、8-3「小学校・幼稚園免許取得履修モデル」)

VII 施設、設備等の整備計画

以下に示す校地及び校舎の面積は、いずれも大学設置基準を満たしている。

1. 校地・運動場の整備計画

先に述べたとおり、文学部教育学科は、大阪千代田短期大学(学校法人千代田学園、大阪府河内長野市、以下：河内長野キャンパス)の校舎を借用して設置するものである。

平成 29 年（2017 年）1 月 25 日に締結した連携協定書に基づき、令和 3 年 4 月の教育学科開設にむけて連携協力して整備することとしている。さらに、学校法人千代田学園と学校法人高野山学園との間で校地・校舎の借用に関する契約を交わした。貸借期間は、令和 3 年 4 月 1 日から 20 年間の貸与とし、双方協議の上、貸与期間を更新できるものとしている（資料 9 「校地・校舎の借用に関する契約書」）。

校地については、教育学科を設置する大阪千代田短期大学は 21,718 m²であり、大学設置基準第 37 条第 1 項の要件を十分に満たしている。

しかしながら、教育課程編成上、学生が文学部内の授業科目も履修できることから、現在、文学部を設置している高野山キャンパス（和歌山県高野町）も利用する。

高野山大学の校地面積は、48,309 m²である。河内長野キャンパスから高野山キャンパスへは、公共の交通機関（南海高野線）を利用して、片道 1 時間 30 分での移動が可能であるが、高野山キャンパスでの授業科目については、二つの校地における授業科目の履修上支障がないように時間割編成を工夫する。高野山キャンパスでの授業科目を履修できることは、学生に学問的な幅を拡げ、人間力を身につけさせるためにも大いに役立つものと考えている。

運動場については、河内長野キャンパスの 4,224 m²の運動場を大阪千代田短期大学との共用として活用する。

2. 校舎等施設の整備計画

本学科は、上述のとおり、大阪千代田短期大学（学校法人千代田学園、大阪府河内長野市、以下：千代田短大）の校舎を借用して設置する。大阪千代田短期大学には、すでに講義室 14 演習室 2 室、図工室 1 室、調理室 1 室、音楽室 1 室、ピアノ練習室 2 室、介護実習室 1 室、体育館、模擬保育室、コンピュータ室（端末 76 台）、マルチメディア室（端末 6 台）、図書館、運動場、テニスコート、食堂、医務室、ロッカールーム、クラブ棟、学生ホール等が備えられており、これらを共用施設として借用する（「設置申請書 7. 校地・校舎の図面」に掲載）。

音楽室やピアノ練習室にはピアノ 60 台以上が備えられており、さらに高野山大学としても新たに YML ピアノシステム（電子ピアノ 24 台）を購入する。図書館閲覧席は 59 席あり、現状では支障がないが完成年度に向けて充実を図る。食堂は 240 席であるが、通常 200 席で運営している。さらに食堂テラスにはパラソルを備えたテーブル 6 台に 12 席が用意されているが、スペースには余裕があり拡張が可能である。大学・短大合わせて 460 人の収容定員の約半数の座席が確保されており、他大学の例からみても運用に問題はないと思われる。体育館には体育用フロアと、ダンスフロア、外部には運動場（4224 m²）とは別にテニスコートも設置されている。

教員の研究室は、同敷地内にすでに整備された研究室 32 室のうち 16 室（内 2 名共用 1 室）を確保する。

河内長野キャンパスの校舎面積は、8,534 m²であるが、学生の利点も考慮して、高野山キャンパスの校舎一部も利用することとする。図書館も含めて高野山キャンパスの共用校舎面積は2,610 m²とする。

また、本学科は、小学校教員免許取得を目的とした学科であるため、理科室の整備が必要であるが、理科室については、学校法人千代田学園所有の大阪暁光高等学校の理科室および準備室を借用する。河内長野キャンパスから大阪暁光高等学校へは、公共の交通機関（路線バス）を利用して、片道15分で移動が可能であるが、学園のスクールバスを利用可能であり、10分ほどで移動できる。学生の履修上支障がないように時間割編成を工夫する。

学生は、高野山大学文学部の社会人入学生のために開設している大阪・難波のサテライト教室にて開講する授業も受講することができる。

なお、収容定員が最大となる完成年度の本学科及び大阪千代田短期大学の時間割（案）においても授業運営が可能であると確認されている。（資料10 令和6年度（完成年度）「高野山大学文学部教育学科授業時間割（案）」、「大阪千代田短期大学授業時間割（案）」、「教室配置表」）

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書及び図書室、閲覧室は、本学河内長野キャンパスとする大阪千代田短期大学の図書館と、既存の高野山大学の図書及び図書室、閲覧室を利用する。

既存の高野山キャンパスの図書館は、明治31年（1898）に創設され、平成30年（2018）で開館120周年を迎えた。本学科の教育に資する図書は、既存学部の図書321,330冊（和書276,997冊・洋書44,333冊、2019年現在）を有する。これらの図書は、既存の密教学科（中高教職課程設置）、人間学科の教育内容に相応しい図書を整備している。

一方、大阪千代田短期大学図書館の蔵書冊数は79,597冊である。両図書館の蔵書を合わせた冊数は、400,927冊となる。両図書館は、垣根なく相互利用できる体制をとり、千代田キャンパス図書館に高野山大学図書館司書職員も常駐する。

大阪千代田短期大学図書館においては幼児教育（幼稚園教職課程設置）及び介護福祉の図書が整備されている。また、以前に小学校教諭資格関係の蔵書を整備した関係から、同資格取得にかかる図書が豊富に所蔵されている（教育学関連蔵書総計23,541冊、うち幼児・初等関連4,869冊、教育課程・学習指導・教科教育2588冊など）。教育学関連蔵書は、高野山大学既存の学部の教職に係る図書3,481冊を合わせて、27,022冊となる。千代田短大図書館所蔵図書には教育学大事典などの辞典類や、白書類、教育研究論文索引、学校基本調査報告書などの報告書類、日本教育史資料（文部省編）、近代教育百年史叢書、明治以降教育制度発達史などの教育史資料文献など、教育研究上の基本文献となる図書が備えられているが、学校教育関連では新しい図書が少ないため新たに購入

する。高野山大学図書館所蔵の教育関連図書および2020年度購入予定の図書のリストを資料として添付する。(資料11 「新規購入図書リスト」)

教育学科設置に伴い、さらに関連図書の収集については、関係諸機関・個人等に呼掛けて関係する寄贈図書(2019.3現在、500冊余が寄贈済)を千代田短期大学図書館へ集約するとともに、近刊の図書資料の購入を含めて4年後の完成年度までには1万冊を追加し、同館に収書する予定である。それ以後についても、当然のことながら更なる充実を目指して、段階的に整備していくことになる。

千代田短期大学図書館の閲覧席は、現在約60席あり、日常的な運営に支障はないと思われるが、今後の学生増も視野に入れて、教育学科生200人、短期大学生260人が十分利用できるように整備し、インターネット検索コーナーも置く予定である。

VIII 入学者選抜の概要

入学者選抜は、教育学科アドミッション・ポリシーに従い、基礎的な学力を持ち、教育への関心と意欲の高い学生を公正に選抜する。

1. 高野山大学教育学科アドミッション・ポリシー

本学教育学科では、以下のような学生を求める。

1. 本学の建学の精神および教育目的を理解し、人間的成長と学ぶ幸せを願う人
2. 教育について関心と意欲を持ち、大学での履修にふさわしい基礎的な学力を有する人
3. 「いのち」を尊び、子どもたちやすべての人々に寄り添い、「利他」の精神を育もうとする人
4. 学校や地域での活動に積極的に関わる気持ちを持つ人
5. 探究心・好奇心を有し、社会に貢献する意欲を有する人

2. 選抜方法

入試選抜については、従来の入試に加えて、本学のアドミッション・ポリシーに相応しい学生を迎えられるように総合型入試及び学校推薦入試の改善を検討している。

総合選抜型では、リーダーシップ、真剣さ、頑張る力、他者とのコミュニケーション、プレゼンテーション能力などを評価できる入試を検討しており、「マルチ・ケーパビリティ(MC)入試」と称して、現場体験型の入試によって多様な能力を評価・判定する予定である。

学校推薦入試では、柔軟で多様な見方のできる能力を評価・判定する予定である。「マルチ・インテリジェンス(MI)入試」と称して、SDG’s等の現代的諸問題を活用した課題を使った入試を検討している。

3. 入試制度

募集定員 50 名に対して、以下の募集区分及び、区分ごとの募集人数は以下の通りである。

募集定員 文学部教育学科 50名

入試区分	募集人数
総合型選抜入試	5
学校推薦入試	22
一般入試	23

試験科目

入試区分	内容
総合型入試	現場体験、グループ討論、相互評価、自己アピール文、面接による総合判定
推薦入試	課題レポート、小論文、面接
一般入試	国語、社会、英語のうち2科目選択（各100点満点）

- ① 総合型選抜 MC（マルチ・ケーパビリティ）入試と称する。現場体験学習入試。1回実施する。
- ② 学校推薦入試 MI（マルチ・インテリジェンス）入試と称する。
指定校入試1回、一般推薦入試1回の計2回実施。課題レポート＋小論文＋面接。
- ③ 一般入試 前期入試1回、後期入試1回とする。

【文学部・教育学科入試検討案】

入試種別・名称		試験科目等	募集人数	入試日（予定）
総合型選抜 MC入試		現場体験学習を実施	5人	10月24日 (土) 発表 11月2日
学校推薦入試 MI入試	指定校 型	SDG’sを活用した課題 (基礎学力審査) ・小論文 ・面接	22人	11月28日 (土) 発表 12月4日
学校推薦入試 MI入試	一般推 薦型	SDG’sを活用した課題 (基礎学力審査)		12月5日 (土)

		・小論文 ・面接		発表 12月 11日
一般入試 前期		国語 英語 社会から 2科目選択	18人	2月5日 (金) 発表 2月12日
一般入試 後期		国語 英語 社会から 2科目選択	5人	3月13日 (土) 発表 3月17日

4. 選抜体制

入試選抜については、以下のような体制で実施する。

- ・問題作成委員：MC入試、MI入試、一般入試それぞれの作問者（複数名）学長の委嘱
- ・教育学科入学試験委員会：入試の運営、合否判定案等を検討。委員は学長の委嘱
- ・合否判定：入試委員会にて合否案を作成し、教授会にて判定の上、学長が決定する。
- ・入試委員会のメンバーは学長の委嘱による。委員長は学長が兼務する。

IX 取得可能な資格

本学部・本学科で取得可能な資格は次の通りである。いずれの資格も卒業要件として取得を義務付けるものではない。

資格名称	備考
小学校教諭一種免許状	指定された授業科目の単位を取得することによって卒業時に取得できる。
幼稚園教諭一種免許状	同上
保育士資格	同上
僧侶資格	指定された授業科目に加えて、得度・授戒・加行・灌頂の修行を行う必要がある。

X 実習関係全体の具体的計画

1. 教育実習の考え方

多くの大学では、教育実習にあたっては、事前学習、事後学習と教育現場での4週間程度の実習を行うが、実習中の指導については、現場の指導者の指導に従い、実習中に2度の巡回指導時に、学生の活動内容や課題について把握し個別の指導を行う。実習担当教員は、実習期間中に現場訪問を実施し、研究授業への参加および実習後の反省会で学生に助言・指導を行う。4週間の実習体験の教育効果は大きく、学生の教職への意欲が高まることが多い。しかしその一方で、大学での教育学的学びと教育現場での実践的学びが組み合わさることは少なく、学生にとってはそれぞれが別個の学びとして並行的におさめられる。したがって時として、実習は素晴らしかったが、大学での学習はあまり役立たなかった、などという振り返りがなされることがある。従来型の実習では、両者を結合した質の高い実習にはなりがたいと思われる。

こうしたことを克服するため、下図のように、(イ)1年次から学校・保育の現場体験、地域体験を積み重ねてから本実習に参加する、(ロ)1年次・2年次の大学の講義での理論的知識を基にした教育課題を明確にして3年次からの実習に参加する方式をとる。

本学の教育実習は、1年次・2年次の「学校・保育現場体験Ⅰ」「学校・保育現場体験Ⅱ」「地域体験Ⅰ」「地域体験Ⅱ」「地域体験Ⅲ」「地域体験Ⅳ」の現場体験を積み重ねるとともに、大学での理論的知識を活かして、実習前に学生が課題を持って参加することになる。

●**実習形式** 教育実習をより本格的で質の高いものとするため、以下のような形式を採用する。

- ① 大学での学びと現場での実践的学びを結合するため、課題意識をもって実習に参加する。
- ② 実習途中で大学に戻り、実習担当教員とともに振り返りを行い、新たな課題をもって現場に戻る。
- ③ 実習参加以前の1年次、2年次にも、教育現場や地域体験をふんだんに積み重ねておき、現場の状況や子どもたちの様子、課題などについて一定の理解を深めてから3年次からの本実習に参加する。
- ④ 小学校教諭免許状取得のためには、「教育実習Ⅰ(小)」(4単位)は4週間の実習を行い、幼稚園教諭免許状取得のためには、「教育実習Ⅱ(幼1)」(2単位)は2週間、「教育実習Ⅲ(幼2)」(2単位)は2週間の実習を行う。

2. 初等教育領域における実習

ア. 実習条件 「教育実習Ⅰ(小)」

2年次終了までに下記の科目を修得済みであること。

【教育の基礎的理解に関する科目等】

・教職入門 (2単位) 1年次後期開設 必修科目

- ・教育原理 (2単位) 1年次後期開設 必修科目
- ・教育心理学 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・特別支援教育 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・教育相談 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・生徒指導論 (2単位) 2年次後期開講 必修科目
- ・教育と社会 (2単位) 2年次後期開講 必修科目

【教科及び教科の指導法に関する科目】

- ・国語科内容論 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・社会科内容論 (2単位) 1年次後期開設 必修科目
- ・算数科内容論 (2単位) 2年次後期開設 必修科目
- ・理科内容論 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・音楽科内容論 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・家庭科内容論 (2単位) 1年次後期開設 必修科目
- ・体育科内容論 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・初等英語科内容論 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・国語科指導法 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・社会科指導法 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・理科指導法 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・音楽科指導法 (2単位) 2年次前期開講 必修科目
- ・家庭科指導法 (2単位) 2年次後期開設 必修科目

「教育実習の研究Ⅰ（小・事前事後指導）」の授業参加状況が悪い場合（4回以上の欠席）は、実習参加を認めない。

イ. 事前・事後の指導計画 「教育実習Ⅰ(小)」

事前指導は、「教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)」の授業科目の中で、10時間程度実施する。また、感染症予防対策として、学生の実習前の健康状態の確認とともに各種予防接種歴、感染症の罹患歴を確認し、麻疹、風疹、水疱瘡に罹患したことのない学生には、予防接種を受けることを勧め、インフルエンザの予防接種も毎年積極的に接種するように指導する。社会福祉施設においては、検便の実施を義務付けている。

事前指導の内容については、以下のとおり。

- ・教育実習の意義
- ・教育実習の内容
- ・教育実習生の立場と心得
- ・教科指導の指導法

- ・教科外指導の指導法
- ・学校及び学級(HR)運営についての学習
- ・学習指導案の作成と研究授業
- ・現場教員によるガイダンス

事後指導は、「教育実習の研究 I (小・事前事後指導)」の授業科目の中で、5 時間程度実施する。

事後指導の内容については、以下のとおり。

- ・学習指導案及び教育実習日誌の提出・反省会
- ・実習レポートの提出・反省会
- ・実習担当教員による教育実習の批判及び指導
- ・実習生による反省会・批判会への参加

ウ. 実習内容について

- ・校内見学と実習内容に関する説明
- ・授業参観
- ・学校教育の実際に関する説明
- ・学習指導案の作成
- ・教壇実習(できるだけ機会を多くもたせる)
- ・特別教育活動への参加(できるだけ多く参加させる)
- ・生徒指導、教育相談等への参加
- ・実習研究授業(特定日の教壇実習をもってこれにあてる)
- ・実習研究座談会(最終日の午後に行う)
- ・指導方法について

エ. 巡回指導の実施体制

- ・実習担当教員が、実習期間中少なくとも 2 回の巡回指導を行う。
 - 1 回目の巡回で実習生の指導と実習受け入れ担当者ならびに学校長等の要望等を把握し、センター会議において取りまとめを行う。
 - 2 回目の巡回では、取りまとめの結果をふまえた指導を行う。
- ・実習中は、高野山大学特任マイスターに採用された退職学校教員が実習期間中にできるだけ訪問し、実習日誌の指導や実習に関連する悩みなど実習担任教員に協力して実習が円滑に進むように支援する。
- ・特任マイスターは、実習中の問題点や気づいたことなどを教職支援センターに報告し、教職支援センターは、特任マイスターからの報告を管理し、センター会議に反映する。
- ・巡回指導は、実習担当教員が主となって行うが、講義等との重複でやむを得ない場合は、教職支援センター専任事務員と特任マイスターが巡回する。
- ・実習先は河内長野市、南河内地域市町村や和歌山県紀北地域など近畿の府県とするが、遠隔地の実習となる場合は、実習先と電話やメールなどで直接連絡をとり、学生の実習の様子と、実習先からの要望等を把握することとする。

オ. 教員の負担について

- ・教育実習担当者に負担のないように、週1日の研究日を確保するように時間割上配慮している。もう一日は、実習関係の授業科目一科目のみが配置されている。(別紙)

カ. 成績評価基準について

- ・実習校の「教育実習成績報告表」、実習生のレポート及び実習日誌・指導案等の資料により、本学の教育実習担当教員が評価する。
- ・実習後は、実習担当教員と学生の個別面談を行う。その際には、実習評価、レポート、指導案をもとにして、実習の報告、指導を行う。また、実習生による実習報告会を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。

キ. 介護等体験について 「教育実習Ⅰ(小)」

2年次中に、義務教育に従事する者が、障害者や高齢者に対する介護や交流を通して、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する知識を深め、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期することを目的として特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の介護等実習を行う。実習に先立って、教職支援センター教職員と実習担当教員を中心に事前指導を行い、終了後は事後指導において、問題点や課題、実習の成果などを共有する。

3. 幼児教育領域における実習

ア. 実習条件

「教育実習Ⅱ(幼1)」 (3年次)

2年次終了までに下記の科目の単位を修得済みであること。

【教育の基礎的理解に関する科目等】

・教職入門	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・教育原理	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・教育心理学	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・特別支援教育	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・幼児理解方法論	(2単位)	2年次後期開設	必修科目
・教育相談	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・教育と社会	(2単位)	2年次後期開講	必修科目

【領域及び保育内容の指導法に関する科目】

・幼児と健康	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・幼児と人間関係	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・幼児と環境	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・幼児と言葉	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・幼児と表現	(2単位)	2年次前期開設	必修科目

「教育実習の研究Ⅱ（幼1・事前事後指導）」の授業参加状況が悪い場合（4回以上の欠席）は、実習参加を認めない。

「教育実習Ⅲ(幼2)」 （4年次）

- ① 教育実習Ⅰ（小）もしくは教育実習Ⅱ（幼1）の単位を取得していること。
- ② 年次終了までに開講されている「教育の基礎的理解に関する科目等」、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」を全て修得済であること。
- ③ 教育実習の研究Ⅲ（幼2・事前事後指導）」の授業参加状況が悪い場合（4回以上の欠席）は、実習参加を認めない。

イ. 事前・事後の指導計画 「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

事前指導は、「教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)」「教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)」の各授業科目の中で、10時間程度実施する。また、感染症予防対策として、学生の実習前の健康状態の確認とともに各種予防接種歴、感染症の罹患歴を確認し、麻疹、風疹、水疱瘡に罹患したことのない学生には、予防接種を受けることを勧め、インフルエンザの予防接種も毎年積極的に接種するように指導する。社会福祉施設においては、検便の実施を義務付けている。

事前指導の内容については、以下のとおり。

- ・教育実習の意義
- ・教育実習の内容
- ・教育実習生の立場と心得
- ・保育の指導法
- ・保育室運営についての学習
- ・指導案の作成と研究保育
- ・現場教員によるガイダンス

事後指導は、「教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)」「教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)」の各授業科目の中で、5時間程度実施する。

事後指導の内容については、以下のとおり。

- ・保育計画指導案及び保育実習日誌の提出・反省会
- ・実習レポートの提出・反省会
- ・実習担当教員による教育実習の批判及び指導
- ・実習生による反省会・批判会への参加

ウ. 実習内容について「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

- ・園内見学と実習内容に関する説明
- ・保育参観
- ・保育の実際に関する説明

- ・指導案の作成
- ・保育実習
- ・園内活動への参加
- ・園児指導、教育相談等への参加
- ・実習研究授業(特定日の保育実習をもってこれにあてる)
- ・実習研究座談会(最終日の午後に行う)
- ・指導方法について

エ. 巡回指導の実施体制「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

- ・実習担当教員が、実習期間中少なくとも2回の巡回指導を行う。
 - 1回目の巡回で実習生の指導と実習受け入れ担当者ならびに学校長等の要望等を把握し、センター会議において取りまとめを行う。
 - 2回目の巡回では、取りまとめの結果をふまえた指導を行う。
- ・実習中は、高野山大学特任マイスターに採用された退職学校教員が実習期間中にできるだけ訪問し、実習日誌の指導や実習に関連する悩みなど実習担任教員に協力して実習が円滑に進むように支援する。
- ・特任マイスターは、実習中の問題点や気づいたことなどを教職支援センターに報告し、教職支援センターは、特任マイスターからの報告を管理し、センター会議に反映する。
- ・巡回指導は、実習担当教員が主となって行うが、講義等との重複でやむを得ない場合は、教職支援センター専任事務員と特任マイスターが巡回する。
- ・実習先は河内長野市、南河内地域市町村や和歌山県紀北地域など近畿の府県とするが、遠隔地の実習となる場合は、実習先と電話やメールなどで直接連絡をとり、学生の実習の様子と、実習先からの要望等を把握することとする。

オ. 教員の負担について「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

- ・教育実習担当者に負担のないように、週1日の研究日を確保するように時間割上配慮している。もう一日は、実習関係の授業科目一科目のみが配置されている。

カ. 成績評価基準について「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

- ・実習校の「教育実習成績報告表」、実習生のレポート及び実習日誌・指導案等の資料により、本学の教育実習担当教員が評価する。
- ・実習後は、実習担当教員と学生の個別面談を行う。その際には、実習評価、レポート、指導案をもとにして、実習の報告、指導を行う。また、実習生による実習報告会を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。

4. 保育実習関係

【保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅰ(福祉施設)】

ア. 事前・事後の指導計画について

事前指導は、「保育実習指導Ⅰ(保育所)」及び「保育実習指導Ⅰ(福祉施設)」の授業科目の中で、10時間程度実施する。

また、感染症予防対策として、学生の実習前の健康状態の確認とともに各種予防接種歴、感染症の罹患歴を確認し、麻疹、風疹、水疱瘡に罹患したことのない学生には、予防接種を受けることを勧め、インフルエンザの予防接種も毎年積極的に接種するように指導する。社会福祉施設においては、検便の実施を義務付けている。

事前指導の内容については、以下のとおり。

- ・実習目的の理解、実習目的を基にした実習手続きと実習カードの指導等
- ・実習先の制度等の理解、実習目的に基づく自己課題を明確にする
- ・実習記録の書き方 ①目的とねらいを理解する、②子どもの動きと保育者の動き
- ・保育計画指導案の立て方 ①ねらいをもった指導案作成について
- ・実習に関わる演習 ①ソーシャルスキルに関わる演習、②手遊び、③絵本の読み聞かせ
- ・実習直前の指導(マナー、一日の流れ等)

事後指導は、「保育実習指導 I (保育所)」「保育実習指導 I (福祉施設)」の授業科目の中で、5時間程度実施する。

事後指導の内容については、以下のとおり。

- ・保育計画指導案及び保育実習日誌の提出・反省会
- ・実習レポートの提出・反省会
- ・実習報告会の実施 今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

イ. 実習内容について

- ・保育所の役割と機能、施設の役割と機能
- ・子どもの理解
- ・保育内容・保育環境、施設における子どもの生活と環境
- ・保育の計画・観察・記録、
- ・専門職としての保育士の役割と職業倫理

ウ. 巡回指導の実施体制について

- ・実習担当者が、実習期間中少なくとも2回の巡回指導を行う。
1 回目の巡回で実習生の指導と実習受け入れ担当者ならびに園長・施設長の要望等を把握し、センター会議において取りまとめを行う。
2 回目の巡回では、取りまとめの結果をふまえた指導を行う。
- ・実習中は、高野山大学特任マイスターに採用された退職学校教員が訪問し、実習日誌の指導や実習に関連する悩みなど担任教員に協力して実習が円滑に進むように支援する。
特任マイスターは、実習中の問題点や気づいたことなどを教職支援センターに報告し、教職支援センターは、特任マイスターからの報告を管理し、センター会議に反省する。
- ・実習先は河内長野市、南河内地域市町村や和歌山県紀北地域など近畿の府県とするが、遠隔地の実習となる場合は、実習先と電話やメールなどで直接連絡をとり、学生の実習の様子と、実習先からの要望等を把握することとする。

エ. 教員の負担について

- ・保育実習担当者に負担のないように、週1日の研究日を確保するように時間割上配慮している。もう一日は、実習関係の授業科目一科目のみが配置されている。

オ. 成績評価基準について

- ・実習校の「保育実習成績報告表」、実習生のレポート及び実習日誌・指導案等の資料により、本学の保育実習担当教員が評価する。
- ・実習後は、実習担当教員と学生の個別面談を行う。その際には、実習先からの実習評価、実習日誌、実習の報告をもとにして指導を行う。また、実習生による実習報告会を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。

【保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ】

ア. 事前・事後の指導計画について

事前指導は、「保育実習指導Ⅱ」及び「保育実習指導Ⅲ」の授業科目の中で、10時間程度実施する。

また、感染症予防対策として、学生の実習前の健康状態の確認とともに各種予防接種歴、感染症の罹患歴を確認し、麻疹、風疹、水疱瘡に罹患したことのない学生には、予防接種を受けることを勧め、インフルエンザの予防接種も毎年積極的に接種するように指導する。社会福祉施設においては、検便の実施を義務付けている。

事前指導の内容については、以下のとおり。

- ・実習目的の理解、実習目的を基にした実習手続きと実習カードの指導等
- ・実習先の制度等の理解、実習目的に基づく自己課題を明確にする
- ・実習記録の書き方 ①多角的に見る実習とその記録
- ・保育計画指導案の立て方 ①応用的な計画(保育案)の立案
- ・保育計画案の実施と改善ポイント
- ・子育て支援、地域支援の目的について
- ・実習直前の指導(まとめ)

事後指導は、「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」の授業科目の中で、5時間程度実施する。

事後指導の内容については、以下のとおり。

- ・保育計画指導案及び保育実習日誌の提出・反省会
- ・実習レポートの提出・反省会
- ・実習報告会の実施 今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

イ. 実習内容について

- ・保育所や福祉施設等の役割や機能の具体的展開
- ・観察に基づく保育の理解
- ・施設における支援の実際(福祉施設)
- ・子どもの保育及び保育所・家庭への支援と地域社会等との連携
- ・指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
- ・保育士の業務と職業倫理
- ・自己の課題の明確化

ウ. 巡回指導の実施体制について

- ・実習担当者が、実習期間中少なくとも2回の巡回指導を行う。
1回目の巡回で実習生の指導と実習受け入れ担当者ならびに園長・施設長の要望等を把握し、センター会議において取りまとめを行う。
2回目の巡回では、取りまとめの結果をふまえた指導を行う。
- ・実習中は、高野山大学特任マイスターに採用された退職学校教員が訪問し、実習日誌の指導や実習に関連する悩みなど担任教員に協力して実習が円滑に進むように支援する。
特任マイスターは、実習中の問題点や気づいたことなどを教職支援センターに報告し、教職支援センターは、特任マイスターからの報告を管理し、センター会議に反省する。
- ・実習先は河内長野市、南河内地域市町村や和歌山県紀北地域など近畿の府県とするが、遠隔地の実習となる場合は、実習先と電話やメールなどで直接連絡をとり、学生の実習の様子と、実習先からの要望等を把握することとする。

エ. 教員の負担について

- ・保育実習担当者に負担のないように、週1日の研究日を確保するように時間割上配慮している。もう一日は、実習関係の授業科目一科目のみが配置されている。

オ. 成績評価基準について

- ・実習校の「保育実習成績報告表」、実習生のレポート及び実習日誌・指導案等の資料により、本学の保育実習担当教員が評価する。
- ・実習後は、実習担当教員と学生の個別面談を行う。その際には、実習先からの実習評価、実習日誌、実習の報告をもとにして指導を行う。また、実習生による実習報告会を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。

5. 教育実習先の確保について

小学校、幼稚園、については、河内長野市と連携協定を結び、河内長野市内の実習先を確保すると共に、富田林市や大阪狭山市、堺市など近隣教育委員会に協力を仰ぐことで了解を得ており、実習生受け入れについて、河内長野市13小学校、富田林市16小学校を中心に、和泉市、橋本市、大阪狭山市、千早赤坂村、堺市教育委員会等から承諾をいただいている。幼稚園や施設等についても十分に確保ができています。

また、介護等体験についても、大阪府教育委員会、大阪府社会福祉協議会、和歌山県社会福祉協議会に受け入れの了解をいただき、受け入れが可能になっている。

以上の受け入れ先のリストおよび承諾書については資料として添付した（資料12「教育・保育実習先の一覧」）。

実習先へは、教育実習計画書等を提出し、実習内容、指導計画を明確にした上で実習を依頼する。その際に、実習指導者の複数配置を依頼、調整を図ることとする。

実習開始にあたっては、個人情報保護、事故防止等に関する事前指導を綿密に行い、これらに関する誓約書を提出させる。また、実習先とは事前に実習委託契約、実習内諾書を取り交わしていく。

6. 教育実習先との連携体制

河内長野市や富田林市教育委員会、近隣市町村教育委員会と全面的な協力体制を組むことによって、地域の小学校、幼稚園、保育園、社会福祉施設との密接な連携を図る。

すでに河内長野市教育委員会とは、合同チームを設置（前述 p.23）し、学校現場体験や教育実習についての意見交換や実習期間中の指導体制を含めた協議が進んでおり、教育学科設置後も継続的に検討・協議を続けることで合意している。

実習先とは、教職支援センターを通して、常時協力体制を構築し、実習が円滑に行われるように学生・実習先双方に働きかける。教育学科のカリキュラムにおいては、講義における教育・保育理論の学びと、実習における実践的学びとの二つを相互に還流するサイクルを工夫して、教育実践力を養うように意図している。なお、高野山大学特任マイスターにも、実習支援をしていただく予定にしている。

7. 体験学習について

（1）体験学習を設定する趣旨

これからの教育において、子供たちには、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要と考えられる。同時に、教師には、地域住民とも連携・協力しながらチームとして学校運営を推進していくことが重視される。また新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのアクティブラーニングを充実することが求められている。教員養成系大学には、こうした時代の要請に応えうる教員養成のために、どのような教育課程を設計すべきかが問われる。

一方、中教審や教育再生実行会議等では、教員として必要な資質・能力について、リーダーシップや思いやり、忍耐力、対人関係能力、コミュニケーション力、同僚性、学び続ける力、ファシリテーション・スキルなどに加え、地域や社会の多様な組織等と連携できる力などの必要性があげられてきた。

体験学習を科目設定する上では、体験的な学びが非認知的能力を育むという点も重要視している。非認知的能力の重要性は、近年特に注目されており、今後の教育の中心的課題の一つとなっている。上述の教員に必要な資質能力も非認知的能力であり、多様な人々との交流や、教育関連にとどまらない多彩な体験を通して、より効果的に育まれるものである。

本学のカリキュラムでは、以上のような背景を踏まえ、現場における体験的活動を可能な限り多く導入して、多様な人々と多彩に関わることを重要な柱とし、「体験学習」を科目設定した。

学校・保育現場体験学習では、1年次から授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助、授業における児童・幼児への学習指導補助などを取り入れ、大学での学びと教育現場での体験的学びを結合するカリキュラム編成としている。単に学校体験をするだけでなく、体験の目的と体験によって育つ力を明確にし、教師力の育成に寄与する体験プログラムとする。

地域体験学習では、農業体験、森林体験、里山保全活動、地域活性化活動、馬術場体験、ものづくり、文化活動などを、地域の各団体と連携しプログラム化している。連携する団体は、いずれも地域に根ざし存在感をもって活動する諸団体である（各団体と高野山大学との間で連携協定を締結）。

このような体験学習を通じ、個々に多様で多彩な人々や仕事との触れ合い、それを通じたコミュニケーション力の醸成、協力して何かをつくり上げる経験、困難に打ち勝つ体験などを積み重ねていくことになる。教育現場に必要な資質能力の「相手に寄り添うことができる力」や「困難にぶつかってもやり遂げられる力」、「仲間と協力してものごとを完成させる力」などがこうして育まれていく。

これらの学びにおいては、活動に対して主体的に関わることを求められ、体験に関連する理論的な学びを総動員して工夫し、理解を深めることになる。また、事前の準備や、活動途中での振り返り、活動後の展開も一体として、こうした体験的活動を構成し、学びに寄与する。こうして「主体的・対話的で深い学び」が生まれ、「主体的に考える力」を培うことができる。同時に、教育現場に必要な実践的な力や、体験的活動に関する知識・技術を身につけることができる。

（2）体験学習の科目内容

体験実習科目では、必修科目として「学校・保育現場体験Ⅰ・Ⅱ」および「地域体験Ⅰ～Ⅳ」を設定している。これらの科目は、体験的な学びを理論的な学びと並ぶ大きな柱に据える本学教育学科カリキュラム上の際立った特徴をなすものである。これを実現するため、学校・保育現場体験を週1日、地域体験を週1日、合わせて週2日を原則として体験実習の日に充て、残り3日を大学での理論的学習とする時間割を採用した。

学生は1年生の第1タームから体験実習に出る。地域体験の場合、1学年を半分ずつ2クラスに分け、片方が地域体験Ⅰ（実習先6か所に分かれる）、もう片方が地域体験Ⅱ（実習先6か所に分かれる）を履修する。毎週1回、定まった曜日に6時間ずつ、のべ5週にわたり体験実習を行う。1科目につき通年で30時間1単位を取得し、一人の学生は1年生の間に地域体験ⅠとⅡの2科目を履修することになる。

地域体験学習は、大学が連携した地域の各団体で、学生が体験的活動を行うものである。

地域体験Ⅰは、1年次で行う。農業・栽培に関する体験プログラムのいずれかに参加する。

地域体験Ⅱは、1年次で行う。地域体験Ⅰで参加した体験活動以外の森林・木工関連の体験、地域活動に関連する体験、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。

地域体験Ⅲは、2年次で行う。農業・栽培に関する体験プログラムのいずれかに参加する。

地域体験Ⅳは、2年次で行う。地域体験Ⅲで参加した体験活動以外の森林・木工関連の体験、地域活動に関連する体験、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。

いずれにおいても、連携先の方々や、支援いただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

体験的活動において連携する各団体は以下のとおり。

(地域体験Ⅰおよび地域体験Ⅲの連携団体)

- ①農業・栽培体験（里山ひだまりファーム）
- ②農業・栽培体験（サバーファーム）
- ③農業・栽培体験（和泉体験農園）
- ④農業・栽培体験（花の文化園）
- ⑤農業・栽培体験（公園緑化協会）
- ⑥果樹・栽培体験（山口果樹園）

(地域体験Ⅱおよび地域体験Ⅳの連携団体)

- ①地域活動体験（小山田小学校区まちづくり会）
- ②地域活動体験（森林ボランティアトモロス）
- ③文化活動体験（文化会館ラブリーホール）
- ④馬術体験（クレイン）
- ⑤レザークラフト体験（工房テハマナ）
- ⑥森林・木工体験（森林組合南河内支店）

本科目は、通常の科目とは実施形態や内容が異なるため、各回については、団体ごとに作成した活動計画に従って行う。（詳細は上述の資料4-2「地域体験実習科目概要」および資料4-3「実習科目の詳細」を参照）

(3) 指導体制および巡回指導計画

地域体験の現場実習に先立ち、事前指導として全学生対象の「実習オリエンテーション」を開催し、実習参加者に受講させる。「実習オリエンテーション」では、事務手続き、実習参加の心得、目的、留意事項等の説明と講義を行い、実習への準備を促す。また、実習参加者には、担当教員による個別の事前指導を行う。実習に対する不安や疑問に対応するとともに、個別の実習先からの連絡、要望を伝える。また、実習に際して持つべき課題を探る。現場指導者も含め、学生が持つ課題を関係者全員が共有し、適切な指導を図る。

実習に際しては、地域支援センターを中心に、全教員が指導に関わる。実習先ごとに担当教員を配置し、実習の開始時および終了時に実習先の訪問・指導を行う。また、途中で実習について振り返りを行い、問題点や成果を明らかにし、以後の実習をより有効なものとする。担当教員はその指導を行う。なお、本学特任マイスターによる実習日誌の指導補佐等のサポートも可能なため、より指導者の負担減につながる。

実習中の巡回指導は、それぞれの実習先ごとに少なくとも2回以上行う。センターが中心となり、全教員が関わりながら、実習先との連携協力に基づく巡回指導を行う。体験学習の行われる火曜日（学校・保育現場体験）および木曜日（地域体験）には、専任教員のうち10名以上が当該曜日に授業の入らない日程を確保する。同時に行われる体験学習は最大12か所であり、各支援センターと教員により全ての実習先を巡回指導することが可能な計画である。

（4）成績評価および単位認定

実習後、実習担当者と学生の個別面談を行う。その際には、実習先からの評価を踏まえ、実習の報告、指導を行う。実習生による実習報告書提出および実習報告会での報告を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。また、実習先、学生の要望と課題を把握し、今後の実習指導に生かしていく。

X I 企業実習や海外語学研修など学外実習の具体的計画

1. 学外実習科目

すでに「教育課程編成の考え方及び特色」で述べたように、本教育学科では、教職免許取得を目的とする「教育実習」に加えて、「学校現場体験実習」と「地域体験実習」を課程編成の2本柱とした本格的な体験教育を導入している。

学校現場体験では「学校・保育現場体験Ⅰ、Ⅱ」「学校現場ボランティア」の3科目を設定し、地域の学校や放課後支援などの経験を積み重ねていく。この体験が小学校や幼稚園の「教育実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」につながり、教育実習の内容をより濃いものにしていくことを目指している。

学校現場以外の学外実習として、「地域体験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」および「地域体験ボランティア」、「海外留学体験」の6科目に加えて、演習科目として「高野山国際ガイド体験」を設定している。

これらの体験実習を経験することで、学生たちが高い人間力を身につけることを目指している。特定企業での研修を目的としたものではないが、こうして獲得した人間力は、教育現場はもちろん、それ以外の様々な企業や団体に十分通用する力として発揮できるはずである。

実際、このプログラムを説明した諸団体からは、どこでも通用する力が育つのではないかと高い評価を受けている。多くの企業に対して行ったアンケート（96社回収 2018.12実施）でも、「高野山大学教育学科は社会にとって必要か」という問いに対して84の企業（87.5%）が「必要

だ」と応え、「卒業生を採用したいか」という問いに対して、77の企業（80.2%）が「採用したい」と応えていただいている。（「学生確保の見通し」文書 添付資料 4-3「企業等対象調査」を参照）

なお、学生の自己実現のためのキャリア教育として、「キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」を設置し、職業観や労働と人生との関係、人生設計などについて学ぶ。これらの授業は、関西経済同友会常任理事でもある帯野久美子特任教授（令和3年就任予定）に担当いただく。

2. 実習先との連携体制

前述したように、河内長野市教育委員会とは、学校現場体験や教育実習についての意見交換を継続的に行っており、教育実習を意味あるものにする事で合意している。また、同委員会とは教育活動に関して連携協定を締結しており、緊密な連携協力関係が実現している。

地域諸団体における地域体験実習では、前述（p. 16）したように、地域の様々な団体と連携協定を締結しており、体験実習のプログラムも連携して作成している。地域支援センターが窓口となって諸団体と連携するが、高野山特任マイスターにもサポーターとして関わっていただく。

海外留学体験： 海外体験では、現在の提携先は以下の大学である。

- ・タイ国 ラーチャモンコン・ラタナコーシン 工科大学とMOUを締結（2016.11）

同大学より、現在留学生5名が編入学している。

- ・タイ国、マハチュラロンコン大学とMOUを締結（2018.5）

- ・米国シアトル 高野山真言宗シアトル別院とも連携が開始され、2019年2月より学生1名が派遣されている。その関連で、シアトル大学との連携も検討が始まっている。

これらに加えてフィリピン等の大学を開拓している。なお、これらの実習先とは、教職関連については教職支援センター、地域体験関連については地域支援センターを通して、実習が円滑に行われるように学生・実習先双方に働きかける。

XII 2校地以上での教育活動について

本学は、和歌山県伊都郡高野町における高野山キャンパスに法人本部および文学部の校地があり、密教学科は高野山キャンパスにて教育研究を行っている。今回申請する教育学科は、大阪府河内長野市の大阪千代田短期大学の校地・校舎（河内長野キャンパスと称する）において教育研究を行う。教育学科事務室および専任教員の研究室は河内長野キャンパスに配置し、教員は基本的に週5日間河内長野キャンパスに勤務する。

教育学科の授業の大半を河内長野キャンパスで行なう予定であるが、僧侶科目4科目（常用教典、声明、法式、布教）および、外国語コミュニケーション科目内の「高野山国際ガイド体験」に

については高野山キャンパスにて教育を行なう。僧侶科目は、高野山真言宗の僧侶資格取得を希望する学生のためのものであり、高野山にて学ぶことに大きな意味がある。また、「高野山国際ガイド体験」は、世界遺産高野山にて、訪問外国人に対するガイドを英語で行なうものであり、まさに高野山キャンパスでなくてはならない科目である。

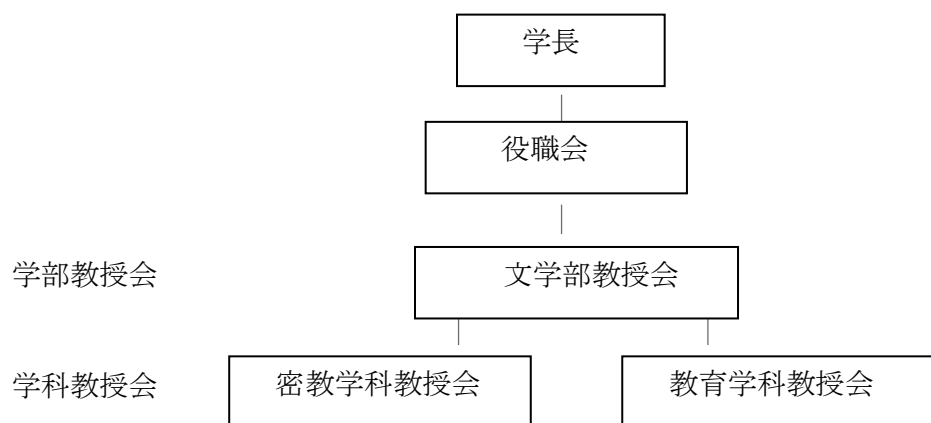
なお、両校地は、南海高野線を利用すると片道約2時間の距離があり、学生の便宜を考慮して上記科目は集中講義で行なう予定である。

河内長野キャンパスには、理科実験室がないため、理科関連科目の「理科内容論」「理科指導法」「授業実践研究Ⅱ（理科実験開発）」3科目は、千代田学園大阪暁光高校（以下、千代田キャンパスと称す）の理科室を利用する。河内長野キャンパスから大阪暁光高等学校へは、公共の交通機関（南海バス）を利用して、片道15分で移動が可能であるが、学園のマイクロバスを利用可能であり、10分ほどで移動できる。学生の履修上支障がないように時間割編成を工夫する。

XIII 管理運営

大学全体の教学面における管理運営については、最高審議機関として役職会が設置されており、学部・学科の教学面における重要事項の管理運営については、教授会で行う。ただし、高野山と河内長野キャンパスは、互いに遠く離れており、同じ文学部であっても、密教学科は高野山キャンパス、教育学科は河内長野キャンパスに設置されており、一同に会しての会議には困難をとまなう。また、たとえば教授会を高野山キャンパスで開催し、そこに教育学科教員が参加しなければならない場合、河内長野キャンパスに教育学科の専任教員が一人もいなくなる事態が生ずることから、それぞれの学科に学科教授会を設け、通常の学科の管理運営については学科教授会で行なうことにする。文学部として共通に議論したり、意思疎通をはからなければならない場合には学部教授会を開催し、それ以外は、密教学科、教育学科がそれぞれ学科教授会にて運営する。学科教授会は原則として月1回開催する。

高野山大学教学運営組織



役職会

役職会は、学長の主導の下、大学全体に関わる運営方針に関する基本的事項等について審議する機関であり、学長、副学長（教務担当、学生サポート担当）、大学院研究科長、学科長、図書館長、密教文化研究所長、各課（室）長で構成する。

協議内容については役職会規程第2条で以下のように規程されている。

第2条 役職会は次の事項について、協議する。

- 1 大学の運営方針に関する基本的事項
- 2 学長からの諮問事項
- 3 各部署、各委員会からの提案に関する事項
- 4 学部・学科・大学院・別科、図書館、研究所及びその他の附属施設等の運営について
- 5 その他

教育学科教授会

教育学科に関する教育研究等について審議する機関であり、学長及び学部・学科専任教授、准教授、講師で構成する。

審議内容は、教授会規程第3条で、下記のように規程されている。

第3条 教授会(学部・学科の教授会を含む。) (以下「学部・学科教授会」という。) は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学則その他教育研究に関する重要な規則、規程の制定、改廃に関する事項
 - (2) 学科、専攻並びに教育及び研究に関する組織の設置、廃止に関する事項
 - (3) 教育職員の人事及びFDに関する事項
 - (4) 収容定員に関する事項
 - (5) 教育課程の編成に関する事項
 - (6) 学生の入学、退学、休学、留学、卒業、その他学生の身分に関する事項
 - (7) 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
 - (8) 試験及び成績に関する事項
 - (9) 別科に関する事項
 - (10) その他本学の教育研究に関する重要事項及び学長から諮問された事項
- 2 前項第1号から第4号の事項については、理事会へ意見具申の上、理事会の決定に

より行うものとする。

(会議の開催)

第4条 学科教授会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、学長が必要と認めるとき又は構成員の過半数の要請があったときは臨時に開催するものとする。

2 学部教授会は、学長が必要と認めるときに開催するものとする。

学科教授会では、教育学科の教員組織に関する原案についても協議し、その結果を役職会に上申する。

また、教務委員会や、学生委員会、入試学生募集委員会、教職課程委員会、FD委員会等を設置し、所管事項や特命事項などを協議・企画立案し、教授会に上申する。

学科における教育成果の確認や改善については、学科が主体となって進めるが、学科単位では対処の困難な事項については、関連する委員会や学部教授会、役職会と連携をとって解決に努める。

XIV 自己点検・評価

「高野山大学学則」第2条には、大学評価委員会を設け、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うことを規程に明記してある。大学評価委員会は、文学部では5名の専任教員および2名の事務職員によって構成されているが、教育学科認可後には、教育学科専任教員および事務職員も加えた構成にする予定である。

なお、各部局は、年度末である2～3月に、翌年度の活動方針を学長に提出する。その方針は、新年度の4月に副学長より大学内に示される。大学評価委員会は、毎月1回の定例会議を開催し、議事録や聞き取り調査などに拠りながら、各部局の事業計画が遂行されているかどうかを点検する。その評価結果は、ほぼ半年ごとに提言を付して学部・学科で報告される。

1月には、当該年度の達成度評価が各部局によって行われ、大学評価委員会がそれを取りまとめ、合同協議会で報告した上で学長に報告する。報告によって明らかになった問題点に対処すべく、翌年度の活動方針を各部局が策定する。また、「授業アンケート」「学生生活アンケート」を定期的実施する。

各年度の自己点検・評価結果は7年以内に総括され、第三者評価機関による認証評価を受ける際の報告書として活用される。本学では、平成15年度、平成22年度、平成30年度において、公益財団法人大学基準協会による認証評価を受けている。

既存学部の評価項目は、公益財団法人大学基準協会が求める項目を基準として選定しており、具体的には次のとおりである。

「理念・目的」「教育研究組織」「教員・教員組織」「教育内容・方法・成果」「学生の受け入れ」「学生支援」「教育研究等環境」「社会連携・社会貢献」「管理運営・財務」「内部質保証」

認証評価を受けるために提出した報告書は、速やかに大学ホームページにおいて公表している。また、第三者評価機関による評価結果については、公益財団法人大学基準協会のホームページにおいて公表されている。

X V 情報の公表

1. 情報公開の基本方針

公的機関として社会に対する説明責任を果たすため、また教育研究の質保証と向上を図るため、大学の活動状況を積極的に公開する。情報の内容に応じて、印刷物、PDF形式のデータの配布、ホームページへの掲載等によって公表している。公表に際しては、各課・係・委員会等の事務組織・教学組織からの要請に基づき、総務課が中心となって実行している。

2. 公開内容

大学HPでは、すべての情報が、毎年公開されており、HPから閲覧およびダウンロード可能である。

ちなみに、2019年度は下記に公開している（他年度も同様）。

高野山大学トップ>情報公開>2019（令和元年度）

<http://www.koyasan-u.ac.jp/info/disclosure/>

公開している各項目は、すべてpdfファイルとしてダウンロード可能である。

2019（令和元年度）

専任教員数

校地・校舎等の施設

校舎等の耐震化率

授業料・入学料

教員組織（教員一人当たり学生数・職階別教員数・年齢別・取得学位等）

教職課程

学部履修規程

大学院履修規程

大学院通信教育規程

別科規程

社会人学生数
留学生及び海外派遣学生数
入学者推移（H27～H31）
令和元年度在学者数・収容定員充足率
平成30年度卒業（修了）者数・学位授与数
令和元年度講義概要・授業計画（履修モデル・主要科目・目標）
学生の修学、進路支援
高野山大学学位規定
文学部及び別科に関する試験並びに試験実施規程
大学院に関する試験並びに試験実施規程
学生の心身の健康に係わる支援
講義概要
平成30年度在学者数・退学除籍数・中退率・留年者数
国際交流社会貢献等 情報公表2019（調査）
財産目録
貸借対照表
資金収支計算書
事業活動収支計算書
活動区分収支計算書
平成30年度事業報告書
平成30年度独立監査人の監査報告書
平成30年度監事による監査報告書
高野山学園理事名簿
高野山学園役員名簿
研究費の不正防止計画 実施要領
公的研究費の責任体系について
高野山大学における研究データの保存等に関する規程
高野山大学研究倫理規程
高野山大学公的研究費の不正使用防止に関する規程
高野山大学公的研究費の不正使用防止に関する内規
不正防止計画について
不正防止計画の策定について
授業評価アンケート経年比較

単位取得状況

平成 30 年度資格取得等実績

修学支援新制度 確認申請書様式 2

実務経験のある教員による授業科目一覧：2019年度

教員業績（教育・研修・社会貢献等）

カテゴリー別公開内容

①大学の教育研究上の目的に関すること

「高野山大学学則」第1章 総則（『高野山大学要覧』所収）

高野山大学トップ>情報公開>大学学則

②教育研究上の基本組織に関すること

「高野山大学学則」第1章 総則（『高野山大学要覧』所収）

高野山大学トップ>情報公開>大学学則

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

「高野山大学学則」第2章 教員組織（『高野山大学要覧』所収）

高野山大学トップ>情報公開>2019>教員組織（教員一人当たり学生数・職階別教員数・年齢別・取得学位等）

高野山大学トップ>情報公開>2019>「教員業績（教育・研修・社会貢献等）」

④入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了

した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

「高野山大学文学部の三つのポリシー」（『高野山大学要覧』所収）

高野山大学トップ>情報公開>学部三つのポリシー

高野山大学トップ>情報公開>入学者推移

高野山大学トップ>情報公開>2019（令和元年度）>在学者数・収容定員充足率

高野山大学トップ>情報公開>学生の修学、進路選択

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

「高野山大学履修規程」（『高野山大学要覧』所収）

高野山大学トップ>情報公開>2019（令和元年度）>学部履修規程

高野山大学トップ>シラバス

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

「高野山大学文学部の三つのポリシー」（『高野山大学要覧』所収）

高野山大学トップ>情報公開>学部三つのポリシー

「高野山大学学則」第4章 教育課程（『高野山大学要覧』所収）

高野山大学トップ>情報公開>大学学則

「高野山大学履修規程」(『高野山大学要覧』所収)

高野山大学トップ>情報公開>学部履修規程 H30

「文学部及び別科に関する試験並びに試験実施規程」(『高野山大学要覧』所収)

「高野山大学学位規程」(『高野山大学要覧』所収)

高野山大学トップ>情報公開>単位取得基準表・学位取得

⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

高野山大学トップ>キャンパスマップ

高野山大学トップ>高野山大学フォトギャラリー

高野山大学トップ>高野山大学図書館

「キャンパス案内図」(『高野山大学要覧』所収)

「学内施設見取図」(『学生手帳』所収)

印刷物のみ

⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

「高野山大学学則」第7章 学費(『高野山大学要覧』所収)

高野山大学トップ>情報公開>2019(令和元年度)>授業料・入学料

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

高野山大学トップ>就職支援・資格取得支援

高野山大学トップ>情報公開>令和元年度)>学生の就学・進路支援

⑩その他

自己点検・評価報告書については、既に本学ホームページに掲載しており、認証評価の結果については、公益財団法人・大学基準協会のホームページに掲載されている。

認証評価結果(2018年度)

http://www.koyasan-u.ac.jp/info/disclosure/pdf/2019/201903_koyasan_disclosure.pdf

高野山大学トップ>情報公開>『平成30年度 高野山大学における現状と課題点検・評価報告書』

http://www.koyasan-u.ac.jp/info/disclosure/pdf/2019/201904_koyasan_disclosure.pdf

公益財団法人・大学基準協会トップ>評価事業>大学評価>2018(平成30)年度「大学評価」の結果>高野山大学に対する(認証評価)結果

<http://www.juaa.or.jp/images/accreditation/pdf/result/university/2018/koyasan.pdf>

教育学科の情報の公表について

本学科の情報の公表についても、設置された後は、現行の文学部における情報の公表と同じような形でホームページを利用して、積極的に情報を公表していくことにしている。

XVI 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

1. 基本方針

授業内容・方法の改善とその定着を図るためのファカルティ・デベロップメント（FD）委員会を設置し組織的取組みを継続して行う。また大学全体の教育研究活動の改善のため、総務課が所掌して職員研修を行う（SD）。教育研究活動の改善のためには、教員と職員がともに継続的に研修し努力していくことが大切である。

教育学科の教員としての資質向上のためには、授業内容や方法の改善を目的としたFD活動の絶えざる推進が必須要件である。加えて、高等教育の場においては、各教員がそれぞれの専門分野で研究活動に従事し、最新の知見を研究成果として公表するとともに、それを授業内容のうちに織り込むことも重要である。

また、専門分野を越えて教員同士が研究成果を公開し、専門的知識を共有することも求められる。各教員が専門性を高め、最新の知見を吸収し、広く深い知識を獲得した上で、学生の教育及び指導に当たることが、教育の質を向上させるために必要不可欠である。

なお、非常勤講師が担当する科目に対しても授業アンケートを実施し、その結果を有効に活用するようにFD委員会から要請し、つねに全授業の改善を求めていきたい。

こうした考えのもとで遂行される「教育内容等の改善を図るための組織的取組み」の方針は以下に示すとおりである。

- ・ 授業内容・方法の継続的な改善
- ・ 各教員の教育方針や授業に関する情報の共有
- ・ 各教員の専門分野での研究成果の共有
- ・ 全ての授業科目の改善
- ・ 大学職員として必要な知識・技能を習得するためのSD研修

2. 具体的内容

(1) 授業アンケートによる「授業評価」

・ **アンケートの目的：** 授業の実態を客観的に把握し、授業改善のための基礎的資料を収集するために授業アンケートを実施する。アンケートで得られた結果をその後の授業計画及び改善に反映させ、より質の高い授業をめざす。

・**調査方法**： 各学期（各ターム毎）中にそれぞれ1度ずつ学生による授業アンケートを定期的
的に実施し、受講生の意見を汲み取るようにする。アンケートは無記名方式で実施し、学生が成績
への影響を心配することなく率直に感想を述べられるようにする。

科目担当者は定められた調査時期にアンケートを実施し、学生に回答させ回収する。科目ごとの
集計結果を科目担当者に返却し、集計結果の分析はFD委員会が担う。

「授業アンケート」での質問項目は、授業スキルだけでなく、「受講人数は適切か」「テキスト・
補助教材・配布プリント等は授業内容の理解に役立っているか」「授業の開始時間と終了時間が守
られているか」「教員は学生に対して公平であるか」「教員は私語、携帯電話、遅刻、途中での入
退室に、適切に対応しているか」等にわたり、次学期以降の教育改善に役立てる性格のものとする。
各教員は「学生による授業評価」の集計結果を受け取ったのち、それを報告書にまとめ、今後どの
ように授業を改善して行くかについて方針をまとめる。

学科所属教員が担当する授業については、学科会議において内容の調整を図る。シラバスの内容
については教務委員会において精査し、修正を依頼することもある。教務委員会の構成員にはFD
担当の教員を配置し、FDに関する出張報告会や懇談会などを開催して情報の共有を図る。

・**調査結果の公開**： 「授業アンケート」の結果報告書を教務課に備え、学生・教員のみ閲覧
可能な状態で公表する。回答した学生に対してアンケートの調査結果を公表することにより、学生
自身に授業評価に対して自覚と責任を促す。また、次年度の受講登録の参考資料として用いること
も可能とする。結果を公表することにより、大学全体で授業の質の向上を目指す。

（2） 「授業公開」の実施

当面は、学期ごとに2週間程度の授業公開期間を設けて、教員が担当する授業を1回以上公開
する。見学者は見学した授業についてレポートを作成し、授業担当者は授業レポートにコメントを
書き加えてFD委員会に提出する。FD委員会では、それをもとに授業の改善を検討する。

将来は、すべての授業をいつでも公開し、全教員が気兼ねなく授業の質の向上をめざす議論を交
わせるようになるべきであり、FD委員会はそれを実現するための検討もすることが望まれる。

（3） 学内研修会の実施と学外研修への参加

FD・SD活動の目的達成のため、以下のような学内研修会を企画・実施する。

- ・ 授業方法の向上を目的とした学内外の講師による学内研修会
- ・ 授業内容・方法の改善を企図した教育学科の全教員参加による学内研究会
- ・ 各教員がその専門分野での研究成果を共有するための学内研修会
- ・ 各教員が授業内容方法の改善の成果を公表する研修会
- ・ 大学職員として必要な知識・技能を習得するためのSD研修会

（4） 学外研修への参加

- ・ 外部の研修会に、最低年1回の参加することとする。

(5) その他

以上に加えて、学生参加型の大学改革についても検討したいと考えている。今後の課題である。

XVII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組

既に記したように教育学科では、小学校教諭、幼稚園教諭免許取得に必要な実習の他に、学校現場体験科目と地域体験科目を教育課程内に設置しており、地域活動や学校現場での教育活動プロジェクトを実施する。これらの実践科目において、教育・保育関係の実践力を養うと共に、「コミュニケーション能力」や「相手に寄り添う力」「ものごとを最後までやり遂げる力」「仲間と協力する力」などを涵養することを目的としている。こうした力は、社会的自立や職業的自立を助ける大きな能力要素である。

学校現場での実践的な学びとして、1年次・2年次に「学校現場体験Ⅰ、Ⅱ」を必修として配し、「学校現場ボランティア」を選択科目として3年次に配している。前者は、教職に就くものは全員の学生が履修し、河内長野市をはじめとする地域に密着した形で小学校、幼稚園で研修的に学ぶ。現場での就業意識の形成を明確な目的と責任を持った形で行うことが目的でもある。

地域活動では、1年から4年次にかけて「地域体験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を必修として、また「地域体験ボランティア」を3年次に選択科目として配置している。

文字通り地域の団体や人々と交流し、社会的自立を助けるプログラムとして有効な科目である。プログラム内容や連携先については、「教育課程の編成の考え方及び特色」「実習の具体的計画」等の項目で詳しく述べた。

すでに述べたように、学生の自己実現のためのキャリア教育として、「キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」を設置し、職業観や労働と人生との関係、人生設計などについて学び、「キャリアデザインⅢ」において、企業へのインターンシップを行う。入学時に卒業後の進路を射程に入れたキャリア意識の形成をはかり、自分で将来の就業を意識した目標とそれを実現するための大学在学中になすべきことを組み立てることのできる能力を育成していく。

2. 教育課程外の取組

教育学科では、河内長野市や堺市など周辺自治体と連携して小学校現場での学童保育に教育ボランティアとして入り、学校の先生、児童、地域の人々と協力して現場での体験を通して力を養っていく計画である。すでに、河内長野市教育委員会とは学童保育についての協議は進んでおり、堺市

からは、堺市教育スポーツ振興事業団を通じて学生派遣の依頼を受けている。これらの現場で得られる貴重な体験は、大学において報告会という形で多くの学生たちに共有できるように考えている。

合わせて各府市教育委員会が独自に開設する教師養成プログラム（大阪市教育委員会が主催する「大阪市教師養成講座」、堺市教育委員会が主催する「堺・教師ゆめ塾」、等）への参加を積極的に促していく。これらのプログラムに参加した学生が自身の得た成果を発表する報告会を開催し、体験の総括をすると共に、後輩学生や未参加の学生への自覚を促し就業力育成に役立てていく計画である。

3. 適切な指導体制について

教職支援センター

教職支援センターを河内長野キャンパスに設置する。高野山キャンパスにある教職課程センターでは主として密教学科の教職課程について担当し、教職支援センターは、教育学科の教職課程を担当する。

教職支援センターの業務は、教育実習(小学校・幼稚園)、保育実習、社会福祉施設実習等についての①実習先との連絡調整、②都道府県及び市区町村教育委員会等との連絡調整を主たる業務とする。学生に対しては、センター構成員が、実習全般における学生指導と支援、実習中の巡回指導、教育効果の検討、緊急時の対応、実習に関わる事務的作業、実習時の安全確保、実習先との連絡・調整を行う。実習についての管理、情報はこのセンターで一元化し、他の組織との連携協力を図り、実習が円滑に行われるよう調整する。その他、1年次・2年次の学校現場体験先との連絡調整、学生への指導と支援、緊急時の対応、体験に関わる事務的作業等、情報を一元化し、体験が円滑に行われるよう調整する。センターには、教職課程に必要な資料を揃えるとともに、学生への貸し出しを行う。

センターには、教職支援センター長、実習担当教員2名、特任マイスター2名と事務員1名が所属する。実習についての管理、情報はこの機関で一元化し、他の組織との連携協力を円滑に図ることを目的とし、実習が円滑に行われるよう調整する。

さらに、就業体験報告会や就職ガイダンスや学内企業セミナーを開催し、それに参加を義務付けていくことで、教職だけでなく広く社会で必要とされるコミュニケーション能力や教職以外の分野の就業にも力を入れていく。学生個々の状況に応じたキャリア・カウンセリングや模擬面接の実施、資格取得対策講座の開設、就職に関する情報の個別提供等を精力的に行い、学生のキャリア形成をサポートしていくこととしている。

これらの支援では、学生たちの生涯を通じた就業力を持ち続ける力の養成を目指し、彼らの豊かな人間形成と生涯にわたるキャリア設計に役に立つものにしていく計画である。

さらに、就業体験報告会や就職ガイダンスや学内企業セミナーを開催し、それに参加を義務付けていくことで、教職だけでなく広く社会で必要とされるコミュニケーション能力や教職以外の分野の就業に

も力を入れていく。学生個々の状況に応じたキャリア・カウンセリングや模擬面接の実施、資格取得対策講座の開設、就職に関する情報の個別提供等を精力的に行い、学生のキャリア形成をサポートしていくこととしている。

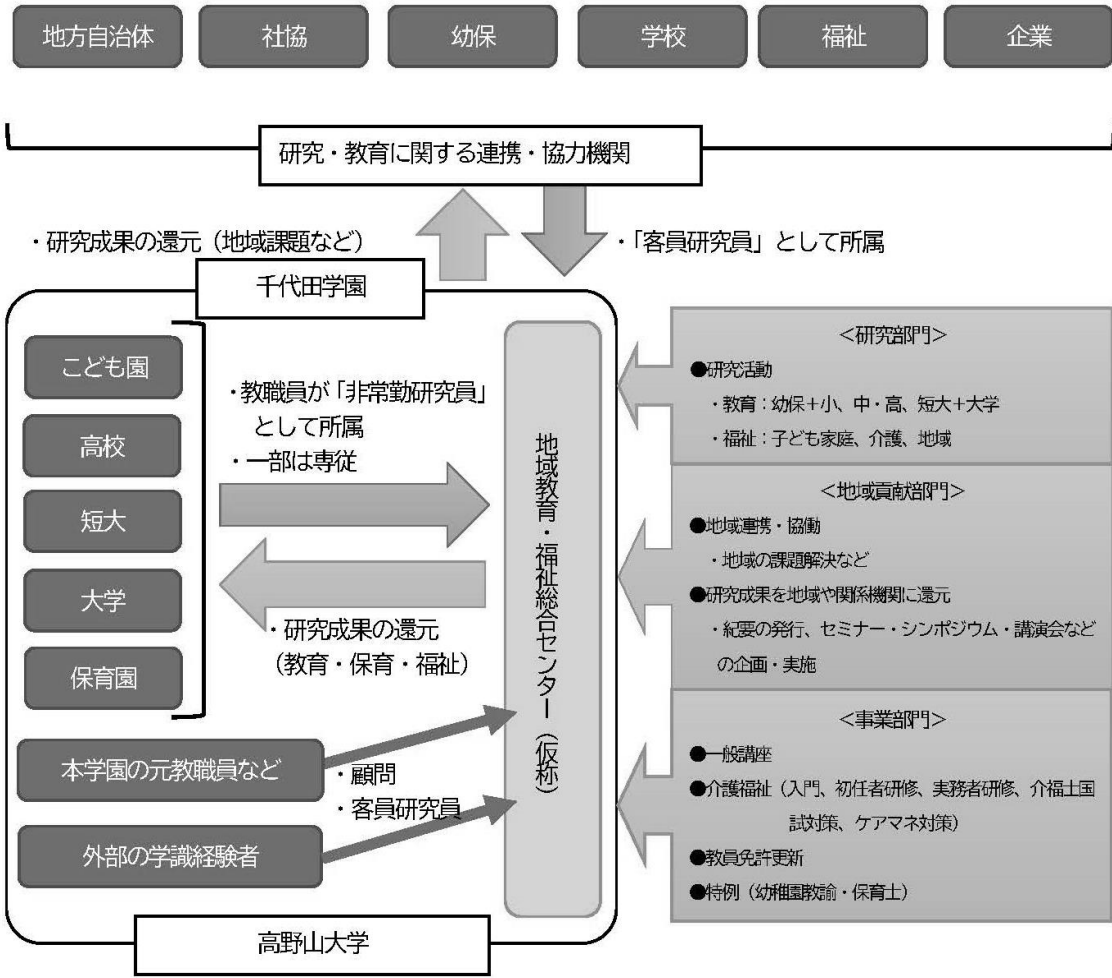
これらの支援では、学生たちの生涯を通じた就業力を持ち続ける力の養成を目指し、彼らの豊かな人間形成と生涯にわたるキャリア設計に役に立つものにしていく計画である。

地域支援センター

地域体験に関わるプロジェクトについては、「地域支援センター」を設置し、学生の指導・支援や円滑な運用、及びプロジェクトの総括、改善、企画等を行う予定であるが、地域団体の多くの市民と関わることで、社会的職業的自立に関する実質的な知見を獲得できると期待している。

センターには、大学教員および事務職員に加えて、地域のマイスターの方に関わっていただく予定になっている。

なお、地域支援センターは学校法人千代田学園との連携により設立予定の「地域教育・福祉総合センター」（仮称；下図）へと発展的に改組していく構想である。両者合同の組織として編成し、学生指導および地域との連携業務を一層活発に行うことが可能になる。



【図 地域教育・福祉総合センター（仮称） イメージ】

教授会組織との連携

当然ながら、こうしたセンター機能と教授会傘下の委員会組織（学生生活委員会、教務委員会）とが連携して、適切な指導・支援を行っていかねばならない。

「設置の趣旨等を記載した書類」の添付資料

目次

- 資料 1 高野山大学教育学科設置についての要望書
- 資料 2 河内長野市教育委員会と高野山大学との連携協力に関する協定書
- 資料 3 「小学校教員に必要な資質能力」に関するアンケート結果
- 資料 4 連携協定締結先
 - 4-1 地域体験実習先一覧
 - 4-2 地域体験実習科目概要
 - 4-3 連携先実習の詳細
- 資料 5 「高野山大学特任マイスター」制度および規程について
- 資料 6
 - 6-1 教育課程概念図
 - 6-2 カリキュラム・ツリー
- 資料 7 学校・保育現場体験プログラム概要
- 資料 8 高野山大学文学部教育学科 履修モデル
 - 8-1 児童教育コース
 - 8-2 幼児教育コース
 - 8-3 幼・小1種免許コース
- 資料 9 校地・校舎等の借用に関する契約書
- 資料 10
 - 10-1 令和6年度(完成年度)分授業時間割案
(高野山大学文学部教育学科・大阪千代田短期大学)
 - 10-2 「教室配置表」
- 資料 11 新規購入図書リスト
- 資料 12 教育・保育実習先の一覧

高野山大学教育学科設置についての要望書

教育委員会 13件

- ① 堺市教育委員会
- ② 藤井寺市教育委員会
- ③ 松原市教育委員会
- ④ 富田林市教育委員会
- ⑤ 河内長野市教育委員会
- ⑥ 大阪狭山市教育委員会
- ⑦ 太子町教育委員会
- ⑧ 河南町教育委員会
- ⑨ 千早赤坂村教育委員会
- ⑩ 和泉市教育委員会
- ⑪ 橋本市および橋本市教育委員会
- ⑫ かつらぎ町教育委員会
- ⑬ 五條市および五條市教育委員会

高野山真言宗 宗務支所 23件

- ①高野山真言宗 富山宗務支所
- ②高野山真言宗 石川宗務支所
- ③高野山真言宗 能登宗務支所
- ④高野山真言宗 福井宗務支所
- ⑤高野山真言宗 京都宗務支所
- ⑥高野山真言宗 内吉野宗務支所
- ⑦高野山真言宗 和歌山宗務支所
- ⑧高野山真言宗 兵庫宗務支所
- ⑨高野山真言宗 淡路宗務支所
- ⑩高野山真言宗 播磨宗務支所
- ⑪高野山真言宗 但馬宗務支所
- ⑫高野山真言宗 島根宗務支所
- ⑬高野山真言宗 備中宗務支所
- ⑭高野山真言宗 山口宗務支所
- ⑮高野山真言宗 徳島宗務支所
- ⑯高野山真言宗 愛媛宗務支所
- ⑰高野山真言宗 高知宗務支所
- ⑱高野山真言宗 福岡宗務支所

- ⑭高野山真言宗 肥前宗務支所
- ⑮高野山真言宗 大分宗務支所
- ⑯高野山真言宗 熊本宗務支所
- ⑰高野山真言宗 宮崎宗務支所
- ⑱高野山真言宗 福島宗務支所

真言宗関連保育連盟 2件

- ①高野山真言宗保育連盟
- ① 公益社団法人日本仏教保育協会

地域団体 3件

- ① 株式会社乗馬クラブクレイン
- ② 大阪府森林組合南河内支店
- ③ 農事組合法人富田林市南地区共同組合

合計 41組織・団体

河内長野市教育委員会と高野山大学との連携協力に関する協定書

河内長野市教育委員会（以下「甲」という。）と高野山大学（以下「乙」という。）とは、教育等の分野において連携・協力するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、甲及び乙が、教育等の分野において連携、協力することにより、相互の発展・充実に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第2条 甲と乙は、前条の目的を実現するため、次に掲げる事項について連携、協力をするものとする。

- (1) 教員養成等の充実及び教員の資質向上に関すること
- (2) 教育・研究及び文化振興に関すること
- (3) 生涯学習の振興に関すること
- (4) 教育分野を通じた地域活性化に関すること
- (5) その他、両者で合意された事項

（連絡調整窓口）

第3条 前条に掲げる事項を円滑かつ効率的に進めるために、甲と乙はそれぞれ連絡調整窓口を設置し、協議を行うものとする。また、具体的な実施事項については甲乙合意の上決定するものとする。

（経費）

第4条 甲及び乙が連携協力を行う事業に要する経費は、原則として甲及び乙において各々応分に負担する。

（協定期間）

第5条 この協定の有効期間は協定締結の日から3年間とする。ただし、有効期間満了の日の3か月前までに、甲と乙のいずれかが書面をもって改廃の申し入れをしないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

（その他）

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携、協力に関して必要な事項については、甲と乙で協議し、決定するものとする。

2 この協定書に定める事項について疑義が生じたとき、又はこの協定書に定めのない事項については、甲及び乙で協議するものとする。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、署名捺印の上、各々1通を保有する。

令和2年3月2日

(甲)

大阪府河内長野市原町一丁目1番1号

河内長野市教育委員会

教育長

(乙)

和歌山県伊都郡高野町高野山385

高野山大学

学長

「小学校教員に必要な資質能力」に関するアンケート結果

高野山大学教育学科設置準備室

高野山大学は、小学校教員および幼稚園教諭の養成を目的とする教育学科を設置する計画を進めています。この新しい教育学科では、**教員にとって本当に必要な資質能力が何か**を考慮に入れて課程編成をしたいと考えています。そのため、教育現場で活躍しておられる先生方にアンケート協力をいただきました。課程編成のための貴重な資料として使わせていただきます。協力いただいた河内長野市教育委員会と河内長野市立小学校の先生方に感謝いたします。

アンケート結果

実施協力 河内長野市教育委員会
実施時期 2018年5月
実施対象 河内長野市立小学校教員
回答総数 183名

アンケートでは、(1)「小学校教員に必要な資質能力」と思われるものはなにか、(2)教育活動での悩みはなにか、の2点について、列挙した項目のうち3点を選択してもらった。アンケート結果は以下の通りである。

1. 「小学校教員に必要な資質能力」

(1) 全体の78.1%におよぶ教員が「児童の言葉をよく聴き、児童に寄り添うことのできる力」をもっとも大切な能力として選択した。44.3%が「相手に分かりやすく伝える力」を選択したことを合わせて、先生方が、児童生徒とのコミュニケーションの重要さや、相手に寄り添う心の大切さを重視していることが印象的である。

自由記述にも、「傾聴する姿勢」や、「保護者や子供に寄り添える力」、「納得するまで聞いて対応」すること、「親や地域の方との対話」、「教師間のコミュニケーション」まであげられていて、この能力の育成が重要であることが伝わってくる。

(2) 半分以上の先生方が、「教科をしっかりと教える」(56.3%)ことを重視している一方で、「情報活用能力」(4.9%)や「モノづくり、飼育栽培活動の指導力」(2.2%)などが意外に低かった。

(3) 「へこたれない、やり遂げる力」(20.8%)や、仲間と協力して進める力」(36.6%)、「学び続ける姿勢」(37.7%)などの資質的項目については、全体の2割から4割弱の先生方が選択しており、重要な人間的資質であると認識できる。

こうしたことから、教員養成カリキュラムでは、子ども理解を育むプログラムや、子どもを含む多様な人々とのコミュニケーション力を育むプログラムを用意することが重要である。

2. 「教育活動上の悩み」について

- (1) 最も多く選択された悩みは、「授業づくり」であり、約 64%の先生が選択した。教科をしっかりと教えることがいかに重視されているのかがわかるし、うまくいかないという場合も多いのだろうと想像できる。教材研究の時間がほとんど取れないという悩みもよく聞かすが、そうした教員の労働環境の改善も関わってくるであろう。
- (2) 「児童理解」(57.4%)や「保護者対応」(52.5%)が、半数を超えていて、「必要な資質能力」の回答とも対応している。子ども理解やコミュニケーション力の育成についてのプログラムや研修講座を用意することが必要である。
- (3) 「学級づくり」(34.4%)、「特別支援教育」(26.8%)で悩んでいる教員が、3割から2割に上っており、「他教員との協力」(18.6%)で悩んでいる教員が2割近くいることも、教育現場の複雑さや難しさを実感させる。こうしたことに対応できる力をいかに育むのか、プログラムの工夫が必要である。
- (4) 「地域との協働」(8.7%)で悩んでいる教員は1割以下と少ない。地域との協働がそれなりにうまく進んでいるのか、あるいは取り組み自体がすくないのか、別のデータで理解する必要がある。
- (5) 「学習評価」(12.0%)で悩む教員も意外に少ない。小学校の場合、評価基準が明確だという特性があるのかもしれない。

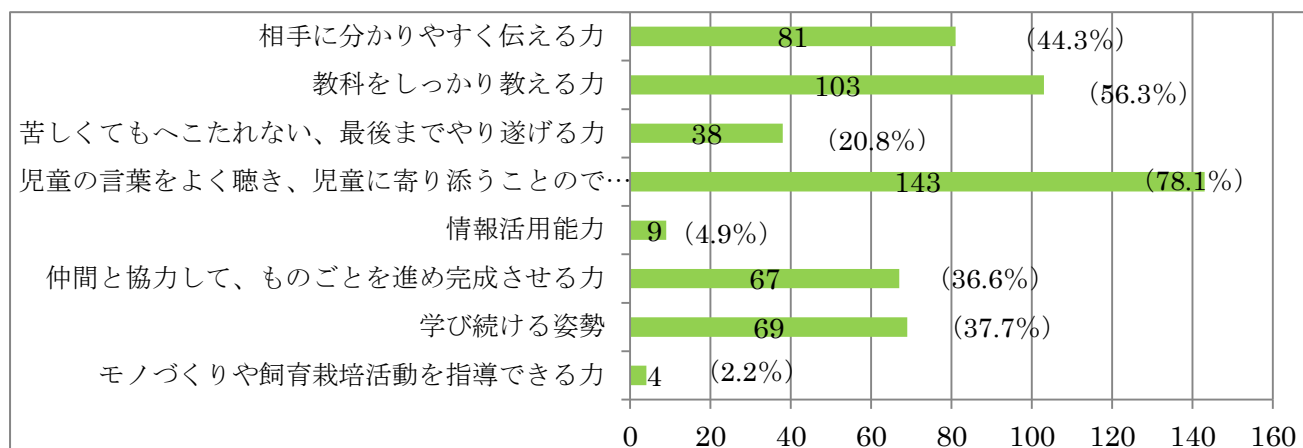
集計結果

1.	教員に必要な資質・能力	(人)	(%)
①	児童の言葉をよく聴き、児童に寄り添う	143	78.1
②	教科をしっかりと教える力	103	56.3
③	相手に分かりやすく伝える	81	44.3
④	学び続ける姿勢	69	37.7
⑤	仲間と協力してものごとを進める	67	36.6
⑥	苦しくてもへこたれず最後までやり遂げる	38	20.8
⑦	情報活用能力	9	4.9
⑧	ものづくりや飼育栽培活動の指導力	4	2.2
2.	教育活動上の悩み	(人)	(%)
①	授業づくり	117	63.9
②	児童理解	105	57.4
③	保護者対応	96	52.5
④	学級づくり	63	34.4
⑤	特別支援教育	49	26.8
⑥	他教員との協力	34	18.6
⑦	学習評価	22	12.0
⑧	地域との協働	16	8.7

《参考資料》

集計結果（データ）

(1) 「小学校教員に必要な資質能力」と思われるものは何ですか？ () 内は%



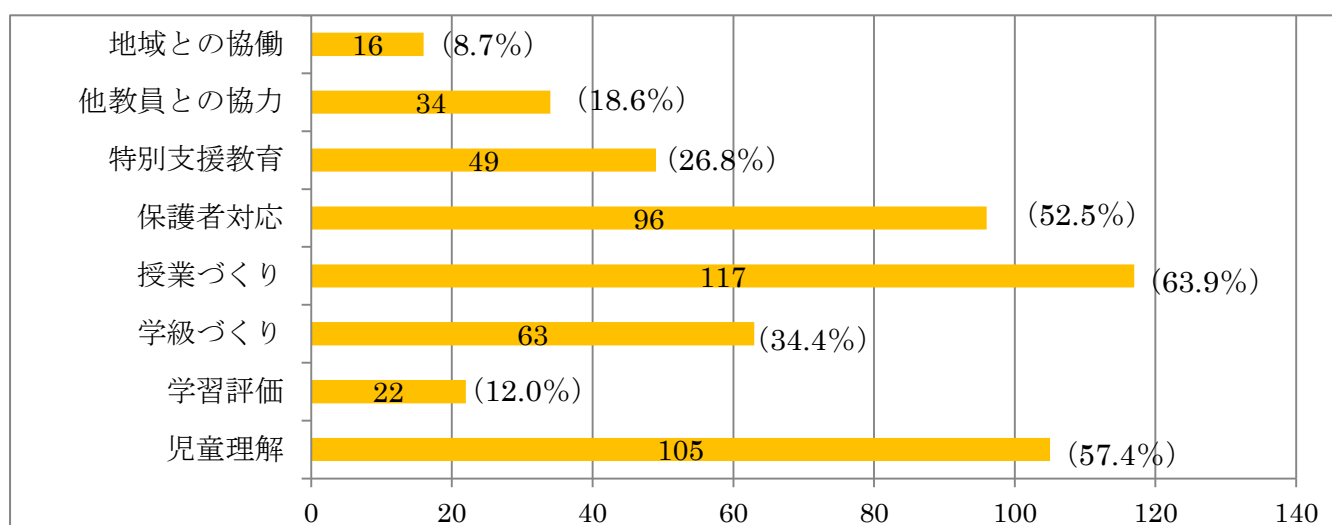
図一 1 小学校教員に必要な資質能力

その他必要だと思われるもの（自由記述）

- ・相手の話をしっかり聞く(傾聴)姿勢
- ・子どもや保護者の立場や気持ちを理解し、寄り添える力が必要だと思います。
- ・社会人としての資質・一般常識
- ・教員の資質能力とは「専門的職業である『教職』に対する愛着・誇り・一体感に支えられた知識・技能の総体」
- ・①地球・国家・人間等に関する適切な理解 ②豊かな人間性 ③国際社会で必要とされるなど文化省 HP に載っているものが資質能力であって、上記のものは「指導力」だと思うので少し違うと感じました。
- ・指導案を書くことに一年目すごく苦しみました。自分の思っていること、考えていることが文章にできなくて・・・
- ・ワード・エクセル・パワーポイントなどは使用する機会が多いので、ある程度は使えると良い。
- ・いつも元気で笑顔でいることが難しく重要なことと思いました。「仲間と協力」、「児童の言葉をよく聴く」も学び続ける姿勢に入るかなと考え〇にしました。
- ・大人として社会人としてのマナー・言葉遣い・文書表現
- ・学級開きに必要な準備について
- ・事務処理(出席簿・要録・保健関係について)
- ・子どもの話をしっかり聞いてあげる。
- ・納得するまで、子どもの話を聞いて対応していく事が大事だと感じている。
- ・「誰を持つか」も大切だが「誰と持つか」も大切 教師間の連携が取れないと子どもにも必ず影響がでると思います。
- ・上記の項目はどれも重要だと考えます。人権教育
- ・どれも必要 どれが欠けてもダメ
- ・子どもの心を育てる力
- ・学校以外のこと(人)とかかわること。先生以外の人と知り合うこと。

- ・臨機応変な判断力と行動力 コミュニケーション能力
- ・あと「苦しくても・・・」云々と合わせて「生きる力」「人間として」を挙げました。あとの部分もこれから生きる教師としてどれも欠かせないとは思いますが・・・。
- ・教師間のコミュニケーションがとれることと、適応能力が高いことも大切だと思う。
- ・自分の好きなもの(趣味・続けていること)がある人がいいです。
- ・親や地域の方と対話することが大切
- ・積極性と根気 やる気.
- ・自己肯定力

(2) 普段の教育活動での悩み



図一 2 教育活動上の悩み

その他 (自由記述)

- ・現場で驚くことがないように子どもの問題行動や保護者からクレームなどの具体例を学び、その対応なども知っておくと良いと思います。
- ・担任ではありませんが、担任の先生と授業のこと、子どもたちのことで一緒に悩めるのが幸せなことだなあと感じます。
- ・パソコン・タブレットを活用する力が必要(ワード・エクセル・パワーポイントはできるように)
- ・いろいろなタイプの子どもたちがいる中でひとりひとりにあった接し方を考えて自分が行動することで子どもとの信頼関係につながっていくと感じている。
- ・HR づくりと児童理解はつながりが強い。個々の児童理解があつての学級づくりだと思う。
- ・配慮を必要とする児童とともに成長する学級づくりをどうしていくかが課題になると思います。
- ・いろいろなことに悩みます。ひとつとして同じ悩みはありません。いろいろな悩みにぶちあたった時に、へこたれず頑張ろうと思う力が必要だと思います。
- ・全部悩みます。どれ一つでも不十分だといけないからです。
- ・指導案作成もそうですが、大学のうちに人前で考えた授業を行う機会が多々あれば実践力に結びついてくると思う。
- ・人権教育 保護者の思い 子どもの思い
- ・生活指導の対応
- ・立場によって異なってくると思います。私は音楽専科として答えました。悩みとはいかないが大切にしている事柄として・・・
- ・悩みはつきません。上記項目全部です。

高野山大学 地域体験実習先一覧			
1	町づくり	小山田小学校区まちづくり会	堀泰明会長
2	森林・木工・ 環境	大阪府森林組合南河内支店 (木根館)	堀切修平理事支店長
3	里山	NPO 法人森林ボランティアトモロス	堀泰明理事長
4	栽培	大阪府立花の文化園	上田憲次園長
5	栽培	公益財団法人河内長野市公園緑化協会	竹田義理事長
6	栽培・農業	和泉体験農園	飯阪保代表
7	栽培・農業	(農) 富田林市南地区協同組合 (富田林市農業公園サバーファーム)	中谷義治理事長
8	農業	NPO 法人里山ひだまりファーム	藪本源悟理事長
9	工芸	レザークラフト テハマナ	テハマナ社長 西本 剛
10	芸術	公益財団法人河内長野市文化振興財団 河内長野市立文化会館ラブリーホール	前田恭男館長
11	動物	株式会社 乗馬クラブクレイン	瀬理町芳隆 取締役指導部部长
12	果樹園	山口果樹園	園主 山口利幸

地域体験実習科目概要

授業科目として設定し地域体験を行う。

科目名

地域体験Ⅰ	: 1年生通年	必修科目	30時間	1単位
地域体験Ⅱ	: 1年生通年	必修科目	30時間	1単位
地域体験Ⅲ	: 2年生通年	必修科目	30時間	1単位
地域体験Ⅳ	: 2年生通年	必修科目	30時間	1単位
地域体験ボランティア	: 3年生通年	選択科目	30時間	1単位

体験日時

	実施日	
地域体験Ⅰ	体験先によって決定 (年度初めに公示する)	週1日×5日 10:00～16:00
地域体験Ⅱ		週1日×5日 10:00～16:00
地域体験Ⅲ		週1日×5日 10:00～16:00
地域体験Ⅳ		週1日×5日 10:00～16:00
地域体験ボランティア		週1日×5日 10:00～16:00

内容

- ① 農業・栽培体験（里山ひだまりファーム）
- ② 農業・栽培体験（サバーファーム）
- ③ 農業・栽培体験（和泉体験農園）
- ④ 農業・栽培体験（花の文化園）
- ⑤ 農業・栽培体験（公園緑化協会）
- ⑥ 森林・木工体験（森林組合南河内支店）
- ⑦ 地域活動体験（小山田小学校区まちづくり会）
- ⑧ 地域活動体験（森林ボランティアトモロス）
- ⑨ 文化活動体験（文化会館ラブリーホール）
- ⑩ 馬術体験（クレイン）
- ⑪ レザークラフト体験（工房テハマナ）
- ⑫ 果樹栽培体験（山口果樹園）

体験するまでの流れ

- 4月上旬 説明会・事前指導
 5月中旬 体験先決定
 6月初旬～ 体験開始
 8月初旬又は12月下旬 事後指導

体験のサポート

- ① 学生の希望を聞いたうえで体験先を決定する。
- ② 高野山大学内に設置の地域支援センターが体験先、学生との連絡調整を行う。センターにはセンター長1名、実習担当教員2名、専任事務員1名、マイスター2名が所属（予定）し、学生への指導、実習先との連携協力、体験先の巡回を行う。
- ③ 体験先と高野山大学で問題点などを洗い出し、適切な体験プログラムとしていくための検討を常に行う。
- ④ 参加する学生は「学生教育研究災害傷害保険（学生が教育研究活動中に被った災害に対して 必要な給付を行うもの）」に加えて「学研災付帯賠償責任保険（国内外において、学生が正課、学校行事、課外活動及びその往復で、他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合等により、法律上の損害賠償責任を負担することにより被る損害を補償するもの）」に加入する。

連携先実習の詳細

① 農業・栽培体験（里山ひだまりファーム）

《目的と達成目標》

農業は、国民の様々な食料のもととなる農産物を生産し、生産するための農地を維持・管理することで環境や国土を保全している。また生産から流通、加工、消費に至る経済活動にも大きな役割を果たしている。

現在の農業には課題解決のための先人の知恵と工夫の積み重ねがあり、中山間地域で農業を体験することはその一部を実感することができる。一方でこれからの農業にも、天候不順や病害虫、鳥獣被害、自然との共生、後継者不足や経営上の問題、農業集落の問題など、時代に応じた様々な自然や社会の課題が避けて通れない状況にある。

教育課程で子供たちに農業を学習・体験させることは、その過去と現状と将来に目を向けさせ、身近な課題から将来に向けた多岐にわたる課題解決のための機会を与えることに意義がある。その目的のためにも教育指導者自身の学習と体験が必要である。

本体験で、農業の現状把握とあわせて、世代を超えた地域との連携を深め、食料、動植物、自然環境、コミュニティ、防災、流通など、多岐にわたる分野について農業を通じた視点で学習し、教育課程における社会科のみならず、理科や家庭科、総合学習など、各科目の指導についても応用されることを目標とする。

《テーマ》

各農作業の中にも多くの苦勞、知恵と工夫がある。下記テーマを通じて、天候不順、病害虫や鳥獣対策など多岐にわたる課題とその解決策を学習する。

- 1 育てるから収穫、収穫から食料になるまで
- 2 育てるための維持管理作業と基盤整備事業
- 3 役割分担と共同作業
- 4 農業集落、里山生活の現状把握と情報収集
- 5 未解決課題の現状把握と情報収集

「なぜそうする？次の作業は？そうしたらどうなる？」の疑問をもってマイスターとのコミュニケーション力を養いながら体験に臨むことが、各テーマに共通する取り組み姿勢である。

《内容》

NPO 法人里山ひだまりファームの農業に関する運営や作業を学習・体験する。具体的には、年間を通じた稲作、小麦栽培、小学生への稲作体験のサポート、農地の基盤整備作業、農業集落・里山生活の現状と課題のヒアリングなど。

① 国民の主食を生産する稲作を学ぶ（1）

日本国民の主食である米の栽培を通じて、その課題解決の歴史と新たな課題を見出す。籾蒔きをはじめとする年間を通じた稲作作業を学習する。籾蒔きの準備～籾蒔き～育苗を行う。

② 国民の主食になりつつあるパン用の小麦の生産を学ぶ

パンの原材料となるパン用小麦の栽培を通じて、里山ひだまりファームが取り組んでいる加工から調理、消費に至るまでのプロジェクトを学習し、食に対する課題を見出す。コンバインによる小麦の収穫を補助する。

③ 国民の主食を生産する稲作を学ぶ（2）

日本国民の主食である米の栽培を通じて、その課題解決の歴史と新たな課題を見出す。高齢化、機械化の課題、役割分担や共同作業などを学習する。田植え準備～田植えを行う。

④ 稲作を体験する小学生の学習サポート（1）

小学生の田植え体験を指導・サポートする実習の中で教える立場の心構えを学習する。サポートを通じて、小学生の興味、好奇心、集中力、持続性、充実感を体感し、その理解力や行動力を知る。

⑤ 農地の維持管理の必要性を学ぶ

農地やその周辺の環境は地域の生活空間でもある。里山の風景や自然は昔からの農林業がつくりあげた日本の文化である。その中でも重要であり苦労のある草刈り作業を体験し、一連の作業の意義を学習する。

⑥ 稲作を体験する小学生の学習サポート（2）

小学生の稲刈り体験を指導・サポートする実習の中で、教える立場の心構えを学習する。現代の豊かな食生活の中で、食物に対する敬意を学習する。

⑦ 大阪産パン用小麦の普及促進を学ぶ

大阪産のパン用小麦の普及のために取り組んでいる現状と課題を学習する。小麦の種蒔きを行う。

⑧ 大阪産パン用小麦の普及促進と雑木の伐採作業を学ぶ

小麦栽培の風物詩、麦踏み体験しその必要性を理解する。

農閑期の作業のひとつとして農地周辺の雑木を伐採し、伐採木を再資源として活用することを学習する。資源の活用として、稲作における、わら、モミガラ等の活用も学習する。

② 農業・栽培体験（サバーファーム）

《目的と達成目標》

児童・生徒たちを、幸せな社会づくりに貢献できる人間として成長させることが、学校教育の大切な使命の一つである。野菜や花を育成し、栽培する活動は学校教育の重要な活動といえる。栽培活動が食育につながっていくことを甲子園球場約5個分の豊かな緑の中で学生たちに実体験させたい。

1. 農業の実際に触れ、その基礎的知識と技能を学ぶ。

2. 季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。

こうして農業に関する知識・技能を習得すると同時に、農作業を含むあらゆる体験的な学びを得ながら、また幅広い年代の多様な人々との交流を通じて、コミュニケーション力や非認知的能力を育む。これにより、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

《テーマ》

1 農業の実際に触れ、その基礎的知識と技能を学ぶ。

基礎づくりの大切さを学ぶ。野菜づくりにはまず土壌作りが重要である。また様々な野菜や花の栽培活動を通して、栽培方法の共通点や異なる点について学ぶ。

2 季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。

観察の重要性、個に応じた対応の大切さを学ぶ。人間の教育ばかりでなく植物においてもタイミング、環境、など十分観察した上で栽培活動を行うことが重要である。水やりのタイミング・株分けのタイミング、定植時期を苗の生育具合を見ながら適切に行うことを知る。

農作物には害虫が付きものであるが、消毒・駆除をしなければ商品価値が皆無となることを知るとともに、消費者に安全な品を提供する過程を学ぶ。

《内容》

農業と豊かな自然に親しむ機会を来訪者に提供し、都市と農村の交流を図り、農業の振興と地域の活性化に寄与する作業を四季に応じて体験学習する。

トマト・さつまいも・ピーマン・ししとう・いちご・大根・玉ねぎ・白菜の育成を中心に、四季に応じた野菜の栽培について、また、コスモス・葉牡丹の育成を中心に、四季に応じた花の栽培について、それぞれ育成しながら学んでいく。

① 野菜・花の定植の仕方・育成計画を学ぶ

中玉トマト定植、いちご管理、さつまいも定植・マルチ張り、ジニア定植、ピーマン定植、しし唐定植、ミニトマト定植

- ・作業の取り組みとその意義の徹底
- ・計画を立てることの大切さを知る。
- ・作業の手順の大切さを知る。
- ・工夫することの必要性を知る。
- ・生命の継続について知る。
- ・勤労の尊さと喜びを積極的に受け入れる姿勢の大切さを身につける

② 種まき・育成管理について学ぶ

いちご苗管理、いちご定植・管理、葉牡丹播種・ポット上げ、コスモス定植、ダイコン播種

- ・種まきから植え付けまでを通して事業展開の進め方、計画する力を身につける。
- ・植え付けた作物の育成管理を学ぶ。
- ・作業の手順の大切さを知る。
- ・工夫することの必要性を知る。
- ・生命の逞しさを作業することによって学ぶ。

③ 栽培の意義について考える

いちご定植・管理、いちご定植（露地）、玉ネギ定植、レタス定植、ピーマン播種、しし唐播種

- ・ 苗づくりを通して観察してきたものを定植することにより、成長の過程を見守り、適切なタイミングで作業をいれながら育てていくことの重要性を身につける。
- ・ さまざまな野菜の生育について学び、今まで育ててきた野菜作りとの共通点や違いを見出す。
- ・ 振り返りとまとめを行うことの大切さを身につける。

④ 収穫体験

白菜収穫、ダイコン収穫、いちご管理・いちご狩り案内

- ・ 収穫方法を知る。また収穫の喜びを知る。
- ・ 収穫物の利用の仕方によりまた違った大きな価値が生まれることを知る。
- ・ いちご狩りの案内をすることによりお客様とのコミュニケーション力を身につける。

⑤ 園内の清掃作業を通して環境について考える

園内清掃、いちご管理・いちご狩り案内

- ・ 園内の清掃作業をするなかで、勤労奉仕について学ぶ。
- ・ 成長の過程を見守り、適切なタイミングで作業をいれながら育てていくことの重要性を身につける。
- ・ いちご狩りの案内をすることによりお客様とのコミュニケーション力を身につける。

③ 農業・栽培体験（和泉体験農園）

《目的と達成目標》

児童・生徒たちを、幸せな社会づくりに貢献できる人間として成長させることが、学校教育の大切な使命の一つである。食育は、そうした使命を達成するために最も重要な学びである。農の営みを通して食育の大切さを学生たちに実感させることを目指す。

1. 農業の実際に触れ、その基礎的知識と技能を学ぶ。
2. 季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。

こうして農業に関する知識・技能を習得すると同時に、農作業を含むあらゆる体験的な学びを得ながら、また幅広い年代の多様な人々との交流を通じて、コミュニケーション力や非認知的能力を育む。これにより、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

《テーマ》

農業の実際に触れ、その基礎的知識・技能を学ぶと同時に、季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。また、農業体験を児童・生徒への教育に敷衍し、より深い学びへとつなげていく。

いちごの育成を通じて同じいちごでも品種により育て方が異なり栽培方法を間違えると大変になることを学ぶ。教育において、児童・生徒の特性を知ったうえで指導することの大切さに通ずる。同じ人間でも生まれながらそれぞれの特性がある。そのことを認知した指導の大切さを学ぶ。

いちごの育成で大切な作業として、一株毎に葉かき、摘花など生育の状態を見ながら的確に行わなければならない。そのタイミングを逸すると収穫量に直接影響する。農家の方々は生計に関わることなので日々真剣に観察し何をすべきかを判断して即作業にあたっている。同様に、児童・生徒に接するときどの時期にどのようなことを教え、指導するかをタイミング、環境、など十分観察した上で行うことが重要である。ただマニュアルのみで愛情のない指導は子供たちの成長を阻害する。教えるタイミング、対応の機敏さの大切さを学ぶ。また、個々の児童・生徒たちの成長にとって指導内容がうまく合っているかの研究は大切である。一人ひとりの指導のメニューを十分研究することの大切さを知る必要がある。

《内容》

いちご・さつまいも・ハロウィンかぼちゃを中心に育成を行う。

① 計画の大切さを学ぶ

さつまいも苗の植え付け、ハロウィンかぼちゃの植え付け

- ・作業の取り組みとその意義の徹底
- ・保存食の知恵について知る
- ・生命の継続、子孫の誕生など

② 継続、変更のタイミングの大切さを知る

いちごの苗の管理、さつまいも苗の育成・管理法、ハロウィンかぼちゃの育成・管理

- ・勤労の尊さと喜びを積極的に受け入れる姿勢の大切さを身につける
- ・生命の逞しさを猛暑の中で作業することによって学ぶ
- ・作業の手順の大切さ、工夫次第で苦も楽になることを知る

③ 本格的な展開時の心構えを学ぶ

いちごの本田への植え付け、さつまいもの収穫、ハロウィンかぼちゃ収穫

- ・植え付けからの事業展開(いちごを通じて)と収穫の喜びを知る
- ・事業展開の進め方による展望と計画する力をつける
- ・植え付けた作物収穫と保存について知る

④ 栽培の意義や喜びを子どもたちと共有し、イベント開催のコツを知る

ハロウィンイベント開催、ピザ釜を使つての調理、イチゴの管理

- ・子どもたちと接しながらイベントの歴史にふれる
 - ・地域の中におけるイベントとの関わりの持ち方と楽しみ方を身につける
 - ・何が大切かを選択して教える大切さを身につける
 - ・アウトドアでの楽しみ方を学ぶ。火の起こしかた、手近にあるものでの即興料理のつくりかたと衛生管理について
 - ・適当な間引きの大切さを知る
 - ・捨てることにより多くのものを得ることの学習
- ⑤ 振り返り：学んだことを見直し、向学心を高め、次の成功につなげることを学ぶ
- 収穫物の調理で収穫祭および反省会、さつまいもを使ってのスイートポテトづくり、いちごを使ってのいちごケーキ作り
- ・収穫物の利用の仕方により大きな価値が生まれることを知る

④ 農業・栽培体験（花の文化園）

《目的と達成目標》

大阪府立花の文化園は、花そのものの美しさだけでなく花に関係する様々な文化を学ぶ場であるとともに、工芸・園芸・調理設備を活用したイベントも豊富に実施しており、それらの体験を通じ花の様々な魅力を学び、同時に栽培知識と技能を習得、植物の知識と植物を観察する力を獲得、仕事の心構えを学ぶ。また、ボランティアスタッフの方々と協働で作業することを通じて、やり遂げる力、協力してものごとを完成させる力、コミュニケーション力などを身につける。以上により、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

《テーマ》

以下のテーマをもって植物の管理、ボランティア活動体験を行う。

1. 「花と人との関わり合い」を理解するため、植物に関する知識、観察力、接客の心構えについて、花と憩う・花に学ぶ・花と交流する、の3つを基本コンセプトとして学び培っていく。
2. 植物を愛するボランティアの方々との交流を通じて、理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を養い協力することの喜びを学ぶ。
3. 植物栽培の基礎知識を学び手入れを体験する。
4. 一見美しい花壇も除草との闘いの日々であることを、身をもって体験し学びを向上させる。

《内容》

花がら摘み、除草、灌水など植物の管理や植え付けなど様々な植物に関する作業。地域の人々との協働。

- ① 植物園の仕事について
 - 各エリアの案内と植物の紹介、植物園の役割の紹介
 - ・植物に関する知識、観察力、接客の心構えなど
- ② 植物の管理体験
 - 花壇の花がら摘み、クレマチスの花がら切り、バラの花がら切り、苗の植えかえ、寄せ植えづくり、野草の手入れ、除草など
 - ・栽培の基礎知識、やり遂げる体験
 - ・栽培の基礎知識・技能、園芸植物の基礎知識、やり遂げる体験
 - ・野生植物と生物多様性保全の基礎知識、
 - ・ガーデンデザインの基礎知識
- ③ ボランティア活動体験
 - 花の文化園の管理に携わるボランティアに参加
 - ・ボランティア活動への理解、コミュニケーション能力、協力しあう体験

⑤ 農業・栽培体験（公園緑化協会）

《目的と達成目標》

教職員になるにあたって、様々な分野の仕事を体験することは児童・生徒の指導において必ず糧になる。当協会の事業は樹木の剪定や看板の作成などの公園施設の管理や公園でのイベントの運営、公共施設に配付する花苗の育成など多岐に渡る。4月に春市、7～8月に噴水ライトアップ、10月にオータムマーケット、12月にイルミネーションのほか、夏休み子ども工作教室、フラワーアレンジメントの講習会など、年間を通じて様々な催し・イベントが開催される。これらイベントをはじめ様々な体験を通して学び、教員として児童・生徒を指導する糧とする。

《テーマ》

- ・協会事業の体験を通して、知識・技能を習得する。特に、イベント事業に携わることを通じて、計画の重要性を知り、プレゼンテーション能力を磨く。
実際に世の中で行われている多種多様な仕事を数多く経験しているほど、児童・生徒の指導に自信をもってあたることができる。公園緑化協会では、公園管理、緑化推進を行うにあたり、様々な仕事を体験することができる。
- ・創意工夫しながら、協力してチームワークでものごとを完成させる力を養う。また、多様な人との協働を通じて、世代を超えた連携を深め、「コミュニケーション力」を身に付ける。

《内容》

夏用、冬用花苗ポット上げ・植えつけ、アジサイの剪定、クリスマスイルミネーションのデザイン及び飾りつけ、公園看板の作成、イベント運営の企画・立案、プレゼンテーションなどを行う。

- ① 公園緑化協会における様々な仕事の知識・技能を学ぶ
夏用花苗ポット上げ、夏用花苗植えつけ、公園看板作成・設置、アジサイの剪定、冬用花苗のポット上げ
 - ・花苗ポット上げの方法
 - ・花苗植えつけの方法
 - ・アジサイの剪定方法
 - ・公園看板の作成方法
 - ・作業効率の良い役割分担
 - ・一度行った作業の確認
 - ・更に作業効率の向上
 - ・集中力の持続
- ② 公園緑化協会におけるイベントの運営を経験する
イルミネーションのデザインを考える、イルミネーションのデザイン案を発表する、イルミネーション設置、イルミネーション設置の振り返り・片付け
 - ・イルミネーションの基礎知識
 - ・イベントの企画力を身につける
 - ・作業手順を考える計画性を学ぶ
 - ・イベント内容、作業手順を伝えるプレゼン力を磨く
 - ・イベント作業を予定通りに行う実行力を身につける
 - ・イベント開催の内容を振り返り、次回のイベントをよりよくすることを学ぶ

⑥ 森林・木工体験（森林組合南河内支店）

《目的と達成目標》

森林の間伐から木材加工、木材の競り体験、木工品の製作に至る一連の過程を通じて、森と人間との関係性を学び、持続的な環境やエネルギー問題などへの関心を喚起しながら、伐採や木工製品製作での技能修得にいたる学習をプログラム化したもの。木材の競り市で、自分たちの企画した製品を作るための木材を競り落とす体験では、ホームセンターで加工済みの木材を購入することとは全く異なる体験を味わう。必要な木材の量と予算との検討が必要となり、計画的に考えなければ目的を達成できないし、大きな木材が驚くほど安い価格で競り落とせることも体験する。日本の木材産業の実情に触れることにもなる。そうして手に入れた木材で製品を設計し製作する活動を通して、デザイン力や木工技術を修得し、共同でものごとをなし遂げる体験を積むことになる。こうした取り組みを通じて、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

《テーマ》

1. 知識、体感力の涵養
 - ・森林資源の働き、森林と人々のつながりを知る。
 - ・森林資源を保全することの大切さを理解する。
 - ・河内林業の歴史と、現状を理解する。
 - ・河内林業の川上から川下までを体験し、おおさか河内材の流通を知る。
2. 技能の習得
 - ・河内林業の川上から川下の体験を通し、木材を加工する技術を身につける。
 - ・おおさか河内材の木工加工に必要な工具に対する基本的な技能を身につける。
3. 思考力、判断力、問題解決能力を養う
 - ・体験を通して、森林資源の働きについて考える。
 - ・森林資源を守り育てる人々の工夫や努力を思考する。
 - ・河内林業の従事する方々と接することで、その場における判断力を養う。
 - ・木工加工を通して、問題を解決するための能力を養う。
4. 表現力、共感力、チームビルディング力を身につける
 - ・森林資源の働きや森林資源を守る大切さや必要性について、チーム内で議論共有し表現する。
 - ・体験に主体的に取り組む態度、チームメンバーの特性を理解しながら物事をなし遂げていく。

《内容》

- 1) 森の恩恵
 - 水源林、滝畑ダム、岩湧の森を訪れ、森の多面的機能を体感する。
 - ・滝畑エリアの水源林と水源を視察し、滝畑ダムの役割と森林保全の関係を知る。
 - ・岩湧の森を訪れ、四季彩館で森に住む動植物の多様性を知る。
 - ・鎮守の森として地域に守られる森で森ヨガを体験し、効果を体験する。
- 2) 河内林業の川上から川下までを体験する。
 - 人工林、競り市、製材所を訪れ、河内林業に携わる人たちから直接学ぶ。
 - ・実際に人工林に入り、林業家からの指導を受け、間伐体験を行う。
 - ・間伐された木がどのように競り市で値段を決めるかを体験する。
 - ・競り市でおとされた木が製材になる様子を製材所で体感する。
- 3) おおさか河内材で木工製品をつくる
 - 二人一組ないしはチームで、おおさか河内材を使って木工製品を完成させる。
 - ・設計と必要な製材を割り出し、製材をオーダーする。
 - ・割り出した製材を加工する。
 - ・仕上げと完成品のプレゼンテーション

⑦ 地域活動体験（小山田小学校区まちづくり会）

《目的と達成目標》

小山田小学校区の自然環境や社会資源を知り、住民と交流することを通して、地域の実像を具体的に知り、その魅力や課題、地域活性化の方策を探り、住民と共に活性化のための活動を共に行うことを目指す。これらの活動を通して、連携しながらものごとを進めるチームワークの技量を高め、コミュニケーション力の醸成を図ると共に、目ざす教育像を醸成する。

- 1) 地域を知る
- 2) 地域の人々と交流する
- 3) 地域の課題を共に探る
- 4) 地域活性化の方策を考える
- 5) 方策を実行する

《テーマ》

1. 小山田小学校区まちづくり会の人々との交流を図り、自然や社会資源を知り、幅広い知識や情報を身につける。
2. 小山田小学校区の実情を理解し、地域の人々と共に地域の課題をさぐり、活性化の方策を検討する。
3. 地域を活性化するために必要なこと、配慮すべきことなどを理解し、町の人々と協力して活性化のプランを策定する。
4. まちの人々と協力して、活性化のプランを実行する。

《内容》

1. 「小山田小学校区街まちづくり会」の会員の方々と交流する。
2. 地域を詳しく知るために、地域の施設や周辺環境を訪問調査する。
 - ①あやたホール（地域公民館）
 - ・社会教育施設を訪ね、内容を知る（生涯教育の一例、現状を知る）
 - ・施設概要の見学、主催事業や講座種類を知る、人権について学ぶ
 - ②学校給食センター
 - ・清潔・安全に努めて児童・生徒に届ける給食ができるまでを知る
 - ・値段と栄養バランスの努力を知る
 - ③寺が池公園管理事務所
 - ・小山田小学校区の特徴、人口分布や住宅街の形成過程、課題を知る
 - ・住民の生活の工夫を知る、自然災害の対策を考える
 - ④寺が池
 - ・「寺が池」の造成と先人の工夫や苦勞、現在の人々への貢献を学ぶ
 - ・児童の教材となっていることを知る
 - ⑤障がい者作業施設「聖徳園」
 - ・施設の間取りや作業施設を知る
 - ・施設職員と作業員との関係を知る
3. 街づくり会の会員と交流し、地域の課題や住民の要望などを探り、活性化の方策を考える。
4. 学生が参加して地域活性化に成功した南花台地区を訪問し、関わった人々からまちづくりについて聞き取りを行い、活動の方向や方法などを検討する。
5. 活性化のプランをまちの人々と協力して実行する。

⑧ 地域活動体験（森林ボランティアトモロス）

《目的と達成目標》

持続的に森林を良い環境で保全することが人類にとって非常に大切なことを理解して、学校で次世代にしっかり教育出来る技術を習得する。また、良い森林環境を持続するためには、手入れの継続が大切なことを自らが理論と実習でしっかり身につけて、体験に基づいた生きた教育が出来る知識、技術を習得する。

森林や自然環境を守り育てる活動を体験し、その大切さを理解すると同時に、ボランティア活動に必要とされる次のような要素を身につける。

- ①他人から強制されるものではなく、自由意志で行う「自主性（主体性）」
- ②誰もがいきいきと暮らしていけるように、お互いを支えあう「社会性」
- ③人との出会いによって、お金では得られない発見や感動、喜びを得る「無償性」
- ④社会に必要とされる姿を常に考え、先んじて創る「先駆性」

《テーマ》

- ①林業、森林保全の現状と、森林ボランティアの必要性と取り組みを学ぶ。
- ②森林の仕組みと機能、森林を取り巻く自然環境、生物多様性について学ぶ。
- ③森林の育成と保全（人工林・里山林）について学び、その技術と安全について体験学習する。
- ④森林に関わるSDGsと学校教育における森林ESDの推進についての理解と小学校森林教育体験。
- ⑤現在社会におけるボランティア活動（テーマ型）の概要と理解。

《内容》

- ① 森林の仕組みと働きについて
森林における菌類か植物、上位動物に至る食物連鎖、生物の多様性、CO2、酸素の循環、水の循環、森林の土壌、などに関わる森林のしくみと働きについて学び、森の大切さを教える資質を備える。
- ② 現代社会におけるボランティア活動とその必要性
林業の低迷、里山林の活用がなくなったことから来る放置森林の増加と森林ボランティアの発生について理解する。
経済（営利目的）の活動、行政に関わる活動のほかに、非営利活動、ボランティア活動もこれらを補完する社会活動の要素となっていることを理解する。
- ③ SDGsと森林ESD、森林教育について
SDGs 推進に大きくかかわる森林について学ぶ。よい森林環境を持続させるために、学校における森林教育の大切さと新しい森林ESDについて理解する。
実際の小学生に対する森林ESDの実践体験を行う。
- ④ 作業の安全研修
森林作業の実習に備えて危険回避と安全に対する対応方法を学ぶ。
- ⑤ 人工林（スギ、ヒノキ）見学実習と作業実習
校内林または上原環境緑地での里山林の施業実習。
- ⑥ 里山林、雑木林の見学と作業実習
校内林または上原環境緑地での里山林の施業実習。
- ⑦ 竹林整備の作業実習
校内林または上原環境緑地での里山林の施業実習。

⑨ 文化活動体験（文化会館ラブリーホール）

《目的と達成目標》

地域における文化芸術発信の拠点となる文化会館の在り方、また文化振興事業及び生涯学習事業を通して市民相互交流の促進を図り、市の文化振興計画の基本理念である「市民が文化を身近に感じ、いきいきと心豊かに暮らすまち」をどのように形成していくかを考える。

また日々の維持管理などにも目を向け、ホール管理業務にも参加しながら、安全面や利便性など利用者にとっての快適な環境づくりとは何かを考え、実現できるようスタッフと協力して目指す。

《テーマ》

1. 接客業務

ホール来館者または利用者に対する接客業務を通じて、社会に出てから必要となる言葉や知識を身につける。

2. 事業運営補助業務

主催事業の事前準備や当日の接客業務から撤去作業までを行い、ホールを気持ちよく利用してもらおうおもてなしの心を学ぶ。

3. イルミネーション事業の企画及び制作業務

河内長野市の冬の風物詩となったクリスマスイベントのイルミネーション企画と制作に参画し、地域活性化につながる事業の在り方を学ぶ。

《内容》

1. 接客業務

接客業務では、ホール来場者への座席案内やチケットの窓口受付など入場に対する接客サービスを中心に業務を行う。

2. 事業運営の補助業務

事業を実施していく中で必要なこととして、ホールで実施されるオペラやコンサート、映画鑑賞会等はじめ市民のための文化・芸術の催しにかかる本番舞台の準備、出演者控室の準備、客席やロビー受付の準備からお客様が帰られた後の撤去作業など数多くの業務がある。それら作業を通して、働くスタッフとのコミュニケーションの大切さについても学びながら取り組む。

3. イルミネーション事業の企画及び制作業務

12月から一ヶ月間点灯するクリスマスイルミネーションの企画段階から参加し、地域で喜ばれる事業の在り方を考え、地域活性化につながる事業展開に取り組む。イルミネーション点灯最終日にはクリスマスコンサートも開催される地域の大切なイベントである。また事業開催に必要な経費の寄附金依頼など地域ネットワークの大切さを学び、人のつながりを生む、地域が輝く事業展開を目指して取り組む。

⑩ 馬術体験（クレイン）

《目的と達成目標》

乗馬クラブクレインは、経済的・物質的な価値だけでなく、人間としての真の貴さに価値を置き、人の心に満足を与えるものが何であるかを伝え、理想とする目標に対し、可能性を信じ、挫折することなく自らの世界を切り開く努力をすること、また自己本位の満足だけでなく、他の人々、全ての生物をも自己と同じように考えられる心を持つことをモットーとされている。このことは教育者を目指す者の心のあり方にも相通じる。

このような考えのもと、連携プログラムは、馬の世話、厩舎の清掃などの作業から乗馬が可能になるまで30時間のプログラムになっている。馬のような大型動物との触れ合いは、ホースセラピーなどで知られるように、高い教育効果を持ち、子どもたちの生命観に大きな影響を与えて、生命の大切さを強く実感すると報告されている。しかも馬のような大型哺乳動物では、動物の気持ちに寄り添って初めて適切な飼育が可能になり、そうしなければ危険を伴うことにもなる。その一方で、馬の気持ちに寄り添って関わることができれば、まるで心の交流のような素晴らしい体験ができる。

こうして馬術に関する知識・技能を習得すると同時に、馬という動物との触れ合いを通じて、その体験的な学びを得ながら、非認知的能力を育む。これにより、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

《テーマ》

- ①人と馬との関わりの歴史を学び、馬という動物が持つ能力を、馬に実際に触れ、世話をすることによる体験で学んでいく。
 - ②健康スポーツとしての乗馬や競技スポーツとしての馬術などを動画で学び、ここでは「主役は馬」であることをテーマにした動物学を学ぶ。
 - ③ポニー等を相手にした実習を通じて心の通い合いを学ぶ。
- 以上を基に、教育者を目指す学生が、生きた教材を通じて「心の通い」を学ぶ。

《内容》

- ①馬について、人と馬との関わりの歴史を学ぶ。
 - ・馬の起源、人類とのかかわりの歴史
 - ・現代の馬の役割、乗馬と他のスポーツとの違いなど
- ②馬という動物の特徴を学ぶ。
 - ・馬という動物がもつ能力
 - ・人が馬に接する際の諸注意
- ③馬に実際に触って学ぶ。
 - ・馬の身体構造、五感、馬のパワーなど
 - ・これから馬に接する際の諸注意
- ④馬の世話を通じて学ぶ。
 - ・馬の1日を学ぶ
 - ・馬のグルーミング体験
- ⑤現在の馬の役割について学ぶ。
 - ・健康スポーツとしての乗馬
 - ・競技スポーツとしての馬術など
- ⑥馬具の理解と実際の装着。
 - ・鞍と頭絡の説明・理解
 - ・馬具の装着、常歩での騎乗、騎乗後の馬と道具の手入れ
- ⑦ポニーを使用した実習。
 - ・ポニー飼育上の諸注意

- ・ポニーの世話、馬具の装着、ポニーを運動させる

⑧総仕上げとしての騎乗と調馬策

- ・調馬策での騎乗練習
- ・調馬策で馬を走らせる

⑪ レザークラフト体験（工房テハマナ）

《目的と達成目標》

河内長野でヌメ革を使用した革製品を制作する工房において、マイスターの指導のもと、スタッフとの協業を通じて、製品づくりの工程を経験し、品質管理や販売、商品として消費者に届ける一連の過程を学ぶ。

- ・革細工の世界に触れて、工芸の意味や意義を理解する。
- ・職人の世界に身を置き、高い専門性や製品の完成度に対する責任感や誇りといった仕事への姿勢に触れ、また協業を通じたやり取りの中でコミュニケーション力を養う。
- ・地域に根づき地域の良さを活かした製品をつくる工房において、地域の魅力や特徴を知る。こうした体験的な学びを通じ、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

《テーマ》

- ・革細工工房における製品づくりに関する知識・技能の習得
- ・工芸の意味・意義に関する理解
- ・表現力、創意工夫を経験し、身につける
- ・職人の世界に触れ、仕事への姿勢を理解する
- ・スタッフとの協業を通じたコミュニケーション力を身につける
- ・地域の魅力や特徴を知る

《内容》

- 1) 工芸の意味と職人の世界を理解する
- 2) 皮革の歴史、皮と革、革の種類を理解する
- 3) 道具の種類と特徴：簡単な製品をつくる
- 4) 基本テクニック：少し高度な技能を学び修得する
- 5) モノづくりの楽しさ：自分でデザインし、技能に基づく創意工夫の喜びを知る
- 6) 地域を知る：工房をとりまく地域の関係先、関係者とのインターフェイス

⑫ 果樹栽培体験（山口果樹園）

《目的と達成目標》

児童・生徒たちを、幸せな社会づくりに貢献できる人間として成長させることが、学校教育の大切な使命の一つである。食育は、そうした使命を達成するために最も重要な学びである。農の営みを通して食育の大切さを学生たちに実感させることを目指す。

果樹園では、柿の栽培を行う。柿の栽培過程を体験することを通じて、果樹栽培の楽しさと難しさを体験し、教育における栽培活動に対する知識・技能を獲得する。

1. 農業の実際に触れ、その基礎的知識と技能を学ぶ。
2. 季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。

こうして農業に関する知識・技能を習得すると同時に、農作業を含むあらゆる体験的な学びを得ながら、また幅広い年代の多様な人々との交流を通じて、コミュニケーション力や非認知的能力を育む。これにより、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

《テーマ》

農業の実際に触れ、その基礎的知識・技能を学ぶと同時に、季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。また、農業体験を児童・生徒への教育に敷衍し、より深い学びへとつなげていく。

果物（柿）の育成を通じて同じ果物でも品種により育て方が異なり栽培方法を間違えると大変になることを学ぶ。教育において、児童・生徒の特性を知ったうえで指導することの大切さに通ずる。同じ人間でも生まれながらそれぞれの特性がある。そのことを認知した指導の大切さを学ぶ。

果物（柿）を商品として出荷するまでの過程、消費者に安全で価値ある商品として提供するまでの過程を学ぶ。

以上を通じて、マイスターとのコミュニケーション力を養いながら体験に臨む。

《内容》

植え付け、施肥、剪定、摘蕾・摘果など一連の果樹栽培過程を経験する。

剪定は果樹栽培で最も重要かつ経験が必要で、プロの栽培においても答えが出ない難しい作業であり、それゆえに奥深く面白い作業となる。

収穫した果物（柿）は、ジュースやジャムなどの加工製品としても流通する。加工にまつわる工程やマーケティングの側面を理解していく。

マイスターに学び、創意工夫と果樹栽培に関する知識・技能の重要性を体感する。肥料が多すぎないか、木が若すぎないか、日照不足や干ばつへの対応、病害虫駆除など栽培上の注意事項にも配慮する。

「高野山大学特任マイスター」制度および規程について

高野山大学教育学科設置準備室

高野山大学は、小学校および幼稚園の教員養成を目指す教育学科を、大阪千代田短期大学キャンパス内に設置する計画（2021年予定）を進めています。そこでは、教育現場で本当に活躍できる資質能力を育成するために、教育委員会や地域の様々な団体、施設、個人と連携して、多様な体験学習プログラムを用意する予定です。

地域には、様々な分野で活動してこられた優秀な人材がたくさんおられます。こうした方々の知識や技能、経験の蓄積を学生たちのためにぜひ活用していただくため、「高野山大学特任マイスター」制度を設置することにいたしました。

1. 「高野山大学特任マイスター」（以下マイスターと略称する）とは

高野山大学が地域の方々の能力を認定し、能力に対応した学習プログラムにおいて、大学教員とともに学生たちの教育活動に寄与していただくTA（ティーチングアシスタント、教育助手）制度の一種。支援活動には一定額の手当を支給します。

2. 「高野山大学特任マイスター」の認定

マイスター認定は、以下のいずれかによります。

- (1) 募集に応募して大学の審査を受ける
- (2) 河内長野市教育委員会の推薦による
- (3) 連携機関からの推薦による
- (4) その他

3. 認定審査

上記いずれの場合も以下の文書を提出していただき、面接の上で認定されます。

- (1) 履歴書
- (2) これまでの活動概略を記した文書
- (3) マイスターとしての抱負

4. 活動内容

- (1) 教育学科の学習プログラムに関わり、活動支援を行う。
- (2) 学習プログラムの企画、改善等について教職員と検討する

5. 手当

高野山大学の非常勤教員の規定に準拠する。

高野山大学特任マイスター規程

高野山大学教育学科設置準備室

(設置)

第1条 高野山大学文学部教育学科に高野山大学特任マイスター(以下、特任マイスターとする)制度を設置する。

(目的)

第2条 地域人材の活用及び熟練者に対する社会的評価を高めるとともに、学校や事業所等で技能の普及振興のための活動を行っていただくことで、技能が尊重される社会の実現と質の高い後継者の育成を目指す。

(構成)

第3条 特任マイスター認定は、1年間10名～20名までとする。

(認定基準)

第4条 次の基準を満たす者。

- ・河内長野市教育委員会の推薦があること、または、連携協定を締結している諸団体の推薦があること
- ・当該職種において15年以上の実務経験があること
- ・教育者としての見識と自覚ならびに学生の教育・指導に対する意欲を有し、本学教職員との協働による活動が見込まれること

(認定手続)

第5条 次の書類を提出し、面接を受けること。

履歴書

活動概略を示した文書

特任マイスターとしての抱負

(認定)

第6条 認定基準、認定手続に従い、教育学科教授会を経て、学長が決定する。

(任期および契約)

第7条 認定された特任マイスターの任期は2年とし、契約は学校法人高野山学園との間で単年度ごとに締結する。

- 2 特任マイスターは再任を妨げない。なお、マイスターの任期中の退任については、当該マイスターの残任期間とする。

(職務)

第8条 特任マイスターは、教育学科長の求めに応じ、同教育課程のうち、「学校・保育現場体験」及び「地域体験」のTA指導者として、学習プログラムの企画・改善、学生への指導およびアドバイ

スを行う。

- 2 特任マイスターの中で職歴や経験によっては、本学教職支援センターや地域支援センターにおける指導およびアドバイスについても業務を委嘱することがある。

(附則)

この規程は、令和 3 年(2021)4 月より適用する。

地域体験受け入れ団体と高野山大学文学部教育学科との申し合わせ事項

(目的)

第1条 この申し合わせ事項は、高野山大学における授業科目「地域体験」の企画、運営、支援について、高野山大学と各団体双方が協力して、学生が地域の活動やイベントへの積極的な参加を促し、地域住民との触れ合いの中でコミュニケーション力や地域の課題等を体験し、教員としての非認知的能力を養うことを目的とする。

(役割)

第2条 各団体と高野山大学の役割については以下のとおりとする。

活動の企画立案

活動の運営

活動を実施する学生へのサポート

(契約)

第3条 各団体と高野山大学は以下の事項について、契約書を締結する。

個人情報の管理について

活動内容について

費用について

保険加入について

ただし、マイスター個人とは別途契約する。

(活動の評価)

第4条 学生の活動評価については、連携団体先の評価を踏まえて、授業科目担当者が評価する。

(その他)

第5条 この申し合わせ事項に定めるもののほか、必要な事項は、双方協議の上、運用する。

(附則)

この申し合わせ事項は、令和3年(2021)4月より適用する。

教育課程概念図

科目区分		DP	教育目標	1年	2年	3年	4年	
				教職への学び	教師・保育士への学びⅠ	教師・保育士への学びⅡ	教師・保育士への学びⅢ	
専門科目	課題探求科目	文1	2	(基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	基礎ゼミⅢ	基礎ゼミⅣ	卒業研究
	体験的科目	教育実習科目	1	3	専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ			
		体験実習科目	1	3	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ			
					教育実習の研究 教育実習の研究Ⅱ 教育実習の研究Ⅲ			
	理論的科目	体験サポート科目	2	4	学校・保育現場体験Ⅰ 学校・保育現場体験Ⅱ 学校・保育現場ボランティア			
					学校・保育現場体験Ⅲ 学校・保育現場ボランティア			
		小・幼・保 教職関連科目	1	3	学校・保育現場体験Ⅳ			
					学校・保育現場体験Ⅴ			
	心理学科目	1(3) 2(1)	7	地域体験Ⅰ～Ⅳ				
	基礎科目	教養科目	文1 文2	1 5 6	地域体験Ⅰ～Ⅳ			
外国語コミュニケーション学科目		1(1)	5	地域体験Ⅰ～Ⅳ				
キャリア科目		1	3	地域体験Ⅰ～Ⅳ				
基礎ゼミ		1	2	地域体験Ⅰ～Ⅳ				
建学の精神科目		1	1	地域体験Ⅰ～Ⅳ				

教育目標

1. 広い学問教養と新しい時代の教育知識を持つ
2. 課題探求力を培い、予測困難な「時代」に対応できる力を養う
3. 教職理解を高め、教育への意欲と愛情の養成、教育実践力の育成
4. 教職の学びに加えて、多様な体験学習による人間力の育成
5. WEBを利用した英語力の育成と、海外での教育事情視察による国際的視野の獲得
6. 環境や地域貢献などに関する知識と広い視野、地域の各種団体との連携活動による実践的知識・技能や集団での行動力の獲得
7. 心理ケアへの理解を深め、ケアに関わる知識や能力の育成

- DP 文学部1 総合的に問題を解決し新たな価値の創造につなげていく能力
 文学部2 人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力
 教育学科基礎 初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力
- 1 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力
 - 1(1) 授業構成力、教材開発力、HM
 - 1(2) コミュニケーション能力、協働する力、あきらめない心、レジリエンス
 - 1(3) カウンセリング・マインド、心理ケアに関する知識・能力
 - 2 地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力
 - 2(1) ケアの心で人々を支援できる知識・能力
 - 2(2) 地域活性化に貢献できる知識・能力

科目区分	授業科目の名称	履修年	(空白選択)	初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力	教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力			地域の安心安全に貢献しうる人間力	
					授業構成員、教材開発力を身に付け、学習活動に適切に運営できる	子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働して物事を完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する	子どもたちの悩みを受け止め、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する	地域社会及び生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。	地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習Ⅲ(幼2)	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習Ⅱ(保育所)	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習Ⅲ(福祉施設)	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習研究Ⅲ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習指導Ⅱ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習指導Ⅲ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		教職実践演習(幼・小)	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		保育実践演習	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		専門演習Ⅰ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		専門演習Ⅱ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		卒業研究	4	◎	◎	◎	◎	◎
4年生									
基礎科目	外国語コミュニケーション科目		English CommunicationⅢ	3	◎	◎			
基礎科目	キャリア科目		キャリアデザインⅢ	3	◎				
基礎科目	教養科目		生涯学習論	3	◎	◎			◎
基礎科目	教養科目		平和教育	3	◎	◎			◎
基礎科目	教養科目		人権と社会	3	◎	◎		◎	◎
基礎科目	教養科目		死生観	3	◎			◎	
基礎科目	教養科目		常用経典	3				◎	
基礎科目	教養科目		声明	3				◎	
基礎科目	教養科目		法式	3				◎	
基礎科目	教養科目		布教	3				◎	
専門科目	理論的科目	教職専門科目	保育教育課程論	3	◎	◎			◎
専門科目	理論的科目	教職専門科目	総合的な時間の指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	教職専門科目	特別活動の指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	教職専門科目	教育方法論	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	教職専門科目	教師力養成特講Ⅰ(HRマゼン)	3	◎	◎	◎		
専門科目	理論的科目	教職専門科目	教師力特講Ⅱ(学校理解)	3	◎	◎			◎
専門科目	理論的科目	教職専門科目	教職とICT	3	◎	◎			◎
専門科目	理論的科目	小学校教諭関連科目	算数科指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	小学校教諭関連科目	生活科指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	小学校教諭関連科目	図工科指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	小学校教諭関連科目	体育科指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(健康)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(人間関係)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(環境)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(言葉)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(造形表現)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(音楽表現)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	子ども家庭支援論	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	社会的養護Ⅰ	3	◎	◎		◎	
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	子どもの食と栄養	3	◎	◎		◎	
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	社会的養護Ⅱ	3	◎	◎		◎	
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	子育て支援	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	理論的科目	心理関連科目	心理身体論Ⅰ	3	◎	◎	◎	◎	
専門科目	理論的科目	心理関連科目	心理身体論Ⅱ	3	◎	◎	◎	◎	
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習Ⅰ(小)	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習Ⅱ(幼1)	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習Ⅰ(保育所)	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習Ⅰ(福祉施設)	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習研究Ⅰ	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習研究Ⅱ	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習指導Ⅰ	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習指導Ⅱ	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	体験実習科目	学校・保育現場体験ボランティア	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	体験実習科目	地域体験ボランティア	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		専門基礎演習Ⅰ	3	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		専門基礎演習Ⅱ	3	◎	◎	◎	◎	◎
3年生									

学校・保育現場体験プログラム概要

授業科目として設定し、小学校・幼稚園・保育所等で現場の体験を行う。

科目名

学校・保育現場体験Ⅰ： 1年生通年 必修科目 60時間

学校・保育現場体験Ⅱ： 2年生通年 必修科目 60時間

学校・保育現場ボランティア： 3・4年生通年 選択科目 30時間

体験日時・内容

科目名	日時	内容
学校・保育現場体験Ⅰ	週1日火曜日×8日 8:20～16:30	A
学校・保育現場体験Ⅱ	週1日火曜日×8日 8:20～16:30	A
学校・保育現場ボランティア	週1日火曜日×4日 8:20～16:30	A・B・C

内容詳細

A	① 小学校・幼稚園・保育所業務全般（児童・幼児の個人情報に関する事、成績に関する事、会議等には参加不可） ② 授業・保育の見学・行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助 ③ 校外学習は参加不可（学校・保育所から徒歩で移動する校区探検・社会体験・社会見学などには参加可） ④ 授業における児童・幼児への学習指導補助 ⑤ その他、この体験の目的に即した活動であり、学校長・園長が認めるもの
B	⑥ 放課後子ども教室
C	⑦ 駅前子ども教室の企画・運営（12月実施分）

※ 放課後子ども教室・駅前子ども教室については大学の教員が責任をもって事前事後指導を行い、参加中も教職員もしくはマイスターが学生の指導・監督を行う。

体験するまでの流れ

4月下旬 説明会・事前指導

5月中旬 体験先決定（河内長野市教育委員会・私立幼稚園・私立保育所と高野山大学で協議）

6月中旬～ 体験開始

11月上旬～ 事後指導

体験のサポート

- 河内長野市教育委員会・私立幼稚園・私立保育所と高野山大学の合同会議で体験先を決定する。
- 高野山大学内に設置の教職支援センターが体験先、学生との連絡調整を行う。センターには学科主任1名、実習担当教員2名、助手2名と専任事務員2名、マイスター5名が所属（予定）し、学生への指導、実習先との連携協力、体験先の巡回を行う。
- 河内長野市教育委員会・私立幼稚園・私立保育所と高野山大学の合同会議で問題点などを洗い出し、適切な体験プログラムとしていくための改善を行う。

- ④ 参加する学生は「学生教育研究災害傷害保険（学生が教育研究活動中に被った災害に対して 必要な給付を行うもの）」に加えて「学研災付帯賠償責任保険（国内外において、学生が正課、学校行事、課外活動及びその往復で、他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合等により、法律上の損害賠償責任を負担することにより被る損害を補償するもの）」に加入する。

高野山大学文学部教育学科 履修モデル 【児童教育コース/小一種免許取得】

	1年次				2年次				3年次				4年次				
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	
基礎科目	建学の精神科目	空海思想入門	2														
	基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	基礎ゼミⅣ	2								
	外国語コミュニケーション科目	English communication I		English communication I	2	English communication II		English communication II	2								
	キャリア科目			キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2										
	教養科目	ほとけの世界	2	体育の理論と実技	2					生涯学習論	2						
		日本国憲法	2	情報と教育	2					平和教育	2	人権と社会	2				
理論的科目	教職専門科目			教育原理	2	教育心理学	2	教育と社会	2	特別活動の指導法	2	総合的な学習の時間の指導法	2				
				教職入門	2	特別支援教育	2	教育課程論	2	教育方法論	2	教職とICT	2				
						教育相談	2	道徳教育の理論と方法	2	教師力養成特講Ⅱ(学校理解)	2						
								生徒指導論	2								
								進路指導・キャリア教育	2								
	小学校教諭関係科目	国語科内容論	2	社会科内容論	2	図画工作科内容論	2	算数科内容論	2								
		理科内容論	2	家庭科内容論	2	体育科内容論	2	生活科内容論	2								
		音楽科内容論	2	音楽Ⅰ(表現技法)	1			音楽Ⅱ(表現技法)	1								
		初等英語科内容論	2														
						国語科指導法	2	家庭科指導法	2	生活科指導法	2	算数科指導法	2				
						社会科指導法	2	初等英語科指導法	2	図画工作科指導法	2						
	幼稚園教諭関係科目																
	保育士関係科目																
心理学関係科目																	
体験サポート科目	地域体験基礎	2	科学技術と社会	2													
			書学入門(書道)	2													
体験的科目	教育実習科目								教育実習Ⅰ(小)	4	教育実習Ⅰ(小)	4					
									教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	1	教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	1					
	体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅱ	2	学校・保育現場体験Ⅱ	2	学校・保育現場ボランティア	1	学校・保育現場ボランティア	1				
		地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅲ	1	地域体験Ⅲ	1								
	地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅳ	1	地域体験Ⅳ	1									
課題探求科目									専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2	専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2	
														卒業研究	8		
														教職実践演習(幼・小)	2		

小計 18

小計 27

小計 22

小計 27

小計 18

小計 16

小計 2

小計 12

合計 142

… 卒業必修科目

高野山大学文学部教育学科 履修モデル 【幼児教育コース/幼一種免許・保育士資格取得】

		1年次				2年次				3年次				4年次				
		前期	単位 数	後期	単位 数	前期	単位 数	後期	単位 数	前期	単位 数	後期	単位 数	前期	単位 数	後期	単位 数	
基礎科目	建学の精神科目	空海思想入門	2															
	基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	基礎ゼミⅣ	2									
	外国語コミュニケーション科目	English communication I		English communication I	2	English communication II		English communication II	2									
	キャリア科目			キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2											
	教養科目	ほとけの世界	2	体育の理論と実技	2					生涯学習論	2							
理論的科目	教職専門科目			教育原理	2	教育心理学	2	教育と社会	2	教育方法論	2							
				教職入門	2	特別支援教育	2			保育教育課程論	2							
				幼児理解方法論	2	教育相談	2											
	小学校教諭関係科目																	
		幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	2	幼児と人間関係	2	幼児と環境	2			保育内容の指導法(健康)	2	保育内容の指導法(環境)	2				
							幼児と言葉	2			保育内容の指導法(人間関係)	2	保育内容の指導法(音楽表現)	2				
						幼児と表現	2			保育内容の指導法(言葉)	2							
	保育士関係科目										保育内容の指導法(造形表現)	2						
			社会福祉論	2	障害児保育	2	保育内容総論	2	保育原理	2	社会的養護Ⅰ	2	子ども家庭支援論	2				
			保育者論	2			乳児保育Ⅰ	2	子ども家庭福祉	2	社会的養護Ⅱ	2	子どもの食と栄養	2				
		子どもの保健	2					保育の心理学	2			子育て支援	2					
								子ども家庭支援の心理学	2									
								子どもの健康と安全	2									
体験サポート科目																		
		地域体験基礎	2															
		創作研究	2	科学技術と社会	2													
体験的科目	教育実習科目									教育実習Ⅱ(幼1)	2	教育実習Ⅱ(幼1)	2	教育実習Ⅲ(幼2)	2	教育実習Ⅲ(幼2)	2	
										教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	1	教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	1	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	1	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	1	
										保育実習Ⅰ(保育所)	2	保育実習Ⅰ(保育所)	2	保育実習Ⅱ	2	保育実習Ⅱ	2	
										保育実習Ⅰ(福祉施設)	2	保育実習Ⅰ(福祉施設)	2	保育実習指導Ⅱ	1	保育実習指導Ⅱ	1	
										保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	保育実習指導Ⅰ(保育所)	1					
										保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	1	保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	1					
	体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅱ	2	学校・保育現場体験Ⅱ	2									
		地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅲ	1	地域体験Ⅲ	1									
	地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅳ	1	地域体験Ⅳ	1										
課題探求科目										専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2	専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2	
																卒業研究	8	
																教職実践演習(幼・小)	2	
																保育実践演習	2	
	小計	21		小計	26		小計	20		小計	26		小計	22		小計	23	
																小計	2	
																小計	20	

合計 160

… 卒業必修科目

高野山大学文学部教育学科 履修モデル 【幼・小一種免許取得】

	1年次				2年次				3年次				4年次				
	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	前期	単位数	後期	単位数	
基礎科目	建学の精神科目	空海思想入門	2														
	基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	基礎ゼミⅣ	2								
	外国語コミュニケーション科目	English communication I		English communication I	2	English communication II		English communication II	2								
	キャリア科目			キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2										
	教養科目	ほとけの世界	2	体育の理論と実技	2					生涯学習論	2						
		日本国憲法	2	情報と教育	2					平和教育	2	人権と社会	2				
理論的科目	教職専門科目			教育原理	2	教育心理学	2	教育と社会	2	特別活動の指導法	2	総合的な学習の時間の指導法	2	教師力養成特講Ⅱ(学校理解)	2		
				教職入門	2	特別支援教育	2	教育課程論	2	教育方法論	2	教職とICT	2				
				幼児理解方法論	2	教育相談	2	道徳教育の理論と方法	2	保育教育課程論	2						
								生徒指導論	2								
								進路指導・キャリア教育	2								
	小学校教諭関係科目	国語科内容論	2	社会科内容論	2	図画工作科内容論	2	算数科内容論	2								
		理科内容論	2	家庭科内容論	2	体育科内容論	2	生活科内容論	2								
		音楽科内容論	2														
		初等英語科内容論	2														
幼稚園教諭関係科目					国語科指導法	2	家庭科指導法	2	生活科指導法	2	算数科指導法	2					
					理科指導法	2	初等英語科指導法	2	図画工作科指導法	2							
					社会科指導法	2			体育科指導法	2							
					音楽科指導法	2											
保育士関係科目																	
心理学関係科目																	
体験サポーター科目	地域体験基礎	2	科学技術と社会	2							書学入門(書道)	2					
体験的科目	教育実習科目									教育実習Ⅰ(小)	教育実習Ⅰ(小)	4					
										教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	1					
										教育実習Ⅱ(幼1)	教育実習Ⅱ(幼1)	2	教育実習Ⅲ(幼2)	教育実習Ⅲ(幼2)	2		
										教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	1	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	1		
	体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅱ	2	学校・保育現場体験Ⅱ	2								
	地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅲ	1	地域体験Ⅲ	1									
	地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅳ	1	地域体験Ⅳ	1									
課題探求科目										専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2	専門演習Ⅰ	2		
														卒業研究	8		
														教職実践演習(幼・小)	2		

小計 20

小計 28

小計 28

小計 26

小計 26

小計 24

小計 4

小計 15

合計 171

校地・校舎等の借用に関する契約書

学校法人千代田学園（以下、「甲」という。）と学校法人高野山学園（以下、「乙」という。）は、乙が運営する高野山大学の文学部教育学科設置に関して、甲が運営する大阪千代田短期大学及び大阪暁光高等学校の校地・校舎（施設・設備等）の借用について、以下のとおり契約を締結する。

記

1. 甲は、乙が設置する文学部教育学科の使用について、甲が設置する大阪千代田短期大学及び大阪暁光高等学校の校地・校舎（施設・設備等）の借用を認める。

学 校 名：大阪千代田短期大学

所 在 地：大阪府河内長野市小山田町1685

校地面積：21,718.00 m²

校舎面積：8,533.62 m²

学 校 名：大阪暁光高等学校

所 在 地：大阪府河内長野市楠町西1090

校地面積：1,264.43 m²（校舎本館建築面積）

校舎面積：141.60 m²（校舎本館2階理科室面積）

2. 借用期間は、2021年4月1日から2041年3月31日迄とする。

3. 借用する校地及び校舎面積（教室及び施設等）・設備については、関係する法令等が定める規定に基づき、甲乙双方の教育活動が円滑に実施できるように、収容定員で按分するものとする。

学校名	区分	登記簿面積 (m ²)	按分率 ※1	高野山大学 按分後借用面積(m ²)
大阪千代田 短期大学	校地面積	21,718.00	43.48%	9,442.99
	校舎面積	8,533.62	43.48%	3,710.42
大阪暁光高校	校地面積	1,264.43	19.23%	243.15
	校舎面積	141.60	19.23%	27.23

※1：大阪千代田短期大学分の按分方法は、大阪千代田短期大学定員260名と高野山大学教育学科定員200名でおこなう。

【計算式】 $200 \div (260 + 200) = 0.4348$

大阪暁光高校分の按分方法は、大阪暁光高校定員840名と高野山大学教育学科定員200名でおこなう。

【計算式】 $200 \div (840 + 200) = 0.1923$

4. 賃料等及び使用に関する取り決めについては、別に定めるものとする。
5. 借用期間満了の1年前までに甲または乙より別段の意思表示がなされない場合、本契約は自動的に4年間延長するものとし、以後も同様とする。
6. 本契約に定めのない事項については、その都度誠意をもって甲乙双方協議の上、決定するものとする。

上記の契約を証するため本契約書2通を作成し、各自記名押印の上、各1通を保有する。

2020年 3月 10日

甲：大阪府河内長野市楠町西1090番地
学校法人 千代田学園

理事長

乙：和歌山県伊都郡高野町高野山385番地
学校法人 高野山学園

理事長

高野山大学 文学部教育学科 完成年度(令和6年度(2024)) 授業時間割(案) 1~4年次

Table with columns for 曜日 (Day), 年次 (Year), ターム (Term), 講義名 (Lecture Name), 担当教員 (Instructor), 単位 (Credits), 教室 (Classroom), and 5 semesters of course details. Includes a final '実習・集中' (Practical/Intensive) section at the bottom.

教室配置

取 入 数 (試 験 時)	教室	月					火					水					木					金					土			
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
191 (104)	講義	301	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★				
191 (104)	講義	302	○	○	★		★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★								
54 (36)	講義	303	★	★	★	○	★	★					○	○	★				★	★	★	★	★	★	★	★				
54 (36)	講義	304	○	★	★	○	○	○	○	○	○	○	○	○	★	○	○		★	★	★	★	★	★	★	★				
54 (36)	講義	305	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	★	○	○		★	★	★	★	★	★	★	★				
120 (60)	講義	306	○	○	○	○									○	○			○	○										
	実習	401	★	★	★								○	○					★	★	★									
	実習	402																	○	○										
	実習	403	○	○											★	★	★		★	★	★		○							
	実習	404	○	○											★	★	★		★	★	★		○							
54 (36)	講義	405	★		○	○					○	○	○	○	★				○	○	○	○	○	○	○	○				
54 (36)	講義	406	★		○	○					○	○	○	○	○	★	★	★	○	○	○	○	○	○	○	○				
54 (36)	講義	407	★		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○				
84 (56)	講義	408	○	○							○	○		○					○	○										
	演習	501									○	○	★						★	★	★									
	講義	503																	○	○	○	○								
		504																												
		601																												
	研										★	★	★	★	★					●	●									
24 (12)	演習	605									★				○	○	○	○	○	○	○	○								
		701																												
24 (12)		720																												
	演習	第二リズム室													★	★	★						★	★	★					
		G	★	★	★																									
		研究室									★	★	★	★	★					●	●									
46	講義	202												○																
		204 入浴室												○																
		205 介護実習室																												
	演習	S15 第一リズム室																												
55 (28)	講義	S21											○	○																
90 (52)	講義	S22																												
		S23											○	○												○				
	演習	S11									★	★	★																	
	演習	S14																												

* ☆印は、大阪千代田短期大学の授業時間、○印は、高野山大学の授業時間となっています。

* ●印は、専門基礎演習、専門演習の授業科目です。

内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
1	基礎から学ぶスポーツリテラシー, 改訂版	大修館書店	1	2,200	
2	スポーツの世界を学ぶ: スポーツ健康科学入門, 増補・改訂版	流通経済大学出版会	1	1,540	
3	よくわかるスポーツ人類学(やわらかアカデミズム・わかる)シリーズ)	ミネルヴァ書房	1	2,640	
4	教養としての健康・スポーツ	玉川大学出版部	1	2,420	
5	健康・スポーツ科学研究: 生活健康科学プログラム(放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	放送大学教育振興会	1	3,300	
6	よくわかるスポーツ人類学(やわらかアカデミズム・わかる)シリーズ)	ミネルヴァ書房	1	2,750	
7	観るまえに読む大修館スポーツルール: 2018	大修館書店	1	1,980	
8	ストレングストレーニング&コンディショニング: NSCA決定版, 第4版	ブックハウス・エイティ	1	13,200	
9	コーチングバレーボール: Coaching Volleyball: 基礎編	大修館書店	1	2,530	
10	サッカー選手のバウートレーニング: パフォーマンス向上に役立つ	大修館書店	1	2,530	
11	考えて強くなるラグビーのトレーニング: 戦術アプローチに基づく練習プログラム	大修館書店	1	2,310	
12	英語で案内する日本の伝統・大衆文化辞典: A Dictionary of Japan in English	三省堂	1	3,850	
13	英語で語る日本事情2020: Japan: Then and Now	ジャパントタイムズ	1	2,310	
14	研究留学のための英文Eメール・ハンドブック	研究社	1	1,650	
15	英語にまつわるエトセトラ: 51 Stories about English	研究社	1	1,760	
16	英語で聞くカ.: 81のサンプル・リスニングで鍛える!	三修社	1	2,640	
17	日英ことばの文化事典	丸善出版	1	4,180	
18	日常英語連想辞典: A Dictionary of Word Imagery & Associations	三省堂	1	2,420	
19	コンパスローズ英和辞典: Compass Rose English-Japanese Dictionary	研究社	1	6,930	
20	リーダーズ英和辞典: KENKYUSHA'S SHORTER ENGLISH READER'S DICTIONARY, 第2版	研究社	1	5,500	
21	図解英単語イメージ辞典: An Illustrated Dictionary of Common English Words	大修館書店	1	3,520	
22	オックスフォード英語ことわざ・名言辞典	枕風舎	1	16,500	
23	詳説英語イディオム由来辞典: The Origins of English Idioms	三省堂	1	4,290	
24	数の英語表現辞典, 改訂新版	小学館	1	1,760	
25	オックスフォード実例現代英語用法辞典, 第4版	研究社	1	6,600	
26	研究社英語の数量表現辞典: KENKYUSHA'S GUIDE TO QUANTITATIVE EXPRESSIONS IN ENGLISH, 増補改訂版	研究社	1	4,180	
27	イメージ感覚で捉える英語の前置詞: 39の前置詞を集中マスター(一歩進める英語学習・研究ブックス)	開拓社	1	1,980	
28	【国際会議・研究発表・学習イベント】重宝の英語表現: INTERNATIONAL CONFERENCE ENGLISH: Towards Logical and Impressive Writing	ベレ出版	1	2,640	
29	英文校正会社が教える英語論文のミス: 分野別強化編	ジャパントタイムズ	1	2,200	
30	最新英語論文によく使う表現: 基本編	創元社	1	2,640	
31	諷刺をしないための翻訳英和辞典+22のテクニック, 改訂増補版	DHC	1	1,870	
32	「教える」「学び」のコミュニケーション	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
33	学校教育基礎論 ―これからの学校教育と教師―	学事出版	1	4,537	電子BOOK
34	教育人間学のために	東京大学出版会	1	8,808	電子BOOK
35	現代教育と教師	大学教育出版	1	3,146	電子BOOK
36	創造と教育(創造性研究 4)	共立出版	1	8,470	電子BOOK
37	「学ぶ力」を取り戻す―教育権から学習権へ―	慶應義塾大学出版会	1	7,260	電子BOOK
38	学生時代、学ばなかった君へ―学びの法則―	丸善出版	1	3,388	電子BOOK
39	教育が日本をひらく―グローバル世紀への提言―	慶應義塾大学出版会	1	5,808	電子BOOK
40	遊びが学びに欠かせないわけ―自立した学び手を育てる―	築地書館	1	5,808	電子BOOK
41	教職必修教育の方法と技術	実教出版	1	6,050	電子BOOK
42	カリキュラム・イノベーション―新しい学びの創造へ向けて―	東京大学出版会	1	10,285	電子BOOK
43	教職のための道徳教育	八千代出版	1	4,598	電子BOOK
44	道徳の授業における教師の悩みに関する研究	大学教育出版	1	4,598	電子BOOK
45	道徳科教育講義	武蔵野美術大学出版局	1	4,598	電子BOOK
46	道徳科初めての授業づくり―ねらいの8類型による分析と探究―	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
47	道徳教育の理論と実践	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
48	道徳教育法・特別活動指導法	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
49	最新特別活動論(基礎基本シリーズ 3)	大学教育出版	1	1,815	電子BOOK
50	新編特別活動の理論と実践―教職必修―	実教出版	1	6,050	電子BOOK
51	いじめ・不登校を防止する人間関係プログラム―アクティブラーニングで学校が劇的に変わる!―	学事出版	1	3,630	電子BOOK
52	その手振りが荒れをまねく―落ち着いているときにしておく生徒指導―	学事出版	1	2,722	電子BOOK
53	荒れには必ずルールがある―間違った生徒指導が荒れる学校をつくる―	学事出版	1	2,722	電子BOOK
54	最新進路指導論(基礎基本シリーズ)	大学教育出版	1	1,815	電子BOOK
55	最新生徒指導論(基礎基本シリーズ)	大学教育出版	1	1,815	電子BOOK
56	子どもの基礎的人間力養成のための積極的生徒指導―児童生徒における「社会性の育ちそびれ」の考察―	学事出版	1	4,900	電子BOOK
57	子どもの人権を尊重する生徒指導―権利・人権を学んでいじめ・体罰から子どもを守る―	学事出版	1	3,267	電子BOOK
58	若手教員の力を引き出す研修でつかえる生徒指導事例50	学事出版	1	3,267	電子BOOK
59	生徒指導24の鉄則―指導に自信を深める「考え方」の原理・原則―新版	学事出版	1	2,904	電子BOOK
60	入門生徒指導―「生徒指導提言」から「いじめ防止対策推進法」まで―新訂版	学事出版	1	3,267	電子BOOK
61	発達や学びをつなぐスタートカリキュラム―スタートカリキュラム導入・実践の手引き―	学事出版	1	2,904	電子BOOK
62	保育指針・教育要領・学習指導要領を読み解く事典―国民形成のナショナル・スタンダードを徹底分析―	大学教育出版	1	8,712	電子BOOK
63	子どもが笑顔になるスクールソーシャルワーク―教師のためのワークブック―	かもがわ出版	1	4,356	電子BOOK
64	「知の統合化」で具体化する21世紀型能力―問題解決力・論理的思考力・コミュニケーション力などのスキルが身につく―	学事出版	1	3,267	電子BOOK
65	「学び合い」入門―これで、分からない子が誰もいなくなる!―	大学教育出版	1	2,420	電子BOOK
66	クリティカル・シンキング教育―探究型の思考力と態度を育む―(早稲田大学エウブックス叢書 002)	早稲田大学出版部	1	5,808	電子BOOK
67	はじめての人のためのアクティブ・ラーニングへの近道	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
68	メンタルトレーナー直伝先生の「こきげん道草」で、授業はうまくいく―子どもへの声かけが変わるクラスがまとまる―	誠文堂新光社	1	4,356	電子BOOK
69	学びの心理学―授業をデザインする―(放送大学叢書 020)	左右社	1	6,050	電子BOOK
70	学校の風景そして授業の風景―子どもと教師の学び合い―	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
71	教育の方法(放送大学叢書 011)	左右社	1	6,050	電子BOOK
72	参加型アクティビティ入門―AI型授業が活性化する―	学事出版	1	3,448	電子BOOK
73	子どもの姿で探る問題解決学習の学力と授業―実感的なわかり方と基礎・基本―	学文社	1	10,164	電子BOOK
74	授業づくり、学級づくりの勘どころ―教室を知的に、楽しく―	三省堂	1	5,566	電子BOOK
75	授業の科学と評価―連想調査法を用いた教え方・学び方―	大学教育出版	1	2,904	電子BOOK
76	授業を変えるコトバとワザ―小学校教師のコミュニケーション実践―(新時代教育のツボ選書 3)	くろしお出版	1	3,630	電子BOOK
77	授業研究27の原理・原則―授業力向上のための実践的思考―	学事出版	1	2,904	電子BOOK
78	明日から使える「学び合い」の達人技術	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
79	英語を直伝うまい!授業のつくりかた―身振り手振り、間のとりかた、校とオチ―英語は授業に使えるネタの宝庫―	誠文堂新光社	1	4,356	電子BOOK
80	AI時代の情報教育	大学教育出版	1	2,420	電子BOOK
81	EdTechが変える教育の未来―Education×Technology―	インプレスエデュケーション	1	5,227	電子BOOK
82	プログラミング教育が変える子どもたちの未来―AIの時代を生かすために親が知っておきたい4つのこと―	翔泳社	1	5,808	電子BOOK
83	学びとコンピュータハンドブック	東京電機大学出版局	1	17,722	電子BOOK

内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
84	教育システム情報ハンドブック	実教出版	1	11,495	電子BOOK
85	実践情報科教育法―「ものづくり」から学ぶ―	東京電機大学出版局	1	6,188	電子BOOK
86	小学校プログラミング教育がわかる、できる―子どもが夢中になる各教科の実践―	学事出版	1	2,722	電子BOOK
87	情報科教育のための指導法と展開例―教職必修―	実教出版	1	6,050	電子BOOK
88	情報機器の操作―教員のためのICT活用法：教職必修―	実教出版	1	5,445	電子BOOK
89	情報教育の理論と実践	実教出版	1	5,445	電子BOOK
90	先生のための小学校プログラミング教育がよくわかる本	翔泳社	1	6,050	電子BOOK
91	入門特別活動―理論と実践で学ぶ学級・ホームルーム担任の仕事―	学事出版	1	3,267	電子BOOK
92	こころの作文―綴り、読み合い、育ち合う子どもたち―	かもがわ出版	1	4,356	電子BOOK
93	古典のおさらい(おとなの楽習 21)	自由国民社	1	3,630	電子BOOK
94	国語の授業の作り方―はじめての授業マニュアル―	文学通信	1	8,167	電子BOOK
95	国語を教える文法の底力	くろしお出版	1	3,388	電子BOOK
96	国語科教師の学び合いによる実践的力形成の研究―協働学習的アクション・リサーチの提案―	ひつじ書房	1	16,698	電子BOOK
97	国語教育における文学の居場所―言葉の芸術として文学を捉える教育の可能性―	ひつじ書房	1	28,314	電子BOOK
98	国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語 改訂版	くろしお出版	1	3,872	電子BOOK
99	読みの交流と言語活動―国語科学習デザインと実践―	玉川大学出版部	1	6,050	電子BOOK
100	日中漢字文化をいかに漢字・語彙指導法―「覚える」から「考える」へ(早稲田大学学術叢書 47)	早稲田大学出版部	1	7,260	電子BOOK
101	明治初等国語教科書と子ども読み物に関する研究―リテラシー形成メディアの教育文化史―	ひつじ書房	1	45,980	電子BOOK
102	朝倉国語教育講座 全6巻セット	朝倉書店	1	26,378	電子BOOK
103	ここまで変わった日本史教科書	吉川弘文館	1	6,534	電子BOOK
104	女性の視点でつくる社会科授業	学文社	1	6,534	電子BOOK
105	尋常小学「国史」が教えた愛国心	勉誠出版	1	4,840	電子BOOK
106	比較中学歴史教科書―国際派日本人を育てる―	勉誠出版	1	2,662	電子BOOK
107	歴史学者と読む高校世界史―教科書記述の舞台裏―	勉誠出版	1	8,712	電子BOOK
108	はじめての人のための中学校理科の「学び合い」	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
109	はじめての人のための理科の授業づくり―学習問題から学習課題へ―	大学教育出版	1	2,662	電子BOOK
110	学校理科で探究する生活科学―生活科学的アプローチによる学校理科の学習転換―	大学教育出版	1	2,662	電子BOOK
111	小学校理科「物理・天文分野」の指導―文科系学生が物理・天文分野の基礎を理解できる―	大学教育出版	1	3,146	電子BOOK
112	理科教育法―独創力を伸ばす理科授業―	講談社	1	8,800	電子BOOK
113	理科教育法―理論をふまえた理科の授業実践―第2版	大学教育出版	1	2,420	電子BOOK
114	子どもと話す原子力発電所―おもしろ学校公開授業の記録―(人間選書 140)	農山漁村文化協会	1	4,837	電子BOOK
115	AI vs.教科書が読めない子どもたち: Artificial intelligence vs. Children who can't read textbooks	東洋経済新報社	1	1,650	
116	合格水準教職のための憲法	法律文化社	1	2,750	
117	子どもと学校の考現学: 少子化社会の中の子どもの成長	黎明書房	1	2,640	
118	リベラルな学びの声(叢書・ユニベルシタス 1070)	法政大学出版局	1	3,740	
119	教育の危機: 現代の教育問題をグローバルに問い直す	東洋館出版社	1	5,060	
120	図表でみる教育: OECDインディケータ: 2018年版	明石書店	1	9,460	
121	ビデオによるリフレクション入門: 実践の多義創発性を拓く	東京大学出版会	1	2,860	
122	ダイバーシティ時代の教育の原理: 多様性と新たなつながりの地平へ	学文社	1	2,420	
123	なぜからはじめる教育原理: 第2版	建帛社	1	2,200	
124	やさしく学ぶ教育原理	ミネルヴァ書房	1	2,420	
125	リベラル・アーツの源泉を訪ねて	東信堂	1	3,520	
126	教育にできないこと、できること: 基礎・実践・探究, 第4版	成文堂	1	3,740	
127	教育の原理とは何か: 日本の教育理念を問う, 改訂版	ナカニシヤ出版	1	2,530	
128	教育をよみとく: 教育学的探究のすすめ	有斐閣	1	1,650	
129	教育原理(よくわかる教職エクササイズ 1)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
130	教職のための教育原理, 第2版	八千代出版	1	2,310	
131	現代教育の基礎理論(MINERVA TEXT LIBRARY 67)	ミネルヴァ書房	1	2,860	
132	現代教育概論, 第4次改訂版	学陽書房	1	2,640	
133	臨床教育学三十年: その歩みといま	ミネルヴァ書房	1	7,150	
134	教育思想事典, 増補改訂版	勁草書房	1	8,580	
135	批判的教育学事典	明石書店	1	27,500	
136	何が教育思想と呼ばれるのか: 共存と超越性	一藝社	1	2,860	
137	共存の教育学: 愛を黙示するハイデガー	東京大学出版会	1	12,100	
138	教えることの再発見	東京大学出版会	1	4,180	
139	教育の見方・考え方: 教育の思想・歴史	晃洋書房	1	2,970	
140	ポルノ―教育学研究, 上巻, 増補版	風間書房	1	2,970	
141	新しい世界のための教育: 自分をつくる0歳~6歳, 新版	青土社	1	1,760	
142	被抑圧者の教育学, 50周年記念版	亜紀書房	1	2,880	
143	「学校教育と社会」ノート: 教育社会学への誘い, 第2版	学文社	1	1,980	
144	フランスの社会階層と進路選択: 学校制度からの排除と自己選抜のメカニズム	勁草書房	1	4,840	
145	学校プラットフォーム: 教育・福祉、そして地域の協働で子どもの貧困に立ち向かう	有斐閣	1	2,860	
146	教育と社会階層: ESSM全国調査からみた学歴・学校・格差	東京大学出版会	1	4,840	
147	教育社会とジェンダー, 新版	学文社	1	2,310	
148	教育文化の社会学: 人間発達科学プログラム(放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	放送大学教育振興会	1	2,860	
149	子どもの貧困対策と教育支援: より良い政策・連携・協働のために	明石書店	1	2,860	
150	大学への教育投資と世代間所得移転: 奨学金は救世主か	勁草書房	1	3,850	
151	著名人輩出の地域差と中等教育機会: 「日本近現代人物履歴事典」を読む	関西学院大学出版会	1	5,280	
152	変動社会と子どもの発達: 教育社会学入門, 改訂版	北樹出版	1	2,310	
153	コミュニティ・スクールの全貌: 全国調査から実相と成果を探る	風間書房	1	4,400	
154	地域コミュニティと教育: 地域づくりと学校づくり(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	3,080	
155	地域教育再生プロジェクト: 家庭・学校と地域社会(放送大学叢書 045)	左右社	1	1,870	
156	あなたと創る教育心理学: 新しい教育課題にどう応えるか	ナカニシヤ出版	1	2,420	
157	たのしく学べる最新教育心理学: 教職に関わるすべての人に, 改訂版	図書文化社	1	2,200	
158	ようこそ教育心理学の世界へ, 改訂版	北樹出版	1	2,200	
159	基礎からまなぶ教育心理学(ライブラリ基礎からまなぶ心理学 6)	サイエンス社	1	2,750	
160	教育心理学(よくわかる教職エクササイズ 2)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
161	教育心理学者の世紀: ジェームズ、ウィットキー、ブルーナー、バンデューラら16人の偉大な業績とその影響	福村出版	1	9,900	
162	教育心理学特論: 人間発達科学プログラム, 新訂(放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	放送大学教育振興会	1	3,190	
163	私たちは子どもに何が出来るのか: 非認知能力を育み、格差に挑む	英治出版	1	1,780	
164	読んでわかる教育心理学(ライブラリ読んでわかる心理学 6)	サイエンス社	1	2,640	
165	発達・学習の心理学: 教職パーシク, 改訂版	北樹出版	1	2,090	
166	保育・教育に生かすOrigamiの認知心理学	金子書房	1	2,200	

内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
167	Allに負けない「教育」(認知科学のフロンティア)	大修館書店	1	1,980	
168	アクティブラーニングのための心理学: 教室実践を支える構成主義と社会的学習理論	北大路書房	1	2,420	
169	バフフル・ラーニング: 社会に開かれた学びと理解をつくる	北大路書房	1	2,860	
170	メタ認知で(学ぶ力)を高める: 認知心理学が解き明かす効果的学習法	北大路書房	1	1,980	
171	拡張的学習の挑戦と可能性: いまだここにはないものを学ぶ	新曜社	1	3,190	
172	学習科学ハンドブック: 第1巻 基礎/方法論	北大路書房	1	4,070	
173	学習科学ハンドブック: 第3巻 領域専門知識を学ぶ/学習科学研究を教室に持ち込む	北大路書房	1	3,850	
174	自律的な学習意欲の心理学: 自ら学ぶことは、こんなに素晴らしい	誠信書房	1	1,980	
175	いじめからのちを守る: 逃げる、生きるため	金子書房	1	1,430	
176	いじめに対する援助要請のカウンセリング: 「助けて」が言える子ども、「助けて」に気づける援助者になるために	金子書房	1	1,980	
177	エビデンスに基づく学校メンタルヘルスの実践: 自殺・学級崩壊・いじめ・不登校の防止と解消に向けて	明石書店	1	2,750	
178	こころの発達によりそう教育相談	福村出版	1	2,530	
179	スクールカウンセリングと発達支援, 改訂版	ナカニシヤ出版	1	2,640	
180	チーム学校での効果的な援助: 学校心理学の最前線	ナカニシヤ出版	1	3,520	
181	学校コミュニティへの緊急支援の手引き, 第2版	金剛出版	1	4,180	
182	学校メンタルヘルスハンドブック	大修館書店	1	4,730	
183	学校心理学にもとづく教育相談: 「チーム学校」の実践を目指して	金子書房	1	1,980	
184	教育相談(よくわかる教職エクスサイズ 3)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
185	教育臨床の実践: 学校で行う心と発達へのトータルサポート, 第2版	ナカニシヤ出版	1	2,420	
186	子どものこころ, 大人のこころ: 先生や保護者が判断を誤らないための手引書	ナカニシヤ出版	1	2,530	
187	子どもの心の問題支援ガイド: 教育現場に活かす認知行動療法	金剛出版	1	3,740	
188	子ども虐待とスクールソーシャルワーク: チーム学校を基盤とする「育む環境」の創造	明石書店	1	3,850	
189	絶対役立つ教育相談: 学校現場の今に向き合う	ミネルヴァ書房	1	2,420	
190	子ども・青年の文化と教育(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	2,860	
191	SDGsと環境教育: 地球資源制約の視座と持続可能な開発目標のための学び	学文社	1	3,300	
192	コミュニティ・スクールの成果と展望: スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割	ミネルヴァ書房	1	6,050	
193	シユタイナー教育思想の再構築: その学問としての妥当性を問う	ナカニシヤ出版	1	5,280	
194	国際バカロレアの挑戦: グローバル時代の世界標準プログラム	明石書店	1	3,960	
195	新たな時代のESDサステナブルな学校を創ろう: 世界のホールスクールから学ぶ	明石書店	1	2,750	
196	大都市圏の環境教育: ESD: 首都圏ではじまる新たな試み(持続可能な社会のための環境教育シリーズ 7)	筑波書房	1	2,750	
197	18歳成人社会ハンドブック: 制度改革と教育の課題	明石書店	1	2,750	
198	教師と人権教育: 公正、多様性、グローバルな連帯のために	明石書店	1	3,080	
199	市民を育てる学校: アメリカ進歩主義教育の実験	勁草書房	1	3,850	
200	社会情動的スキル: 学びに向かう力	明石書店	1	3,960	
201	道徳教育と愛国心: 「道徳」の教科化にどう向き合うか	岩波書店	1	2,860	
202	道徳教育の方法: 理論と実践(放送大学叢書 042)	左右社	1	1,870	
203	ブルームと梶田理論に学ぶ: 戦後日本の教育評価論のあゆみ	ミネルヴァ書房	1	6,050	
204	教育現場の「コンピテンシー評価」: 「見えない能力」の評価を考える	ナカニシヤ出版	1	2,640	
205	授業の科学と評価: 連想調査法を用いた教え方・学び方	大学教育出版	1	2,640	
206	教育・心理・言語系研究のためのデータ分析: 研究の幅を広げる統計手法	東京図書	1	3,080	
207	教育・心理系研究のためのデータ分析入門: 理論と実践から学ぶSPSS活用法, 第2版	東京図書	1	3,080	
208	ネオリベラリ教育の思想と構造: 書き換えられた教育の原理	東信堂	1	6,820	
209	教育史研究の最前線: 2 創立60周年記念	六花出版	1	2,750	
210	教科書にみる世界の性教育	かもがわ出版	1	2,200	
211	諸外国の教育動向: Recent Trends in Education Overseas: 2017年度版(教育調査 第154集)	明石書店	1	3,960	
212	世界の学校体系(教育調査 第152集)	ぎょうせい	1	4,730	
213	教育から見る日本の社会と歴史, 第2版	八千代出版	1	2,640	
214	日本国民をつつた教育: 寺子屋からGHQの占領教育政策まで	ミネルヴァ書房	1	2,750	
215	近・現代日本教育会史研究	不二出版	1	7,280	
216	大正新教育の受容史	東信堂	1	4,070	
217	戦後改革期文部省実験学校資料集成: 第2期第1巻～第2期第3巻, 編集復刻版	不二出版	1	82,500	
218	戦後改革期文部省実験学校資料集成: 第2期第4巻～第2期第6巻, 編集復刻版	不二出版	1	82,500	
219	戦後日本教育史(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	2,970	
220	前川喜平 教育のなかのマイノリティを語る: 高校中退・夜間中学・外国につながる子ども・LGBT・沖縄の歴史教育	明石書店	1	1,650	
221	包摂と排除の教育学: マイノリティ研究から教育福祉社会史へ, 増補新版	生活書院	1	3,960	
222	ミャンマーの教育: 学校制度と教育課程の現在・過去・未来(明石ライブラリー 164)	明石書店	1	4,950	
223	ヨーロッパにおける移民二世世代の学校適応: スーパー・ダイバーシティへの教育人類学的アプローチ	明石書店	1	3,960	
224	英国の教育	東信堂	1	3,740	
225	イングランドのシティズンシップ教育政策の展開: カリキュラム改革にみる国民意識の形成に着目して	東信堂	1	3,520	
226	ドイツ地理教育改革とESDの展開	古今書院	1	4,840	
227	現代ドイツにおける学校制度改革と学力問題: 進む学校の終日化と問い直される役割分担のあり方	晃洋書房	1	7,920	
228	政治教育の模索: オーストリアの経験から	名古屋大学出版会	1	4,510	
229	現代フランスの教育改革	明石書店	1	6,380	
230	転換期と向き合うデンマークの教育	ひとなる書房	1	1,980	
231	多様性と向きあうカナダの学校: 移民社会が目指す教育	東信堂	1	3,080	
232	アメリカの言語教育: 多文化性の尊重と学力保障の両立を求めて(プリミエ・コレクション 89)	京都大学学術出版会	1	3,520	
233	アメリカ教育改革のポリティクス: 公正を求めた50年の闘い	東京大学出版会	1	6,160	
234	教師の「専門家共同体」の形成と展開: アメリカ学校改革研究の系譜	勁草書房	1	7,920	
235	空間と時間の教育史: アメリカの学校建築と授業時間割からみる(関西学院大学研究叢書 第196編)	東信堂	1	4,290	
236	思考する歴史教育への挑戦: 暗記型か、思考型か、揺れるアメリカ	九州大学出版会	1	3,960	
237	聖書と科学のカルチャー・ウォー: 概説アメリカの「創造vs生物進化」論争	東信堂	1	3,960	
238	移民の子どもと学校: 統合を支える教育政策	明石書店	1	3,300	
239	学校教育制度概論, 第2版(玉川大学教職専門シリーズ)	玉川大学出版部	1	3,080	
240	教育と比較の眼	東信堂	1	2,860	
241	現代教育の制度と行政, 改訂版	福村出版	1	2,530	
242	子どもの貧困と教育の無償化: 学校現場の実態と財源問題	明石書店	1	2,970	
243	持続可能な未来のための教育制度論(ESDでひらく未来)シリーズ	学文社	1	2,530	
244	多文化教育の国際比較: 世界10カ国の教育政策と移民政策	明石書店	1	2,530	
245	地域研究: リーディングス比較教育学	東信堂	1	4,070	
246	教師のための教育法規・教育行政入門	ミネルヴァ書房	1	2,640	
247	市町村教育委員会制度に関する研究: 制度改革と学力政策の現状と課題	福村出版	1	5,500	
248	解説教育六法: 2018	三省堂	1	2,860	
249	教育小六法: 平成30年版	学陽書房	1	2,970	

内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
250	どうなる日本の教員養成: 2016.12.4 Symposium Report	学文社	1	1,540	
251	ベストをつくす教育実習 強みを活かす実力を伸ばす	有斐閣	1	2,200	
252	介護等体験安心ハンドブック(よくわかる教職シリーズ)	学事出版	1	1,650	
253	教育実習安心ハンドブック(よくわかる教職シリーズ)	学事出版	1	1,980	
254	教師教育研究ハンドブック: HANDBOOK OF RESEARCH ON TEACHER EDUCATION	学文社	1	6,600	
255	専門職としての教師教育者: 教師を育てるひとの役割、行動と成長	玉川大学出版部	1	3,080	
256	戦後日本教員養成の歴史的研究	風間書房	1	15,400	
257	変動社会の教師教育: Teacher Education, 新版	名古屋大学出版会	1	5,940	
258	学校の情報セキュリティ実践マニュアル: 教育の現場で安心してICTを活用するために	翔泳社	1	2,420	
259	教師の協同を創るスクールリーダーシップ	ナカニシヤ出版	1	2,420	
260	情報時代の学校をデザインする: 学習者中心の教育に変える6つのアイデア	北大路書房	1	2,420	
261	「深い学び」を支える学級はコーチングでつくる: アクティブラーニング	ミネルヴァ書房	1	1,980	
262	アドラー心理学でクラスはよみがえる: 叱る・ほめるに代わるスキルが身につく	創元社	1	1,540	
263	学校教育と情報機器(よくわかる教職エクササイズ 6)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
264	図解実践世界最高の学級経営: 成果を上げる教師になるための50の技術	東洋館出版社	1	2,420	
265	チーム学校に求められる教師の役割・職務とは何か	晃洋書房	1	3,080	
266	はじめて学ぶ教職論	ミネルヴァ書房	1	2,640	
267	教師のメタ認知: 社会的に教育実践を創るために	北樹出版	1	2,310	
268	教師の責任と教職倫理: 経年調査にみる教員文化の変容	勁草書房	1	6,050	
269	教職のしくみと教育のしくみ: 教育制度論	晃洋書房	1	3,080	
270	教職のための課題探究によるアクティブラーニング	ナカニシヤ出版	1	2,420	
271	教職概論: 教師を目指す人のために、第5次改訂版	学陽書房	1	2,640	
272	省察の実践は教育組織を変革するか	ミネルヴァ書房	1	5,500	
273	教員自主研修法制の展開と改革への展望: 行政解釈・学説・判例・運動の対立・交錯の歴史からの考察	風間書房	1	12,650	
274	教職員のための「アサーション」実践50例: 会話で学ぶ豊かなコミュニケーション	第一法規	1	1,980	
275	チーム学校を構築するための教師ストレス研究	ナカニシヤ出版	1	5,060	
276	学校保健マニュアル, 改訂9版	南山堂	1	4,950	
277	学校保健実務必携, 新訂版 第4次改訂版	第一法規	1	4,180	
278	教育とLGBTIをつなぐ: 学校・大学の現場から考える	青弓社	1	2,200	
279	最新Q&A教師のための救急百科: Q&A TEACHER'S FIRST AID HANDBOOK, 第2版	大修館書店	1	4,180	
280	学校事故の責任法理: 2	法律文化社	1	7,150	
281	学校における自殺予防教育プログラムGRIP: 6時間の授業で支えあえるクラスをめざす	新曜社	1	1,980	
282	カリキュラム・マネジメントと授業の質保証: 各国の事例の比較から	北大路書房	1	2,970	
283	カリキュラム・マネジメントの考え方: 進め方: キー・コンピテンシーを育てる学校の教育課程の編成と改善	黎明書房	1	2,640	
284	よくわかる教育課程, 第2版(やわらかアカデミズム・くわかん)シリーズ	ミネルヴァ書房	1	2,860	
285	ワークで学ぶ教育課程論	ナカニシヤ出版	1	2,860	
286	教育課程, 第2版(教師教育テキストシリーズ 9)	学文社	1	2,090	
287	教育課程・方法論: コンピテンシーを育てる学びのデザイン, 新版	学文社	1	2,200	
288	交流史から学ぶ東アジア: 食・人・歴史でつくる教材と授業実践	明石書店	1	1,980	
289	自分の「好き」を探究しよう: お茶の水女子大学附属中学校「自主研究」のすすめ	明石書店	1	1,760	
290	社会に開かれたカリキュラム: 新学習指導要領に対応した教育課程論	晃洋書房	1	3,190	
291	新しい時代の教育課程, 第4版(有斐閣アルマ Interest)	有斐閣	1	2,200	
292	ICEモデルで拓く主体的な学び: 成長を促すフレームワークの実践	東信堂	1	2,200	
293	Lesson Study (教育工学選書 2-11)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
294	アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性(学びと成長の講話シリーズ 第1巻)	東信堂	1	1,100	
295	アクティブラーニング入門: 2「主体的・対話的で深い学び」をどう実現するか	産業能率大学出版部	1	1,870	
296	ようこそ、一人ひとりをいかに教室へ: 「違い」を力に変える学び方・教え方	北大路書房	1	2,640	
297	拡張する学校: 協働学習の活動理論	東京大学出版会	1	3,850	
298	学びの共同体の挑戦: 改革の現在	小学館	1	1,760	
299	学習とイノベーション: 「あの子はおとないけど成績はいんですよ」をどう見るか(学びと成長の講話シリーズ 第2巻)	東信堂	1	1,760	
300	学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷, 新訂	東北大学出版会	1	2,200	
301	協同的探究学習で育む「わかる学力」: 豊かな学びと育ちを支えるために	ミネルヴァ書房	1	2,640	
302	教育の効果: メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化	図書文化社	1	4,070	
303	教育の方法と技術, 3訂版(教職課程シリーズ)	図書文化社	1	2,200	
304	教育実践の継承と教育方法学の課題: 教育実践研究のあり方を展望する(教育方法 47)	図書文化社	1	2,200	
305	現代社会の児童生徒指導(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	3,410	
306	最高の授業: スパイダー討論が教室を変える	新評論	1	2,750	
307	深い学び	東洋館出版社	1	2,178	
308	図解実践アクティブラーニングができる本(健康ライブラリー スペシャル)	講談社	1	1,430	
309	成績をハックする: 評価を学びにいかす10の方法	新評論	1	2,200	
310	戦後日本教育方法論史: EDUCATIONAL METHODS THEORIES IN POSTWAR JAPAN: 下 各教科・領域等における理論と実践	ミネルヴァ書房	1	3,850	
311	戦後日本教育方法論史: EDUCATIONAL METHODS THEORIES IN POSTWAR JAPAN: 上 カリキュラムと授業をめぐる理論的系譜	ミネルヴァ書房	1	3,850	
312	ゲームと教育・学習(教育工学選書 2-3)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
313	学びを支える教育工学の展開(教育工学選書 2)	ミネルヴァ書房	1	2,860	
314	教育工学論文執筆の要点(教育工学選書 2-13)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
315	教育分野におけるレポート・ポートフォリオ(教育工学選書 2-2)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
316	現代学カテスト批判: 実態調査・思想・認識論からのアプローチ	東信堂	1	2,970	
317	実践事例でわかる「アクティブラーニング」の学習評価: 小・中学校対応	学陽書房	1	2,200	
318	そろそろ、部活のこれからは話ませんか: 未来のための部活講義	大月書店	1	1,980	
319	ブラック部活動: 子どもと先生の苦しみに向き合う	東洋館出版社	1	1,540	
320	やさしく学ぶ特別活動	ミネルヴァ書房	1	2,640	
321	新しい特別活動の指導原理	ミネルヴァ書房	1	2,640	
322	部活動の不思議を語り合おう	ひつじ書房	1	1,320	
323	ドラマ教育ガイドブック: アクティブな学びのためのアイデアと手法	新曜社	1	1,760	
324	メディア・リテラシー教育: ソーシャルメディア時代の実践と学び	北樹出版	1	2,420	
325	教育のためのICT活用(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	3,190	
326	主体的・対話的で深い学びの環境とICT: アクティブラーニングによる資質・能力の育成	東信堂	1	2,530	
327	初等中等教育におけるICT活用(教育工学選書 2-9)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
328	情報モラル教育: 知っておきたい子どものネットコミュニケーションとトラブル予防	金子書房	1	1,980	
329	情報教育・情報モラル教育(教育工学選書 2-8)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
330	図解プログラミング教育がよくわかる本(健康ライブラリー スペシャル)	講談社	1	1,430	
331	チームで取り組む生徒指導・教育相談: 事例を通して深く学ぶ・考える	ナカニシヤ出版	1	2,970	
332	生きる力を育む生徒指導	福村出版	1	2,530	

内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
333	社会科教育と災害・防災学習: 東日本大震災に社会科は どう向き合うか	明石書店	1	3,080	
334	子どものための主権者教育: 大学生と行政でつくるアクティブ・ラーニング型選挙出前授業	ナカニシヤ出版	1	2,750	
335	「土農工商」は どう教えられたか: 小中学校における近世身分学習の展開	ミネルヴァ書房	1	5,500	
336	新教科「道徳」の理論と実践(玉川大学教職専門シリーズ)	玉川大学出版部	1	3,080	
337	哲学する道徳: 現実社会を捉え直す授業づくりの新提案	東海大学出版部	1	2,750	
338	道徳教育のキソ・キホン: 道徳科の授業をはじめの人へ	ナカニシヤ出版	1	2,200	
339	道徳教育は「いじめ」をなくせるのか: 教師が明日からできること	NHK出版	1	1,430	
340	TIMSS2015算数・数学教育/理科教育の国際比較: 国際数学・理科教育動向調査の2015年調査報告書	明石書店	1	4,950	
341	主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育: コンテンツとコンピテンシーを見すえて	ミネルヴァ書房	1	3,080	
342	算数教育指導用語辞典, 第5版	教育出版	1	4,400	
343	「資質・能力」を育むボール運動の授業づくり: 全員参加を保障する体育学習をめざして	大修館書店	1	2,200	
344	初等体育授業づくり入門: Introduction to Elementary School Physical Education	大修館書店	1	1,870	
345	新時代のキャリア教育と職業指導: 免許法改定に対応して	法律文化社	1	2,420	
346	やわらかな感性を育む園児工作科教育の指導と学び: アートの体験による子どもの感性の成長・発達	ミネルヴァ書房	1	2,420	
347	イン・ザ・モデル: ナンシー・アトウェルの教室	三省堂	1	2,640	
348	国語科教育に求められるヴィジュアル・リテラシーの探究	ひつじ書房	1	5,830	
349	国語教育指導用語辞典, 第5版	教育出版	1	4,400	
350	英語リスニング指導ハンドブック	大修館書店	1	3,190	
351	技能を統合した英語学習のすすめ: 小学校・中学校・高等学校での工夫と留意	ひつじ書房	1	2,640	
352	行動志向の英語科教育の基礎と実践: 教師は成長する	三修社	1	2,860	
353	小学校英語教育の基礎知識: コア・カリキュラム準拠	大修館書店	1	2,200	
354	小学生に英語の読み書きをどう教えたらいいか	研究社	1	2,310	
355	新学習指導要領にもとづく英語科教育法, 第3版	大修館書店	1	2,530	
356	新編小学校英語教育法入門	研究社	1	2,310	
357	教職論: 保育者・教師の仕事をつかむ	ミネルヴァ書房	1	2,860	
358	2E教育の理解と実践: 発達障害児の才能を活かす	金子書房	1	1,650	
359	アスペルガー症候群の大学生: 教職員・支援者・親のためのガイドブック	日本評論社	1	3,300	
360	インクルーシブ授業の国際比較研究	福村出版	1	7,480	
361	よくわかる! 大学における障害学生支援: こんなときどうする?	ジアース教育新社	1	3,080	
362	よくわかる特別支援教育, 第2版(やわらかアカデミズム・(わかる)シリーズ)	ミネルヴァ書房	1	2,750	
363	基礎から学ぶ特別支援教育の国際比較研究	ミネルヴァ書房	1	2,860	
364	共生社会の時代の特別支援教育: 第1巻 新しい特別支援教育	ぎょうせい	1	2,750	
365	共生社会の時代の特別支援教育: 第2巻 学びを保障する指導と支援	ぎょうせい	1	2,750	
366	共生社会の時代の特別支援教育: 第3巻 連携とコンサルテーション	ぎょうせい	1	2,750	
367	教師と学校が変わる学校コンサルテーション(ハンディシリーズ発達障害支援・特別支援教育ナビ)	金子書房	1	1,430	
368	障がいの重い子どもと係わり合う教育: 実践事例から読みとく特別支援教育: 1	明石書店	1	4,180	
369	障がいの重い子どもと係わり合う教育: 実践事例から読みとく特別支援教育: 2	明石書店	1	4,180	
370	人材紹介のプロがつくった発達障害の大学生のためのキャンパスライフQ&A	弘文堂	1	1,980	
371	特別支援教育の基礎: 誰かな支援のできる教師・保育士になるために, 改訂版	東京書籍	1	3,080	
372	特別支援教育の到達点と可能性: 2001~2016年: 学術研究からの論考	金剛出版	1	6,600	
373	特別支援教育の理論と実践: S.E.N.S.養成セミナー: 1 概論・アセスメント, 第3版	金剛出版	1	2,970	
374	特別支援教育の理論と実践: S.E.N.S.養成セミナー: 2 指導, 第3版	金剛出版	1	3,080	
375	特別支援教育の理論と実践: S.E.N.S.養成セミナー: 3 特別支援教育士(S.E.N.S.)の役割・実習, 第3版	金剛出版	1	2,530	
376	発達に気になる子へのスムーズステップではじめる生活動作の教え方	中央法規出版	1	1,980	
377	発達障害のある子のケース別サポート事例事典(発達障害を考える 心をつなぐ)	ナツメ社	1	2,750	
378	問題行動解決支援ハンドブック: 子どもの視点でポジティブに考える	金剛出版	1	3,520	
379	友だち作りのSST: 自閉スペクトラム症と社会性に課題のある思春期のためのPEERSTレーナーマニュアル	金剛出版	1	4,180	
380	20世紀ロシアの挑戦 盲ろう児教育の歴史: 事例研究にみる障害児教育の成功と発展(明石ライブラリー 163)	明石書店	1	4,180	
381	学カ・リテラシーを伸ばそう、難聴児教育: エビデンスに基づいた教育実践	明石書店	1	4,180	
382	手話による教養大学の挑戦: ろう者が教え、ろう者が学ぶ	ミネルヴァ書房	1	3,850	
383	随覚障害児の学習と指導: 発達と心理学的基礎	明石書店	1	3,300	
384	学習社会学の構想	晃洋書房	1	2,860	
385	協働型社会と地域生涯学習支援	法律文化社	1	8,140	
386	社会づくりとしての学び: 信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動	東京大学出版会	1	5,940	
387	社会教育・生涯学習論: すべての人が「学ぶ」ために必要なこと(ESDでひらく未来)シリーズ)	学文社	1	2,090	
388	諸外国の生涯学習(教育調査 第165集)	明石書店	1	3,960	
389	新しい時代の生涯学習, 第3版(有斐閣アルマ Interest)	有斐閣	1	2,310	
390	生涯学習の新たな動向と課題: 人間発達科学プログラム(放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	放送大学教育振興会	1	3,080	
391	生涯発達と生涯学習, 第2版	ミネルヴァ書房	1	3,080	
392	社会教育・生涯学習ハンドブック, 第9版	エイデル研究所	1	4,620	
393	居場所: 生の回復と充溢のトポス	春風社	1	2,546	
394	子どものワークショップと体験理解: 感性的な視点からの実践研究のアプローチ	九州大学出版会	1	3,080	
395	野外教育学研究法	日本野外教育学会	1	2,750	
396	歌と絵本が育む子どもの豊かな心: 歌いかけ・読み聞かせ子育てのすすめ	ミネルヴァ書房	1	2,750	
397	美術教育ハンドブック	三元社	1	2,860	
398	未来の人材は「音楽」で育てる: 世界をひらく5つのリベラルアーツ・マインド	アルテスパブリッシング	1	1,980	
399	言語と教育: 多様化する社会の中で新たな言語教育のあり方を探る	明石書店	1	4,620	
400	あたりまえを疑え! 一臨床教育学入門一	新曜社	1	3,267	電子BOOK
401	ウイットゲンシュタインと教育 一言語ゲームにおける生成と変容のダイナミズム一	大学教育出版	1	5,445	電子BOOK
402	ウイットゲンシュタインの教育学 一後期哲学と「言語の限界」一	鹿嶋義塾大学出版会	1	14,278	電子BOOK
403	キルケゴールの教育倫理学	大学教育出版	1	3,630	電子BOOK
404	ボリスとしての教育 一教育的統治のアルケオロジー一	東京大学出版会	1	15,972	電子BOOK
405	ローティの教育論 一ネオ・プラグマティズムからの提言一	八千代出版	1	5,324	電子BOOK
406	わかる・役立つ教育学入門(シリーズ大学生の学びをつくる)	大月書店	1	6,057	電子BOOK
407	教育の正義論 一平等・公共性・統合一	勁草書房	1	10,164	電子BOOK
408	教育の倫理学(現代社会の倫理を考える 7)	丸善出版	1	4,598	電子BOOK
409	教育思想のポストモダン 一戦後教育学を超えて一(教育思想双書 2-1)	勁草書房	1	9,922	電子BOOK
410	教育思想史で読む現代教育	勁草書房	1	12,826	電子BOOK
411	教育実践学 一実践を支える理論一	大学教育出版	1	2,662	電子BOOK
412	教育探求の基礎	税務経理協会	1	8,107	電子BOOK
413	教育哲学	玉川大学出版部	1	8,591	電子BOOK
414	教育力としての言語 一シュタイナー教育の原点一	勁草書房	1	7,018	電子BOOK
415	現代教育思想としての塩尻公明 一人格主義の教育論一	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK

内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
416	最新教育原理	勁草書房	1	6,855	電子BOOK
417	災害と厄災の記憶を伝えるー教育学は何ができるのかー	勁草書房	1	13,915	電子BOOK
418	子どもと哲学をー問いから希望へー	勁草書房	1	7,865	電子BOOK
419	新しい教育通義	武蔵野美術大学出版局	1	8,712	電子BOOK
420	日本教育学の系譜ー吉田龍次・篠原助市・長田新・森昭ー	勁草書房	1	13,915	電子BOOK
421	入門臨床教育学ー課題を抱える子ども・親・教師への支援ー	学事出版	1	3,267	電子BOOK
422	臨床教育学の生成	玉川大学出版部	1	11,253	電子BOOK
423	ベダゴジーの社会学ーバーンステイン理論とその射程ー	学文社	1	10,164	電子BOOK
424	教育の大衆化は何をもたらしたかーフランス社会の階層と格差ー	勁草書房	1	12,342	電子BOOK
425	教育社会学事典	丸善出版	1	79,860	電子BOOK
426	教育臨床社会学の可能性	勁草書房	1	10,043	電子BOOK
427	座席行動の心理学ー着席位置をめぐる心理メカニズムの解明ー	大学教育出版	1	2,904	電子BOOK
428	生活保護世帯の子どもライフストーリーー貧困の世代的再生産ー	勁草書房	1	12,100	電子BOOK
429	半徑5メートルからの教育社会学(シリーズ大学生の学びをつくる)	大月書店	1	5,856	電子BOOK
430	勉強と居場所ー学校と家族の日韓比較ー	勁草書房	1	9,438	電子BOOK
431	教育心理学のための統計学ーテストでコロロをはかるー(心理学のための統計学4)	誠信書房	1	7,018	電子BOOK
432	教育心理学の新しいかたち(心理学の新しいかたち7)	誠信書房	1	7,744	電子BOOK
433	教育臨床心理学ー愛・いやし・人権そして回復ー	東京大学出版会	1	9,825	電子BOOK
434	子どもたちは教室で何を学ぶのかー教育実践論から学習実践論へー	東京大学出版会	1	11,519	電子BOOK
435	自己と関わり創造学ーセルフスタディの教育研究ー第2版	大学教育出版	1	2,299	電子BOOK
436	超デジタル時代の「学び」ーいかにけん知の復権をめざしてー	新曜社	1	4,247	電子BOOK
437	発達と臨床援助の心理学(教育心理学2)	東京大学出版会	1	9,825	電子BOOK
438	道徳教育の根拠を問うー大自然の摂理に学ぶー	学文社	1	7,623	電子BOOK
439	道徳教育の方法ー理論と実践ー(放送大学叢書042)	左右社	1	6,050	電子BOOK
440	子どもの貧困に向きあえる学校づくりー地域のなかのスクールソーシャルワーカーー	かもがわ出版	1	4,840	電子BOOK
441	多文化社会を生ききる子どもとスクールソーシャルワーカー	かもがわ出版	1	4,840	電子BOOK
442	入門学校教育相談ー知っておくべき基礎基本と実際の対応ー	学事出版	1	3,267	電子BOOK
443	被災地の子どもへの心に寄り添うー臨床心理学からのアドバイスー(早稲田大学ブックレット「震災後」に考える12)	早稲田大学出版部	1	2,420	電子BOOK
444	子どもの社会的発達	東京大学出版会	1	9,486	電子BOOK
445	児童文化の中に見られる言語表現	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
446	アメリカ合衆国公立学校で宗教一般を教える際のガイドライン	学事出版	1	2,178	電子BOOK
447	フィンランド・イギリス・アメリカ教育の成功の秘密ー現場教師が見つけた学校再生の決め手ー	学事出版	1	3,448	電子BOOK
448	学校と社会の現代史(放送大学叢書016)	左右社	1	6,050	電子BOOK
449	教員養成におけるべき地教育プログラムの研究	学事出版	1	5,445	電子BOOK
450	現代子どもの教育と福祉の法規事典	大学教育出版	1	4,356	電子BOOK
451	はじめての日本美術史	山川出版社	1	2,200	
452	天皇の美術史:1 古代国家と仏教美術	吉川弘文館	1	3,850	
453	天皇の美術史:3 乱世の王権と美術戦略	吉川弘文館	1	3,850	
454	天皇の美術史:4 雅の近世、花開く宮廷絵画	吉川弘文館	1	3,850	
455	日本美術のことばと絵(角川選書571)	KADOKAWA	1	1,980	
456	江戸の美術大図鑑	河出書房新社	1	5,280	
457	日本美術史の近代とその外部(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	3,410	
458	非常時のモダニズム:1930年代帝国日本の美術	東京大学出版会	1	8,140	
459	明治、このフシギな時代:2(新典社選書84)	新典社	1	1,100	
460	演劇のジャポニスム(近代日本演劇の記憶と文化5)	森話社	1	5,060	
461	地図で見る日本ハンドブック	原書房	1	3,080	
462	留学生のための日本事情入門:1冊でわかる最新日本の総合的紹介,改訂版	文理閣	1	2,200	
463	THIS IS JAPAN: 英国保守系Aが見た日本	太田出版	1	1,650	
464	異文化コミュニケーションのA to Z: 理論と実践の両面からわかる,改訂版	研究社	1	2,530	
465	〈花〉の構造: 日本文化の基層(ミネルヴァ現代叢書1)	ミネルヴァ書房	1	2,200	
466	大学生のための異文化・国際理解: 差異と多様性への誘い	丸善出版	1	2,420	
467	日本文化入門: その基層から美意識まで	武蔵野書院	1	2,530	
468	日本語: 文字と言葉がつづいた国(講談社選書メテエ653)	講談社	1	1,650	
469	辺境の思想: 日本と香港から考える	文藝春秋	1	1,980	
470	明治・大正の日本論・中国論: 比較文化学的研究	勉誠出版	1	3,850	
471	ガンコ親父の教育論ー折れない子どもの育て方ー	三和書籍	1	5,445	電子BOOK
472	〈わたし〉の再構築と社会・生涯教育ーグローバル化・少子高齢社会そして大学ー	大学教育出版	1	4,235	電子BOOK
473	シリアスゲームー教育・社会に役立つデジタルゲームー	東京電機大学出版局	1	5,343	電子BOOK
474	よりよい親子関係を築くためにー成長の発達段階に応じた対応ー	勉誠出版	1	4,840	電子BOOK
475	家族の再生のために:(家庭は子どもの教育の原点)	勉誠出版	1	4,840	電子BOOK
476	家庭における人間形成ー子どもの自立を考えるー	勉誠出版	1	4,356	電子BOOK
477	近代日本公民教育思想と社会教育ー戦後公民館構想の思想構造ー	大学教育出版	1	4,356	電子BOOK
478	現代社会教育・生涯学習の諸相 第2巻: 現代編	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
479	社会教育・生涯学習の再編とソーシャル・キャピタル	大学教育出版	1	2,904	電子BOOK
480	社会教育における防災教育の展開	大学教育出版	1	4,356	電子BOOK
481	社会教育福祉の諸相と課題ー欧米とアジアの比較研究ー	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
482	協働型社会と地域生涯学習支援	法律文化社	1	17,908	電子BOOK
483	人が生きる社会と生涯学習ー弱くある私たちが結びつくことー	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
484	世界の生涯学習ー現状と課題ー	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
485	生きることとしての学びー2010年代・自生する地域コミュニティと共変化する人々ー	東京大学出版会	1	17,545	電子BOOK
486	生涯学習論入門 改訂版	法律文化社	1	6,050	電子BOOK
487	気になる子の本当の発達支援 新版(これからの保育シリーズ3)	風鳴舎	1	6,776	電子BOOK
488	「はう運動あそび」で育つ子どもたち(河添理論の保育実践パート2)	大月書店	1	4,259	電子BOOK
489	こうすればうまくいく!自閉症スペクトラムの子どもの保育ーイラストですぐにわかる対応法ー	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
490	障害児保育は「子ども理解」の場づくり	かもがわ出版	1	5,324	電子BOOK
491	生活とあそびで育つ子どもたち(河添理論の保育実践[パート1])	大月書店	1	4,259	電子BOOK
492	エッセンシャル特別支援教育コーディネーター 第2版	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
493	学習障害「幼」児の学習意欲と遊び学習の支援ー三川村秀忠選集ー	慶應義塾大学出版会	1	9,292	電子BOOK
494	教師と子どもの共同による学びの創造ー特別支援教育の授業づくりと主体性ー	大学教育出版	1	2,420	電子BOOK
495	視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える	慶應義塾大学出版会	1	6,776	電子BOOK
496	視覚障害教育に携わる方のために5訂版	慶應義塾大学出版会	1	10,164	電子BOOK
497	自閉症児の教育マニュアルー決定版ロヴァス法による行動分析治療ー	ダイヤモンド社	1	36,300	電子BOOK
498	障害の重い子どもの目標設定ガイドー授業における「学習到達度チェックリスト」の活用ー	慶應義塾大学出版会	1	3,388	電子BOOK

内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
499	障害児と教育その心―肢体不自由教育を考える―	慶應義塾大学出版会	1	6,201	電子BOOK
500	障害児授業実践の教授学的研究	大学教育出版	1	5,566	電子BOOK
501	知的障害児の教育 第2版	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
502	東日本大震災と特別支援教育―共生社会にむけた防災教育を―	慶應義塾大学出版会	1	10,184	電子BOOK
503	特別支援教育の新たな展開(学習者の多様なニーズと教育政策 続)	勁草書房	1	8,470	電子BOOK
504	特別支援教育はいま(こころの科学 163)	日本評論社	1	4,148	電子BOOK
505	こうすればうまくいくADHDのある子どもの保育―イラストですぐにわかる対応法―	中央法規出版	1	3,872	電子BOOK
506	こうすればうまくいく知的障害のある子どもの保育―イラストですぐにわかる対応法―	中央法規出版	1	3,872	電子BOOK
507	創発の生命学: 生命が1ギガバイトから抜け出すための30章	青土社	1	2,420	
508	生物をシステムとして理解する: 細胞とラジオは同じ!? (共立スマートセレクション 27)	共立出版	1	1,980	
509	時をあやつる遺伝子(岩波科学ライブラリー 275)	岩波書店	1	1,430	
510	文科系のための遺伝子入門: よくわかる遺伝リテラシー	新曜社	1	1,540	
511	遺伝子: 親密なる人類史: 下	早川書房	1	2,750	
512	遺伝子: 親密なる人類史: 上	早川書房	1	2,750	
513	性の進化史: いまの染色体で何が起きているのか(新潮選書)	新潮社	1	1,430	
514	「糖」が解き明かす人類進化の謎: なぜヒトの脳は大きくなったのか	日本評論社	1	1,870	
515	植物は(未来)を知っている: 9つの能力から芽生えるテクノロジー革命	NHK出版	1	2,200	
516	嗅覚はどう進化してきたか: 生き物たちの匂い世界(岩波科学ライブラリー 278)	岩波書店	1	1,540	
517	愛と分子: 惹かれあう二人のケミストリー	東京化学同人	1	1,850	
518	動物たちの内なる生活: 森林管理官が聴いた野生の声	早川書房	1	1,760	
519	「おしどり夫婦」ではない鳥たち(岩波科学ライブラリー 276)	岩波書店	1	1,320	
520	山極寿一×鎌田浩毅対談と学ぶ: 家族の起源と人類の未来(MINERVA知の白熱講義 1)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
521	免疫の科学論: 偶然性と複雑性のゲーム	みすず書房	1	5,280	
522	授業力アップアクティブラーニング―グループ学習・IGT活用・PBL―	実教出版	1	6,050	電子BOOK
523	大学カリキュラムの再編成―これからの学士教育―	玉川大学出版部	1	9,880	電子BOOK
524	大学のカリキュラム改革(高等教育シリーズ 122)	玉川大学出版部	1	6,776	電子BOOK
525	キャリア教育論―仕事・学び・コミュニティ―	慶應義塾大学出版会	1	6,776	電子BOOK
526	学生時代にキャリア力を身につけよう(21世紀南山の経済学 8)	日本経済評論社	1	1,270	電子BOOK
527	実践キャリア考―体験からキャリアを考える―	実教出版	1	3,993	電子BOOK
528	大学生の職業意識とキャリア教育―will can must―	勁草書房	1	7,502	電子BOOK
529	大学1・2年生のためのすぐわかる中国語, 改訂版	東京図書	1	2,640	
530	大学2年生のための中国語, 第2版	慶應義塾大学出版会	1	1,540	
531	中日辞典, 第3版	小学館	1	8,250	
532	作家と楽しむ古典: 古事記 日本書紀 心経集 竹取物語 宇治拾遺物語 百人一首	河出書房新社	1	1,430	
533	作家と楽しむ古典: 土佐日記 埴中納言物語 枕草子 方丈記 徒然草	河出書房新社	1	1,540	
534	作家と楽しむ古典: 平家物語 能・狂言 説経節 義経千本桜	河出書房新社	1	1,650	
535	現代作家アーカイヴ: 自身の創作活動を語る: 1 高橋源一郎 古井由吉 瀬戸内寂聴	東京大学出版会	1	2,420	
536	現代作家アーカイヴ: 自身の創作活動を語る: 3 島田雅彦 林京子 黒井千次	東京大学出版会	1	2,420	
537	胃弱・痲癩・夏目漱石: 持病で読み解く文士の生涯(講談社選書メチエ 685)	講談社	1	2,090	
538	村上春樹語訳(ほとんど)全仕事	中央公論新社	1	1,650	
539	大佛次郎: 一代初心(ミネルヴァ日本評伝選)	ミネルヴァ書房	1	3,520	
540	唐木順三: あめつちとともに(ミネルヴァ日本評伝選)	ミネルヴァ書房	1	4,400	
541	保田與重郎: 吾が民族ノ永遠ヲ信ズル故ニ(ミネルヴァ日本評伝選)	ミネルヴァ書房	1	4,400	
542	乱歩と正史: 人はなぜ死の夢を見るのか(講談社選書メチエ 655)	講談社	1	2,145	
543	漱石と日本の近代: 下(新潮選書)	新潮社	1	1,430	
544	漱石と日本の近代: 上(新潮選書)	新潮社	1	1,430	
545	漱石辞典	翰林書房	1	8,580	
546	楠本人麻呂(人物叢書 新装版 通巻288)	吉川弘文館	1	2,310	
547	式子内親王: たえだえかかる雪の玉水(ミネルヴァ日本評伝選)	ミネルヴァ書房	1	3,850	
548	平家物語作中人物事典	東京堂出版	1	4,950	
549	家庭支援論, 第2版(基本保育シリーズ 13)	中央法規出版	1	2,200	
550	児童家庭福祉, 第2版(基本保育シリーズ 3)	中央法規出版	1	2,200	
551	保育実践と児童家庭福祉論	勁草書房	1	2,200	
552	経済学者、待機児童ゼロに挑む	新潮社	1	1,650	
553	東日本大震災・放射能災害下の保育: 福島の実態から保育の原点を考える	ミネルヴァ書房	1	3,850	
554	保育現場の子ども虐待対応マニュアル: 予防から発見・通告・支援のシステムづくり	中央法規出版	1	2,420	
555	保育小六法: Handy Compendium of Japanese Laws on ECCE, 2018	ミネルヴァ書房	1	1,760	
556	社会的養護, 第2版(基本保育シリーズ 6)	中央法規出版	1	2,200	
557	0歳からはじまるオランダの性教育	日本評論社	1	1,870	
558	0歳～6歳子どもの発達と保育の本, 第2版(Gakken保育Books)	学研プラス	1	1,870	
559	テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ	ミネルヴァ書房	1	3,080	
560	記入に役立つ保育がわかる実習の記録と指導案: 0～5歳児年齢別実習完全サポート, 改訂新版	ひかりのくに	1	1,540	
561	最新保育資料集: 保育・幼児教育に関する法制と基本データ: 2018	ミネルヴァ書房	1	2,200	
562	子どもの心を育てる新保育論のために: 「保育する」営みをエピソードに綴る	ミネルヴァ書房	1	2,420	
563	子どもの豊かな育ちを支える保育者論	ミネルヴァ書房	1	3,080	
564	子どもの未来を育む保育・教育の実践知: 保育者・教師を目指すあなたに	北大路書房	1	2,530	
565	実習日誌の書き方: 幼稚園・保育所実習, 第2版	萌文書林	1	1,760	
566	保育と心理臨床をつなぐ: 保育者・心理職・保護者の協働をめざして	ミネルヴァ書房	1	2,750	
567	保育の仕事: 子どもの育ちをみつめて	金子書房	1	1,980	
568	保育園・認定こども園のための保育実習指導ガイドブック: 人を育てることは自分自身が育つこと	中央法規出版	1	2,420	
569	保育原理(新しい保育講座 1)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
570	保育原理, 第2版(基本保育シリーズ 1)	中央法規出版	1	2,200	
571	保育実習ガイドブック: 理論と実践をつなぐ12の扉	ミネルヴァ書房	1	2,420	
572	保育実習指導のミニマムスタンダード: 「協働」する保育士養成, Ver.2	中央法規出版	1	3,300	
573	保育者のための教育と福祉の事典, 改訂	建邦社	1	3,300	
574	保育者論(新しい保育講座 2)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
575	保育者論, 第2版(基本保育シリーズ 7)	中央法規出版	1	2,200	
576	保育政策の国際比較: 子どもの貧困・不平等に世界の保育はどう向き合っているか	明石書店	1	3,520	
577	「子どもがケアする世界」をケアする: 保育における「二人称的アプローチ」入門	ミネルヴァ書房	1	2,420	
578	レゾ・アプローチ: 世界で最も注目される幼児教育	文藝春秋	1	1,705	
579	保育者のための子どもの「怒り」へのかわり方: アンガーマネジメントのテクニック	中央法規出版	1	1,760	
580	なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか: 子どもの豊かな育ちを保障するために	ミネルヴァ書房	1	3,850	
581	スウェーデンに学ぶドキュメンテーションの活用: 子どもから出発する保育実践	新評論	1	2,640	

内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
582	育み支え合う保育リーダーシップ: 協働的な学びを生み出すために	明石書店	1	2,640	
583	質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする: 保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM	ミネルヴァ書房	1	2,860	
584	保育を語り合う「協働型」園内研修のすすめ: 組織の活性化と専門性の向上に向けて	中央法規出版	1	2,200	
585	保育環境における「境の場所」	ナカニシヤ出版	1	7,700	
586	(平成30年施行)保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント	ミネルヴァ書房	1	1,650	
587	10の姿プラス5・実践解説書:「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)と重要事項(プラス5)を見える化!	ひかりのくに	1	2,750	
588	3法令から読み解く乳幼児の教育・保育の未来: 現場で活かすヒント	中央法規出版	1	1,980	
589	保育所保育指針解説	フレーベル館	1	352	
590	保育内容総論 第2版 (基本保育シリーズ 15)	中央法規出版	1	2,200	
591	幼稚園教育要領解説	フレーベル館	1	264	
592	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説: 平成30年3月	フレーベル館	1	385	
593	保育をひらく造形表現 第2版	萌文書林	1	2,530	
594	「体を動かす遊びのための環境の質」評価スケール: 保育における乳幼児の運動発達を支えるために	明石書店	1	2,530	
595	保育と幼児期の運動あそび 第2版	萌文書林	1	2,200	
596	インクルーシブ保育における児童の社会的相互作用と保育者の役割: 誰がいのある子どもとない子どもをどう扱うか(埼玉学園大学研究員会 第15巻)	福村出版	1	4,400	
597	エピソードで学ぶ子どもの発達と保護者支援: 発達障害・家族システム・障害受容から考える	明石書店	1	1,760	
598	よくわかる障害児保育 第2版(やわらかアカデミズム・くわがる)シリーズ	ミネルヴァ書房	1	2,750	
599	多様性がいきるインクルーシブ保育: 対話と活動が生み出す豊かな実践に学ぶ	ミネルヴァ書房	1	2,420	
600	発達に気になる子どもの行動が変わる保育者のためのABI(活動に根ざした介入)実践事例集	福村出版	1	1,980	
601	発達に気になる子どもの療育・発達支援入門: 目の前の子どもから学べる専門家を目指して	金子書房	1	2,310	
602	知っておきたい気になる子どもの手先の器用さのアセスメント: PVT(指接テスト)の手引と検査用具(乳幼児期における発達障害者の理解と支援 3)	ミネルヴァ書房	1	3,300	
603	子どもの食生活: 栄養・食育・保育 第3版	ななみ書房	1	2,640	
604	カナダ人権史: 多文化共生社会はこうして築かれた(世界歴史叢書)	明石書店	1	3,960	
605	人権入門: 憲法/人権/マイノリティ 第3版	法律文化社	1	2,310	
606	世界の人権保障	三省堂	1	2,860	
607	いちばんやさしい憲法入門 第5版(有斐閣アルマ Interest)	有斐閣	1	1,760	
608	いま日本国憲法は: 原点からの検証 第6版	法律文化社	1	3,300	
609	プレステップ憲法 第2版 (PRE-STEP 17)	弘文堂	1	1,980	
610	ベーシックテキスト憲法 第3版	法律文化社	1	2,860	
611	基本憲法: 1 基本的人権	日本評論社	1	3,300	
612	憲法 第6版	日本評論社	1	4,180	
613	憲法 第7版(新法学ライブラリ 2)	新世社	1	3,740	
614	憲法: 1 総論・統治 第2版 (LEGAL QUEST)	有斐閣	1	2,970	
615	憲法: 2 人権 第2版 (LEGAL QUEST)	有斐閣	1	3,190	
616	憲法: Japanese Constitutional Law 第3版	有斐閣	1	6,490	
617	憲法学読本 第3版	有斐閣	1	2,970	
618	憲法入門 6訂	勁草書房	1	1,980	
619	憲法判例: Constitutional Law: Cases and Comments 第8版	有斐閣	1	3,630	
620	事例問題から考える憲法: Rethinking Constitutional Law through Cases (法学教室LIBRARY)	有斐閣	1	2,420	
621	図録日本国憲法	弘文堂	1	2,530	
622	目で見る憲法 第5版	有斐閣	1	1,760	
623	立憲主義と日本国憲法: Constitutionalism and the Constitution of Japan 第4版	有斐閣	1	3,410	
624	歴史から読み解く日本国憲法 第2版	法律文化社	1	2,860	
625	自衛隊と憲法: これからの改憲論議のために(厚の教室-Liberal Arts Lab-)	晶文社	1	1,595	
626	■遊びの創造共育法 全7巻セット	玉川大学出版部	1	59,290	電子BOOK
627	学校文化の比較社会学 一日本とイギリスの中等教育一	東京大学出版会	1	10,527	電子BOOK
628	ユーキャンの園の行事なんでも大百科 二実例つき一(U-CANの保育スマイルBOOKS)	ユーキャン	1	7,865	電子BOOK
629	ユーキャンの先輩保育者の教科書 (U-CANの保育スマイルBOOKS)	ユーキャン	1	3,630	電子BOOK
630	ユーキャンの保育者1年目の教科書 (U-CANの保育スマイルBOOKS)	ユーキャン	1	3,630	電子BOOK
631	「体験」が感性を育む造形あそび (これからの保育シリーズ 6)	風鳴舎	1	7,502	電子BOOK
632	絵本から広がる遊びの世界 一読みあう絵本一(これからの保育シリーズ 4)	風鳴舎	1	7,986	電子BOOK
633	好奇心が育む遊びの世界 二発見!実験!遊びの中のサイエンス一(これからの保育シリーズ 5)	風鳴舎	1	7,986	電子BOOK
634	認定こども園がわかる本 (これからの保育シリーズ 2)	風鳴舎	1	7,139	電子BOOK
635	保育士・幼稚園教師のための保護者支援 一保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援 新版(これからの保育シリーズ 1)	風鳴舎	1	6,776	電子BOOK
636	「遊びの保育」の必須アイテム (保育のなかの遊び論 part2)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
637	3法令から読み解く乳幼児の教育・保育の未来 一現場で活かすヒント一	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
638	こうすればうまくいく!医療的配慮の必要な子どもの保育 一30の病気の対応ポイントがわかる一	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
639	これからの保育と教育 一未来を見すえた人間形成一	八千代出版	1	4,356	電子BOOK
640	育ちあいの場づくり論 (子どもに学んだ和光の保育 希望編)	ひとなる書房	1	6,050	電子BOOK
641	響きあういのちの躍動 (子どもに学んだ和光の保育 葛藤編)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
642	子どもの遊びにも「選」を求めて 一保育実践を支えるリアリティとファンタジーの多層構造一(敬愛大学学術叢書 14)	白桃書房	1	9,922	電子BOOK
643	子どもをあずかる人のための救命マニュアル	学研メディカル秀暁社	1	6,534	電子BOOK
644	子育て環境と子育て支援 二よい長時間保育のみわけかた一	勁草書房	1	8,712	電子BOOK
645	食をつなげる、食でつなげる 一八国山保育園の食一	新曜社	1	4,174	電子BOOK
646	保育の中の子ども達 二ともに歩む日々一	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
647	保育をゆたかに絵本でコミュニケーション	かがわ出版	1	4,840	電子BOOK
648	幼児教育のデザイン 二保育の生態学一	東京大学出版会	1	8,470	電子BOOK
649	エピソードでわかるクラス運営に役立つスキル (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
650	個性がキラリ0・1・2歳児の指導計画の立て方 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
651	個性がキラリ3・4・5歳児の指導計画の立て方 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
652	根拠がわかる私の保育総点検 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
653	子どもイキイキ園生活が充実する「すきま遊び」 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
654	自信がもてる育ちを支える食事の基本 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
655	失敗から学ぶ保護者とのコミュニケーション (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
656	写真で学ぶ保育現場のリスクマネジメント (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
657	保育の視点がわかる!観察にもとづく記録の書き方 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
658	遊びにつなぐ!場面から読み取る子どもの発達 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
659	「気になる子」と言わない保育 一こんなときどうする?考え方と手立て一(保育実践力アップシリーズ 1)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
660	記録を書かず書けない人 一楽しく書いて保育が変わるシナリオ型記録一(保育実践力アップシリーズ 3)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
661	子どもとつながる子どもがつながる 二保育の目的・つけどころ・動・どころ一(保育実践力アップシリーズ 2)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
662	1・2歳児の自己肯定感の土台を育む 一泣いて笑って育ちあう16人の物語一(年齢別・保育研究)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
663	AI時代に勝つ子・負ける子 (週刊東洋経済eビジネス新書 No.265)	東洋経済新報社	1	1,766	電子BOOK
664	おさなごころを科学する 二進化する乳幼児期一	新曜社	1	4,356	電子BOOK

内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
665	なるほど幼児教育 ―育児のために知っておきたいこと―	勉誠出版	1	4,356	電子BOOK
666	個性はどう育つか (大修館・ドルフィン・ボックス)	大修館書店	1	5,142	電子BOOK
667	子どもはテレビをどう見るか ―テレビ理解の心理学―	勁草書房	1	8,833	電子BOOK
668	赤ちゃんの心理学	日本評論社	1	7,986	電子BOOK
669	遊びのリアリティー ―事例から読み解く子どもの豊かさと奥深さ―	新曜社	1	4,356	電子BOOK
670	ふしぎの心をふくらませる (『自然の教育』カリキュラム: けやの森学園幼稚園・保育園: いっぱいの感動と表現する喜び 年中編)	ひとなる書房	1	6,050	電子BOOK
671	ふれる・感じる・気づく (『自然の教育』カリキュラム: けやの森学園幼稚園・保育園: いっぱいの感動と表現する喜び 年少編)	ひとなる書房	1	6,050	電子BOOK
672	冒険する・仲間と学びあう (『自然の教育』カリキュラム: けやの森学園幼稚園・保育園: いっぱいの感動と表現する喜び 年少編)	ひとなる書房	1	6,050	電子BOOK
673	ごっこ遊び ―自然・自我・保育実践―	ひとなる書房	1	7,260	電子BOOK
674	こどもがえがく・こどもがつくる (九州合研ブックレット: 保育っておもしろい!)	かもがわ出版	1	2,178	電子BOOK
675	絵は子どものメッセージ ―聴く楽しさ、響き合うよろこび―	かもがわ出版	1	4,840	電子BOOK
676	心おどる造形活動 ―幼稚園・保育園の保育者に求められるもの―	大学教育出版	1	2,904	電子BOOK
677	生きる力を育む自然の教育 ―幼児にいっぱいの感動と表現する喜びを―	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
678	幼児の器械運動あそび	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
679	子どもの健康福祉指導ガイド	大学教育出版	1	1,815	電子BOOK
680	子どもの健康福祉指導ガイド 2	大学教育出版	1	1,452	電子BOOK
	合計		680	3,164,535	

外国書

No.	Title	出版社	冊数	納品税込価格
1	Supporting Children and Young People in Schools	Routledge	1	21,129
2	Statistics in Early Childhood and Primary Education	Springer Singapore	1	26,180
3	Understanding Education Research	Routledge	1	24,090
4	Handbook of Giftedness in Children	Springer International Publishing	1	37,950
5	Psychology for Teachers	Sage Pub.	1	17,237
6	Early Childhood Education and Change in Diverse Cultural Contexts	Routledge	1	23,100
7	Learning and Teaching Around the World	Routledge	1	21,175
8	Teaching and Learning for Intercultural Understanding	Routledge	1	21,175
9	The Wiley Handbook of Educational Policy	Wiley	1	29,810
10	Building Effective Professional Development in Elementary School	Routledge	1	19,195
11	Creating Your Dream Elementary Classroom from the Inside Out	Routledge	1	23,870
12	Learning to Teach in the Primary School	Routledge	1	23,870
13	School-based Partnerships in Teacher Education	Springer Singapore	1	19,294
14	Instructional Risk in Education	Routledge	1	21,208
15	Building Competence in School Consultation	Routledge	1	19,195
16	Home-School Relations	Springer Singapore	1	19,294
17	How to Develop Partnerships with Parents	Routledge	1	22,198
18	Academic Achievement Assessment	Springer Verlag	1	19,294
19	Developing Creativity and Curiosity Outdoors	Routledge	1	21,208
20	Contemporary Research and Perspectives on Early Childhood Mathematics Education	Springer International Publishing	1	19,294
21	Problem Solving in Primary Mathematics	Routledge	1	21,208
22	Keywords in the Social Studies	Peter Lang	1	3,091
23	The Wiley International Handbook of History Teaching and Learning	Wiley	1	29,810
24	Geography Education for Global Understanding	Springer International Publishing	1	15,851
25	Understanding and Teaching Primary Geography	Sage Pub.	1	13,255
26	Early Years Science Education	Routledge	1	23,100
27	World Music Pedagogy	Routledge	1	22,198
28	World Music Pedagogy	Routledge	1	22,198
29	Early Childhood Education Redefined	Routledge	1	21,208
30	Learning Theories for Early Years Practice	Sage Pub.	1	13,255
31	Nature and Young Children	Routledge	1	21,208
32	Reconsidering The Role of Play in Early Childhood	Routledge	1	23,226
33	Jumpstart! Assemblies	Routledge	1	26,400
34	Understanding Teaching and Learning in Primary Education	Sage Pub.	1	15,235
35	Transforming Perspectives in Lifelong Learning and Adult Education	Palgrave Macmillan	1	15,851
	合 計		35	736,860

視聴覚資料

NO	タイトル	出版社	本数	納入税込価格
1	国語科指導技術シリーズ「授業の効果を高める板書の工夫」全3巻	ジャパンライム株式会社	3	¥27,720
2	国語科指導技術シリーズ2「導入から課題作りへ」全4巻	ジャパンライム株式会社	4	¥38,016
3	子どものためのカウンセリング 全2巻	丸善出版株式会社	2	¥71,280
4	幼児の育ちと造形 全2巻	新宿スタジオ	2	¥59,400
5	主体的学び・対話的学び・深い学びへのアプローチ 全4巻	新宿スタジオ	4	¥59,400
6	保育士・幼稚園教諭になるために 全3巻	新宿スタジオ	3	¥89,100
	合 計		18	¥344,916

教育・保育実習先の一覧

①教育実習Ⅰ(小)

	施設数
河内長野市教育委員会	13
富田林教育委員会	16
橋本市教育委員会	15
大阪狭山市教育委員会	7
南河内郡河南町教育委員会	4
南河内郡千早赤阪村教育委員会	2
合計	57

②教育実習Ⅱ(幼1)・教育実習Ⅲ(幼2)

	施設数
私立	11
富田林教育委員会	8
大阪狭山市教育委員会	2
河南町教育委員会	1
合計	22

③保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅱ/保育実習Ⅰ(福祉施設)・保育実習Ⅲ

	施設数
認定こども園・保育所	19
福祉施設	10
合計	29

◎教育実習 I (小)

・河内長野市立小学校 (大阪府)

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	河内長野市立千代田小学校	河内長野市木戸町 649	5
2	河内長野市立長野小学校	河内長野市西代町 14-1	7
3	河内長野市立小山田小学校	河内長野市小山田町 590-1	3
4	河内長野市立天野小学校	河内長野市下里町 365	2
5	河内長野市立高向小学校	河内長野市高向 86	1
6	河内長野市立三日市小学校	河内長野市上田町 380	6
7	河内長野市立加賀田小学校	河内長野市加賀田 568-1	2
8	河内長野市立天見小学校	河内長野市天見 2370-1	1
9	河内長野市立楠小学校	河内長野市楠町東 1011	4
10	河内長野市立石仏小学校	河内長野市石仏 662	2
11	河内長野市立川上小学校	河内長野市清見台 4-18-1	2
12	河内長野市立美加の台小学校	河内長野市美加の台 3-25-1	3
13	河内長野市立南花台小学校	河内長野市南花台 2-11-1	2

・富田林市立小学校(大阪府)

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	富田林市立富田林小学校	富田林市常盤町 16 番 20 号	1
2	富田林市立新堂小学校	富田林市若松町四丁目 5 番 4 号	1
3	富田林市立喜志小学校	富田林市木戸山町 1 番 36 号	1
4	富田林市立大伴小学校	富田林市南大伴町一丁目 2 番 20 号	1
5	富田林市立彼方小学校	富田林市大字彼方 411 番地	1
6	富田林市立錦郡小学校	富田林市錦織南一丁目 8 番 1 号	1
7	富田林市立川西小学校	富田林市新家一丁目 3 番 1 号	1
8	富田林市立東条小学校	富田林市大字龍泉 566 番地	1
9	富田林市立高辺台小学校	富田林市高辺台三丁目 1 番 1 号	1
10	富田林市立久野喜台小学校	富田林市久野喜台一丁目 16 番 1 号	1
11	富田林市立寺池台小学校	富田林市寺池台四丁目 3 番 1 号	1
12	富田林市立伏山台小学校	富田林市伏山二丁目 1 番 1 号	1
13	富田林市立喜志西小学校	富田林市梅の里四丁目 6 番 1 号	1
14	富田林市立藤沢台小学校	富田林市藤沢台二丁目 3 番 1 号	1

資料 12

15	富田林市立小金台小学校	富田林市小金台三丁目 11 番 1 号	1
16	富田林市立向陽台小学校	富田林市向陽台五丁目 1 番 1 号	1

・橋本市立小学校（和歌山県）

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	橋本市立橋本小学校	和歌山県橋本市市脇 5-3-8	1
2	橋本市立紀見小学校	和歌山県橋本市柿の木坂 25-1	1
3	橋本市立境原小学校	和歌山県橋本市小峰台 1-25-1	1
4	橋本市立柱本小学校	和歌山県橋本市紀見ヶ丘 2-20-1	1
5	橋本市立西部小学校	和歌山県橋本市柏原 554-2	1
6	橋本市立学文路小学校	和歌山県橋本市学文路 900	1
7	橋本市立清水小学校	和歌山県橋本市清水 2014	1
8	橋本市立恋野小学校	和歌山県橋本市赤塚 129-1	1
9	橋本市立隅田小学校	和歌山県橋本市隅田町垂井 20	1
10	橋本市立あやの台小学校	和歌山県橋本市あやの台 2-17	1
11	橋本市立城山小学校	和歌山県橋本市城山台 2-10-2	1
12	橋本市立三石小学校	和歌山県橋本市三石台 2-1-1	1
13	橋本市立高野口小学校	和歌山県橋本市高野口町名倉 226	1
14	橋本市立応其小学校	和歌山県橋本市高野口町名古屋 19-1	1
15	橋本市立信太小学校	和歌山県橋本市高野口町九重 87-1	1

・大阪狭山市立小学校（大阪府）

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	大阪狭山市立東小学校	大阪狭山市狭山三丁目 2497 番地の 1	1
2	大阪狭山市立西小学校	大阪狭山市今熊一丁目 22 番地	1
3	大阪狭山市立南第一小学校	大阪狭山市西山台三丁目 2 番 1 号	1
4	大阪狭山市立南第二小学校	大阪狭山市大野台三丁目 23 番 1 号	1
5	大阪狭山市立南第三小学校	大阪狭山市西山台六丁目 19 番 7 号	1
6	大阪狭山市立北小学校	大阪狭山市池尻北二丁目 20 番 7 号	1
7	大阪狭山市立第七小学校	大阪狭山市東菜葉木二丁目 865 番地	1

・大阪府南河内郡河南町小学校（大阪府）

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	河南町立河内小学校	大阪府南河内郡河南町さくら坂 1 丁目 1-1	1
2	河南町立白木小学校	大阪府南河内郡河南町加納 740	1
3	河南町立近つ飛鳥小学校	大阪府南河内郡河南町大宝 3 丁目 4-1	1
4	河南町立中村小学校	大阪府南河内郡河南町神山 19	1

・大阪府南河内郡千早赤阪村立小学校（大阪府）

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	千早赤阪村立赤阪小学校	大阪府南河内郡千早赤阪村水分 56	1
2	千早赤阪村立千早小吹台小学校	大阪府南河内郡千早赤阪村大字小吹 68-780	1

◎教育実習Ⅱ(幼1)・教育実習Ⅲ(幼2)（私立幼稚園一覧：11園）

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	勝山愛和青葉台幼稚園	河内長野市南青葉台 1-1	4
2	長野こども学園	河内長野市古野町 2-14	8
3	奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園	河内長野市大矢船中町 10-1	4
4	長野台幼稚園	河内長野市緑ヶ丘中町 8-8	4
5	えびーく幼稚園	河内長野市美加の台 2-28-1	6
6	ひなぎく幼稚園	河内長野市木戸 1-5-8	12
7	清教学園幼稚園	河内長野市西代町 9-11	20
8	大阪千代田短期大学附属幼稚園	河内長野市楠町西 1090	10
9	くすのき幼稚園	河内長野市末広町 623 - 23	12
10	おしお幼稚園	河内長野市南花台 1-27-1	8
11	錦溪幼稚園	河内長野市古野町 12-1	12

◎教育実習Ⅱ(幼1)・教育実習Ⅲ(幼2)（公立幼稚園一覧：11園）

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	富田林市立幼稚園錦郡幼稚園	大阪府富田林市錦織南 1 丁目 2-10	2
2	富田林市立幼稚園富田林幼稚園	大阪府富田林市常盤町 15-1	2

3	富田林市立幼稚園喜志西幼稚園	大阪府富田林市梅の里 4 丁目 7-1	2
4	富田林市立幼稚園彼方幼稚園	大阪府富田林市大字彼方 325-1	2
5	富田林市立幼稚園津々山台幼稚園	大阪府富田林市津々山台 1 丁目 20-9	2
6	富田林市立幼稚園大伴幼稚園	大阪府富田林市南大伴町 1 丁目 2-5	2
7	富田林市立幼稚園新堂幼稚園	大阪府富田林市若松町 4 丁目 7-1	2
8	富田林市立幼稚園喜志幼稚園	大阪府富田林市木戸山町 1-36	2
9	大阪狭山市立こども園	大阪府大阪狭山市西山台 6 丁目 19-12	2
10	大阪狭山市立幼稚園西幼稚園	大阪府大阪狭山市今熊 1 丁目 50	2
11	河南町立かなんこども園	大阪府南河内郡河南町大宝 1 丁目 29-1	1

◎保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅱ (認定こども園・保育所：19園)

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	高野山こども園	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 26-5	4
2	天野山保育園	河内長野市天野町 295-1	6
3	汐の宮保育園	河内長野市汐の宮町 8-39	4
4	高向保育園	河内長野市旭ヶ丘 34-14	4
5	聖愛保育園	河内長野市野作町 11-46	4
6	大典保育園	河内長野市小塩町 325-3	6
7	ちづる保育園	河内長野市木戸西町 3-7-6	6
8	観心寺保育園	河内長野市寺元 501-1	4
9	柳風台保育園	河内長野市木戸 3-9-1	6
10	南嶺保育園	河内長野市南花台 6-16-1	12
11	天宗清見台園	河内長野市清見台 1-14-1	12
12	美加の台保育園	河内長野市美加の台 1-35-7	4
13	おおさかちよだ保育園	河内長野市楠町西 1145	6
14	勝山愛和青葉台幼稚園	河内長野市南青葉台 1-1	4
15	長野こども学園	河内長野市古野町 2-14	4
16	ピープル久米田チャイルドスクール	大阪府岸和田市池尻町 695-7	10
17	ピープル八木南チャイルドスクール	大阪府岸和田市小松里町 1119	4
18	ピープル大芝チャイルドスクール	大阪府岸和田市磯上町 3-14-12	6
19	ピープル忠岡チャイルドスクール	大阪府泉北郡忠岡町忠岡 2-16-25	4

◎保育実習Ⅰ(福祉施設)・保育実習Ⅲ(福祉施設:10施設)

	実習施設名	所在地	受入れ 可能人数(名)
1	東光学園	大阪府堺市土塔町 2028	4
2	清心寮	大阪府堺市東上野芝町 2-499	3
3	岸和田学園	大阪府岸和田市三田町 911	4
4	六地学園	和歌山県橋本市谷 325	4
5	すみれ乳児院	大阪府大阪市城東区古市 1-20-80	12
6	和泉乳児院	大阪府泉大津市助松町 3-8-7	2
7	草笛の家	大阪府南河内郡河南町 1033-4	4
8	障がい者施設あまの園	大阪府河内長野市小山田町 67-8	4
9	岸和田光生療護園	大阪府岸和田市三ヶ山町 214-4	4
10	光が丘療護園	大阪府岸和田市三ヶ山町 379	2